

目次

基礎教養ゼミ（共通教養科目）	1
日本語表現法（共通教養科目）	2
日本国憲法（共通教養科目）	3
法学（共通教養科目）	4
経済学（共通教養科目）	5
社会学（共通教養科目）	6
生涯健康論（共通教養科目）	7
生涯学習概論（共通教養科目）	9
生命と環境の科学（共通教養科目）	10
国際関係論（共通教養科目）	11
体育理論（共通教養科目）	13
体育実技（共通教養科目）	14
キャリア形成論（共通教養科目）	15
哲学（共通教養科目）	17
倫理学（共通教養科目）	18
心理学（共通教養科目）	19
文学と人間（共通教養科目）	21
芸術論（共通教養科目）	22
ボランティア・市民活動論（共通教養科目）	23
人権論（共通教養科目）	25
人間関係論（共通教養科目）	26
ジェンダー論（共通教養科目）	27
共生の倫理（共通教養科目）	28
チーム医療アプローチ論（共通教養科目）	29
国際医療事情（共通教養科目）	30
Introduction to Healthcare Sciences（共通教養科目）	32
英語ⅠA（共通教養科目）	34
英語ⅠB（共通教養科目）	35
英語ⅡA（共通教養科目）	36
英語ⅡB（共通教養科目）	37
英語ⅢA（共通教養科目）	38
英語ⅢB（共通教養科目）	40
英語ⅣA（共通教養科目）	41
英語ⅣB（共通教養科目）	42
Integrated EnglishⅠ（共通教養科目）	43
Integrated EnglishⅡ（共通教養科目）	44
ドイツ語（共通教養科目）	45
フランス語（共通教養科目）	46
ポルトガル語（共通教養科目）	47
中国語（共通教養科目）	48
ハンゲル語（共通教養科目）	49
コンピュータ入門Ⅰ（共通教養科目）	50
コンピュータ入門Ⅱ（共通教養科目）	51
コンピュータ実習Ⅰ（共通教養科目）	52
コンピュータ実習Ⅱ（共通教養科目）	53
論理学（専門教養科目）	54

人間発達論（専門教養科目）	55
人間行動学（専門教養科目）	57
化学（専門教養科目）	58
統計学（専門教養科目）	59
生物学（専門教養科目）	60
生活科学概論（専門教養科目）	61
国際保健医療論（専門教養科目）	62
解剖学Ⅰ（理学療法専門基礎科目群）	63
解剖学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）	65
解剖学実習（理学療法専門基礎科目群）	66
生理学（理学療法専門基礎科目群）	68
生理学実習（理学療法専門基礎科目群）	69
運動学（理学療法専門基礎科目群）	71
運動学実習（理学療法専門基礎科目群）	73
生化学（理学療法専門基礎科目群）	75
栄養学Ⅰ（理学療法専門基礎科目群）	76
栄養学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）	77
病理学（理学療法専門基礎科目群）	78
薬理学（理学療法専門基礎科目群）	80
公衆衛生学（理学療法専門基礎科目群）	81
画像診断学（理学療法専門基礎科目群）	82
臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）（理学療法専門基礎科目群）	83
臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）（理学療法専門基礎科目群）	85
臨床医学Ⅲ（老年医学）（理学療法専門基礎科目群）	86
臨床医学Ⅳ（小児医学）（理学療法専門基礎科目群）	87
臨床医学Ⅴ（女性医学）（理学療法専門基礎科目群）	88
臨床医学Ⅵ（精神医学）（理学療法専門基礎科目群）	89
言語障害治療学（理学療法専門基礎科目群）	90
リスクマネジメント（理学療法専門基礎科目群）	91
整形外科学Ⅰ（理学療法専門基礎科目群）	93
整形外科学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）	94
神経内科学Ⅰ（理学療法専門基礎科目群）	95
神経内科学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）	96
リハビリテーション概論Ⅰ（理学療法専門基礎科目群）	97
リハビリテーション概論Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）	98
リハビリテーション統計学（理学療法専門基礎科目群）	100
臨床心理学（理学療法専門基礎科目群）	102
保健医療福祉行政論（理学療法専門基礎科目群）	103
社会調査特論（理学療法専門基礎科目群）	104
チーム医療アプローチ演習（理学療法専門基礎科目群）	105
社会福祉概論（理学療法専門基礎科目群）	106
理学療法概論（理学療法専門科目群）	107
理学療法基礎学（理学療法専門科目群）	108
理学療法基礎学実習（理学療法専門科目群）	110
理学療法セミナー1（理学療法専門科目群）	112
理学療法セミナー2（理学療法専門科目群）	114
理学療法セミナー3（理学療法専門科目群）	115
理学療法セミナー4（理学療法専門科目群）	116
理学療法研究法（理学療法専門科目群）	117
臨床運動学（理学療法専門科目群）	118

理学療法評価学Ⅰ（理学療法専門科目群）	119
理学療法評価学Ⅱ（理学療法専門科目群）	120
理学療法評価学実習Ⅰ（理学療法専門科目群）	121
理学療法評価学実習Ⅱ（理学療法専門科目群）	122
動作解析学（理学療法専門科目群）	123
動作解析学実習（理学療法専門科目群）	124
症候障害論（理学療法専門科目群）	126
運動器系理学療法学（理学療法専門科目群）	127
運動器系理学療法学実習（理学療法専門科目群）	128
神経系理学療法学（理学療法専門科目群）	130
神経系理学療法学実習（理学療法専門科目群）	131
内部障害系理学療法学（理学療法専門科目群）	133
内部障害系理学療法学実習（理学療法専門科目群）	134
日常生活活動学（理学療法専門科目群）	136
日常生活活動学実習（理学療法専門科目群）	137
義肢装具学（理学療法専門科目群）	139
義肢装具学演習（理学療法専門科目群）	140
物理療法学（理学療法専門科目群）	141
物理療法学実習（理学療法専門科目）	143
理学療法症例基盤型演習Ⅰ（理学療法専門科目群）	145
理学療法症例基盤型演習Ⅱ（理学療法専門科目群）	146
理学療法技術実習Ⅰ（理学療法専門科目群）	147
理学療法技術実習Ⅱ（共通教養科目）	149
スポーツ障害系理学療法（理学療法専門科目群）	151
嚙下障害系理学療法（理学療法専門科目群）	152
発達障害系理学療法（理学療法専門科目群）	153
産婦人科系理学療法学（理学療法専門科目群）	154
地域在宅理学療法学（理学療法専門科目群）	155
生活環境支援学（理学療法専門科目群）	156
生活環境支援学演習（理学療法専門科目群）	157
介護予防理学療法学（理学療法専門科目群）	158
理学療法早期体験実習（理学療法専門科目群）	159
機能・能力診断学臨床実習（理学療法専門科目群）	160
理学療法総合臨床実習Ⅰ（理学療法専門科目群）	161
理学療法総合臨床実習Ⅱ（理学療法専門科目群）	162
卒業研究（理学療法専門科目群）	163
運動指導実践論（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	164
運動指導の心理学的基礎（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	165
エアロビックダンスの実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	166
ジョギング・ウォーキングの実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	167
水泳・水中運動の実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	168
ストレッチングおよび補強運動の理論と実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	169
救急処置（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）	171

基礎教養ゼミ（共通教養科目）

担当者

浅香満、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

大学教育を受けるために必要な学習方法を学び、ものの見方や考え方を多角的に行うために事例検討などを通して考えを深める場を作る。そこで、様々な立場での考え方、共感する力、現実検討能力などの基礎を身につけて問題解決能力を高め、専門家になる前の人間力を高め、自ら専門性に必要な要素を見つける。

到達目標

学習方法が身に付き、考えをまとめ整理するスキルが獲得できる
社会における役割などの自覚が生まれ、責任ある行動がとれる

講義内容と講義計画

- 第1回 大学における学習への取り組みと学習方法について
- 第2回 自己分析と目標の立て方および生活管理について
- 第3回 基本的なコミュニケーションスキル
- 第4回 書くためのスキル（レポート作成など）
- 第5回 自分の考えをまとめて意見を述べる
- 第6回 物事を多角的な視点でとらえる ①社会問題（グループワーク）
- 第7回 物事を多角的な視点でとらえる ②医療問題（グループワーク）
- 第8回 物事を多角的な視点でとらえる ③倫理的問題（グループワーク）
- 第9回 物事を多角的な視点でとらえる ④道徳的問題（グループワーク）
- 第10回 物事を多角的な視点でとらえる ⑤問題解決方法（グループワーク）
- 第11回 社会人としての役割と責任について（グループワーク）
- 第12回 プロフェッショナルの条件について（グループワーク）
- 第13回 高齢社会について考える（グループワーク）
- 第14回 障がいをもつということ（グループワーク）
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート 70%、グループワークでの貢献度 30%

使用教材

随時、資料を渡します

授業外学習の内容

- ①予習：毎回の授業内容について参考書を参考に予習しておくこと
- ②復習：授業中のノートを整理してまとめ、わからなかったことを調べてみる
- ③関連する内容の資料をファイルにまとめて整理しておく

備考

質問は随時メールでも受け付ける（各担当教員の連絡先参照）

日本語表現法（共通教養科目）

担当者

案田順子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力低下が問題視されている中で、「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。同時に他者の「考え」を発言や文面から把握、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 「考え」をまとめるための 5 段階
- 第 2 回 日本語表現の基礎知識Ⅰ 「公的」と「私的」
- 第 3 回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第 4 回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第 5 回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第 6 回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法
- 第 7 回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第 8 回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第 9 回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第 10 回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第 11 回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第 12 回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第 13 回 文章の組み立て方Ⅱ 5WIH
- 第 14 回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第 15 回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（80%）・授業参加度（20%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通知する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるために授業後は必ずノートを整理し、課題を実施しておく。

備考

受講ルール: 私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード: 「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言: 「日本語」の基礎を再確認し、実力をつけるラストチャンスと考え、授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。担当者メールアドレス: janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（共通教養科目）

担当者

新田浩司

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択2単位、理学療法学科 2年後期 選択2単位

講義目標

法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。

到達目標

国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。また、一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 憲法の基礎知識(1)
- 第3回 憲法の基礎知識(2)
- 第4回 憲法の基礎知識(3)
- 第5回 日本国憲法の制定過程
- 第6回 日本国憲法の基本原理
- 第7回 国家の安全保障
- 第8回 精神的自由権(1)
- 第9回 精神的自由権(2)
- 第10回 経済的自由権
- 第11回 社会権(1)
- 第12回 社会権(2)
- 第13回 参政権、国務請求権
- 第14回 統治機構(1)
- 第15回 統治機構(2)

評価方法

期末試験の成績により評価する。

使用教材

名雪健二編著『公法基礎入門』（八千代出版）

授業外学習の内容

新聞等を読み、憲法や法律の理解を深めること。

備考

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。

メールアドレス：nitta@tcue.ac.jp

法学（共通教養科目）

担当者

新田浩司

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、法的思考（リーガル・マインド）は我々が社会人として身につけるべき能力であると言えよう。

到達目標

法的思考を身につけることにより、社会における様々なトラブルに対処できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 第1章 法と法学
- 第3回 第2章 法と国家
- 第4回 第3章 法と他の社会規範との関係
- 第5回 第4章 法の目的
- 第6回 第5章 法の構造
- 第7回 第6章 法の淵源
- 第8回 第7章 法の分類
- 第9回 第8章 法の解釈
- 第10回 第9章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関
- 第11回 第10章 法の効力
- 第12回 第11章 権利と義務
- 第13回 まとめ①
- 第14回 まとめ②
- 第15回 まとめ③

評価方法

出席状況ならびに期末試験の成績により評価する。

使用教材

名雪健二編著『公法基礎入門』（八千代出版）

授業外学習の内容

新聞等を読み、憲法や法律の理解を深めること。

備考

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。

メールアドレス：nitta@tcue.ac.jp

経済学（共通教養科目）

担当者

町田修三

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても、経済知識なしで投票に行くのは危険な気さえする。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本経済の現状を説明できる。
- ②新聞やテレビのニュースが難なく理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 日本経済の流れ（世界との比較のなかで）
- 第3回 経済政策の2大潮流－マーケット or ケインズ
- 第4回 需要と供給（需要曲線の意味）
- 第5回 市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）
- 第6回 価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）
- 第7回 国民所得（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）
- 第8回 国民所得（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）
- 第9回 財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）
- 第10回 景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）
- 第11回 金融（日本銀行は何をすところ？）
- 第12回 経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？）
- 第13回 為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）
- 第14回 世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）
- 第15回 まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%

使用教材

使用教材及び資料は毎回配布する。必修テキストは指定しないが、推薦したいテキスト、雑誌、論文、新聞記事等については、授業内で適宜紹介する。

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること。

備考

社会学（共通教養科目）

担当者

安達正嗣

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

社会学的なものの見方とは、どういうものか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説する。

到達目標

初めて社会学を学ぶ学生に対して、社会学の基礎的な知識ならびに考え方を理解させて習得させることが、この講義の到達目標である。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会学への招待
- 第2回 「自分探し」を強いる現代社会
- 第3回 「複数の私」を生む二つの要素
- 第4回 社会学から見た「人間関係」
- 第5回 現代社会の「人間関係」をつくるさまざまな要素
- 第6回 社会とともに変化する「子ども像」
- 第7回 「恋愛観」と「結婚観」
- 第8回 「専業主婦」のゆくえ
- 第9回 「少子高齢社会」の展望
- 第10回 「日本型雇用システム」の変容
- 第11回 新しい働き方
- 第12回 文化の社会学
- 第13回 現代の流行現象
- 第14回 自殺の社会学
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

使用教材

浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版

授業外学習の内容

毎回の内容について、事前に教科書を読んでおくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（共通教養科目）

担当者

鈴木忠

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修2単位、理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に着けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に〈 〉内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

第1回 健康の定義と健康評価指標

WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。

第2回 健康を維持するための構造と働き

健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。

第3回 恒常性維持システムの役割と相互作用

物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持（〈ホメオスタシス〉）システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。

第4回 食物と健康

物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない〈栄養素〉を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。

第5回 〈運動と健康〉

運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。

第6回 〈心のケアと健康〉

ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに関与するかを理解する。

第7回 喫煙による健康障害

たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。

第8回 生活環境と健康

放射能、排気ガス、温室効果ガス等の〈生活環境と健康〉についても考える。

第9回 21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）

2000年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安否を〈健康維持の3本柱〉とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する〈予防医学〉のスタートである。

第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム

特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、〈定期健康診断〉によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がること

を理解する。また、＜内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）＞の怖さを理解し、その 予防法について考える。

第 11 回 生活習慣病の危険因子としての糖尿病

＜糖尿病＞には、I 型と II 型があり、第 12 回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害 発生 発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という＜ 三大合併症＞を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第 1 位は糖尿病である。 危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。

第 12 回 生活習慣病（心疾患・脳卒中）と発症を予防する生活習慣

死亡原因の 2 位及び 3 位の＜心疾患（狭心症・心筋梗塞症）＞及び＜脳卒中＞は、＜血液循環障害＞ による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考え る。

第 13 回 生活習慣病（がん）と発症を予防するための生活習慣

日本人の死亡原因の 1 位はがん、2 位は心疾患、3 位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。こ ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜がん発症危険因子＞を知る。ま た、＜がん 予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について 理解する。

第 14 回 微生物感染症と感染・発症予防

日本人の死亡原因の第 4 位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入 所 （入院）者の＜院内感染症＞発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症 の発生 要因＜医原性感染症＞となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。

第 15 回 地域における健康支援チーム構成員とその役割：まとめ

これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあ い に重点を置くことされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情 報管理 士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる＜健康支援チームによるチーム 医療＞が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えよう としているのかを理解する。

評価方法

授業参加度（予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等）：30 点、レポート：30 点、期末試験：40 点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

授業外学習の内容

- ・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。
- ・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

備考

生涯学習概論（共通教養科目）

担当者

森部 英生 小西 尚之

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、「生涯学習社会」の意義、社会教育と生涯学習の関係、公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第3回 「生涯学習社会」とは何か
- 第4回 「学習権」とは何か
- 第5回 社会教育と生涯学習
- 第6回 公民館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第7回 公民館の補充
- 第8回 図書館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第9回 図書館の補充
- 第10回 博物館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第11回 博物館の補充
- 第12回 美術館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第13回 美術館の補充
- 第14回 青年の家・少年自然の家とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第15回 青年の家・少年自然の家の補充

評価方法

期間中行う3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、途中3回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（共通教養科目）

担当者

奥浩之

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 生命と環境－地球における元素の循環
- 第2回 生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化
- 第3回 生命と環境－化学進化と生命における元素の役割
- 第4回 生命と生体分子－DNA 二重らせんと X線構造解析
- 第5回 生命と生体分子－タンパク質の立体構造・分子グラフィックス
- 第6回 生命と生体分子－様々なヘム蛋白質・医薬品との相互作用（CYP450）
- 第7回 環境と資源－炭素資源・石油化学産業・医薬品産業
- 第8回 環境と資源－シュールガス、シュールオイル
- 第9回 環境と健康－バイオマス・バイオディーゼル
- 第10回 生命と医薬品－生体材料（血管の接着剤）
- 第11回 生命と医薬品－生体材料（痛くない注射針）
- 第12回 生命と医薬品－日本において開発された画期的なくすり
- 第13回 地球環境と健康－グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第14回 地球環境と健康－さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第15回 地球環境と健康－ワクチン成分と研究開発

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

2回に一度、講義に関連した自主学習としてレポート作成を課題とする予定。

備考

国際関係論（共通教養科目）

担当者

片桐庸夫

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択2単位、理学療法学科 2年前期 選択2単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界が出来ているか理解する。それを通じ国際テロ、民族紛争、領土紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第1回 授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第2回 「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第3回 「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウイーン会議について理解する。
- 第4回 国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第5回 米ソ間の価値観の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第6回 米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第7回 冷戦の定義、核の下の平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第8回 終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第9回 冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第10回 ジョージ・ケナンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第11回 サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第12回 戦後日本外交の課題である『「戦後」の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第13回 日米安保改定による日米パートナーシップ関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第14回 沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『「戦後」の克服』について理解する。
- 第15回 中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストを用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強や南シナ海制海権確立の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等についての新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等をみて、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を育んでいて欲しい。

体育理論（共通教養科目）

担当者

入澤孝一

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

医療従事者として基礎的なスポーツ科学、トレーニング理論を身に付けること、及びスポーツの社会的な役割についての知識を学ぶことにより、人々が健康に、生き生きと生活する社会の形成に貢献する人材を育成する。

到達目標

- ①トレーニングの基礎理論についての知識を習得する
- ②各種体力要素とトレーニングの関係についての知識を習得する
- ③スポーツが果たす社会的、教育的役割について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 日本人の健康・体力について現状を把握しよう
- 第2回 生活習慣病の予防・改善のための運動処方
- 第3回 子どもの身体活動に向けたエクササイズ
- 第4回 スポーツのトレーナビリティ
- 第5回 人の身体の構造と特徴
- 第6回 スポーツと栄養
- 第7回 トレーニングの原則
- 第8回 ウォーミングアップ・クーリングダウン及びオーバートレーニング
- 第9回 巧みさの向上及び粘り強さ（有酸素）の向上
- 第10回 力強さ（筋力）と無酸素性トレーニング
- 第11回 身体のバランス・柔軟性とストレッチング
- 第12回 スポーツ文化・教育・コーチング
- 第13回 競技力向上対策
- 第14回 加齢と体力低下及び発育期の障害と予防
- 第15回 レポート

評価方法

- ①授業毎のレポート課題を評価する。50%（授業内容の理解度及び授業への参加度）
- ②最終授業時に試験を実施する。（50%）

使用教材

毎時間、作成したパワーポイント教材を使用する。

授業外学習の内容

授業開始時に小テストを実施するので、復習してくる事

備考

体育実技（共通教養科目）

担当者

小山裕史

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

医療従事者として基礎的なスポーツ科学、トレーニング理論及び体力測定と評価について身に付ける。特に新体力テストの測定方法と測定結果に基づいたトレーニングを実施する。中・高齢者が健康に活動するためのスポーツや動きづくりの実技・指導方法を習得する。

到達目標

- ①新体力テストの測定方法と評価について理解する
- ②無酸素、有酸素能力及び身体組成について理論と測定方法について理解する
- ③競技者を対象とした基礎的な動きづくりについて習熟する
- ④中高齢差者を対象とした初動負荷トレーニングについて習熟する。

講義内容と講義計画

- 第1回 新体力テストの概要について（目的と方法）
- 第2回 新体力テストの実施
- 第3回 新体力測定の結果と評価
- 第4回 身体組成（インピーダンス）測定と評価について
- 第5回 有酸素運動の理論
- 第6回 有酸素運動の測定と評価
- 第7回 無酸素性運動の理論
- 第8回 無酸素性運動の測定と評価
- 第9回 レジスタンストレーニングの基礎理論・留意点
- 第10回 初動負荷マシンを活用したレジスタンストレーニングの実際①
- 第11回 初動負荷マシンを活用したレジスタンストレーニングの実際②
- 第12回 中・高齢者を対象とした初動負荷マシントレーニング①
- 第13回 中・高齢者を対象とした初動負荷マシントレーニング②
- 第14回 中・高齢者を対象とした初動負荷マシントレーニング③
- 第15回 試験

評価方法

- ①授業毎のレポート課題を評価する。50%（授業内容の理解度）
- ②最終授業時に試験を実施する。（50%）

使用教材

パワーポイント教材及び著書を利用する。

授業外学習の内容

備考

キャリア形成論（共通教養科目）

担当者

小泉英明

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ①社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ②自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理を行う

講義内容と講義計画

- 第1回 キャリアとは何？キャリア形成のために必要なこと
- 第2回 先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材
- 第3回 セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第4回 コミュニケーション力
- 第5回 実践コミュニケーション力〔演習〕
- 第6回 気づく力
- 第7回 考える力Ⅰ（ロジカル・シンキングとクリティカル・シンキング）
- 第8回 考える力Ⅱ（クリエイティブ・シンキング）
- 第9回 創造力を伸ばすには〔演習〕
- 第10回 問題解決能力
- 第11回 働く意味／就業力と仕事力
- 第12回 社会における人間関係
- 第13回 セルフ・ディベロップメントⅡ（目標設定／キャリア・マニフェスト）
- 第14回 セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第15回 ストレス・マネジメント／まとめ

評価方法

最終レポート(60%)、各授業時における提出物(30%)、受講態度(10%)

使用教材

適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。※分からないことがあったら積極的に質問してください。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等のニュースに目を通して受講すること。

哲学（共通教養科目）

担当者

大石桂子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち研究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自分と他者（1）「人に認められたい」のは本能？
- 第3回 自分と他者（2）「本当の自分」はあるのか
- 第4回 自分と他者（3）人と人の関係性
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか
- 第7回 平等と共生（2）環境は人の心にどう影響するのか
- 第8回 自由はあるのか—正しい自己決定のために
- 第9回 心と身体（1）人間である条件とは理性か
- 第10回 心と身体（2）心と体の関係性—脳死を考える
- 第11回 エンハンスメント（1）変化する「病」
- 第12回 エンハンスメント（2）「弱さ」を否定する社会
- 第13回 「空気」を意識する
- 第14回 責任（1）責任の範囲はどこまで？
- 第15回 責任（2）「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験（60%）、予習課題とミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では知識の習得だけではなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているため、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（共通教養科目）

担当者

大石桂子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択 2単位、理学療法学科 1年前期 選択 2単位

講義目標

現在、医療の場では生と死のあり方について、価値観の違いによる様々な葛藤やコンフリクトがある。本講義では、そうした対立が生じる理由・意味を倫理的視点から捉え、理解を深めると同時に、現代の医療を巡る多様な問題について考え、判断する力を養う。

到達目標

医療に関連する倫理的諸課題について正確な知識を習得し、根拠をもって判断し、また論理的に表現できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 看護倫理の四原則
- 第3回 意志と自己決定 (1)インフォームド・コンセントとアドボカシー
- 第4回 意志と自己決定 (2)自由な決定の範囲とは
- 第5回 意志と自己決定 (3)治療の差し控え
- 第6回 「善」の基準 (1)「よさ」は利益で決まるのか
- 第7回 「善」の基準 (2) 社会的な公平性
- 第8回 脳死と移植医療
- 第9回 生殖の倫理 (1)出生前診断：子どもを選ぶ権利はあるか
- 第10回 生殖の倫理 (2)「子どもをもつ権利」と「子どもの権利」
- 第11回 安楽死 (1)日本の判例とオランダの法整備
- 第12回 安楽死 (2)新生児・胎児への安楽死と優生思想
- 第13回 個人の意志と社会
- 第14回 合意形成——よりよい決定のために
- 第15回 「死」の意味づけ

評価方法

定期試験（60%）、ミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中に適宜プリントを配布。

授業外学習の内容

講義ノート、配布資料を十分に復習したうえで、ミニ・レポートを作成する。

備考

本講義は倫理的なものの見方、考え方を身につけることを目的にしている。講義内容を知識として理解するだけでなく、内容への意見や疑問を持ち、自分ならどう判断し、どう決断するかを考えながら講義にのぞんでほしい。

心理学（共通教養科目）

担当者

内田祥子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。

到達目標

- ・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。
- ・人間の行動の基礎過程について説明できる。
- ・人間の発達と心理との関係について説明できる。
- ・社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。
- ・心理的支援の方法と実際について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1 回オリエンテーション
- 第2 回心理学とは
- 第3 回環境を認知する心の働き (1) 知覚
- 第4 回環境を認知する心の働き (2) 学習
- 第5 回環境を認知する心の働き (3) 記憶
- 第6 回環境を認知する心の働き (4) 言語・思考
- 第7 回環境を認知する心の働き (5) 情動・動機づけ
- 第8 回社会の中の人間 (1) 人格
- 第9 回社会の中の人間 (2) 自己
- 第10 回社会の中の人間 (3) 社会
- 第11 回生涯発達のしくみ アイデンティティの生涯発達
- 第12 回脳科学と心理学
- 第13 回発達臨床・心理臨床 (1) 発達臨床
- 第14 回発達臨床・心理臨床 (2) 心理臨床
- 第15 回まとめ

評価方法

宿題 30%、学期末テスト 70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

「心理学・入門」 サトウタツヤ・渡邊芳之著（有斐閣）

授業外学習の内容

毎回、復習課題を宿題として課す。授業内容をしっかりと振り返り回答すること。また、テキストの次回該当箇所を必ず予習して授業に臨むこと。

備考

文学と人間（共通教養科目）

担当者

斎藤順二

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読CDで味わうことで、音声表現による心のコミュニケーションを目的にする。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 二葉亭四迷・森鷗外の文学と人間像
- 第2回 樋口一葉・泉鏡花の文学と人間像
- 第3回 尾崎紅葉・徳富蘆花の文学と人間像
- 第4回 夏目漱石の文学と人間像
- 第5回 自然主義の文学と人間像
- 第6回 芥川龍之介の文学と人間像
- 第7回 白樺派の文学と人間像
- 第8回 学習の整理と展望(まとめのレポート①)
- 第9回 川端康成・小林多喜二の文学と人間像
- 第10回 林芙美子・山本有三の文学と人間像
- 第11回 谷崎潤一郎・堀辰雄の文学と人間像
- 第12回 宮沢賢治・中島敦の文学と人間像
- 第13回 井上靖・尾崎士郎の文学と人間像
- 第14回 太宰治・三島由紀夫の文学と人間像
- 第15回 学習の整理と展望(まとめのレポート②)

評価方法

まとめのレポート2回分を各50点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体720円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげる。

備考

芸術論（共通教養科目）

担当者

石原綱成

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることが、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして20世紀における芸術概念の変容を見ることを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第3回 芸術と宗教②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第4回 芸術論のと神々宗教芸術概観
- 第5回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第6回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第7回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第8回 芸術思想をめぐる②バウハウスの芸術思想
- 第9回 カトの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（共通教養科目）

担当者

金井敏

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる

講義内容と講義計画

- 第1回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第2回 ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割
- 第3回 子どもの明日をサポートする～子ども劇場の取り組み
- 第4回 人々はどのようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第5回 ボランティアとNPO～学生でも創れるNPO法人～
- 第6回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第7回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第8回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第9回 新しい支え合いの必要性～20年後のあなたとへ
- 第10回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第11回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第12回 分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第13回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第14回 地域支えあいのボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第15回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価（60点相当）
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価（25点相当）
- ・授業のリアクションペーパーによる評価（15点相当）
- ・授業開講数の2/3以上の出席について、評価対象とする。
- ・15分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業にて配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

- ・ボランティア・市民活動は、社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに、自分自身の可能性にチャレンジすることができる、とても良い機会です。
- ・ボランティア実践では、社会が求めているニーズに応えることを通じて、人々の問題を把握するとともに、その解決策を考えることもできます。このような体験は、将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSCを活用して参加すること。
- ・考えて行動する学生を目指して、一緒に学びましょう！

人権論（共通教養科目）

担当者

森部英生

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的人権の沿革
- 第3回 明治憲法における人権保障
- 第4回 日本国憲法における人権保障
- 第5回 人権の主体
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 請願権と国家賠償法
- 第9回 思想及び良心の自由
- 第10回 信教の自由
- 第11回 表現の自由
- 第12回 学問の自由
- 第13回 両性の平等
- 第14回 生存権
- 第15回 まとめ

評価方法

3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分し、これらを総合的に評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、途中で3回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件(人権裁判)を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（共通教養科目）

担当者

宮内洋

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

「人間関係論」とはホッパ実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「人間関係論」の成立
- 第3回 職場と人間関係
- 第4回 社会的ジレンマ
- 第5回 乳幼児期の人間関係 (1)
- 第6回 乳幼児期の人間関係 (2)
- 第7回 乳幼児期の人間関係 (3)
- 第8回 児童期の人間関係
- 第9回 青年期の人間関係
- 第10回 恋愛関係論 (1)
- 第11回 恋愛関係論 (2)
- 第12回 保育・教育現場の人間関係
- 第13回 差別と偏見
- 第14回 日本社会における人間関係:「空気を読む」ことについて
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（共通教養科目）

担当者

前田由美子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 講義全体の説明
- 第2回 ジェンダーという概念
- 第3回 生き物としての性とその多様性
- 第4回 性的指向 セクシュアリティ
- 第5回 性役割と性規範
- 第6回 性的同一性（ジェンダー・アイデンティティ）
- 第7回 性別と経済社会
- 第8回 母親と子どもの関係
- 第9回 父親と子どもの関係
- 第10回 労働と性別秩序
- 第11回 過労問題 ワーク・ライフ・バランス
- 第12回 男性問題
- 第13回 セクシュアル・ハラスメント
- 第14回 ドメスティック・バイオレンス
- 第15回 まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約25%ずつで4日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（共通教養科目）

担当者

瓜巢一美

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第1回 学習（研究）の方針・文献紹介・評価等について
- 第2回 共生の倫理 1) 共生の概念 2) 共生と倫理
- 第3回 多文化社会と共生の広がり
- 第4回 社会生活と共生の課題
- 第5回 都市化における多文化社会生成
- 第6回 都市の生活における課題（多文化社会の現状）
- 第7回 地域と多文化社会（事例を通して）
- 第8回 教育に共生
- 第9回 障害者との共生の倫理
- 第10回 障害者との施設生活
- 第11回 高齢者との施設生活
- 第12回 共生のあり方・必要（家族・地域・職場）
- 第13回 多民族、多文化等の共生にむけて
- 第14回 学習のふりかえり・研究のあり方
- 第15回 学習のふりかえり

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%（テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい）

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点をメモにし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（共通教養科目）

担当者

各学科教員

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修1単位、理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
第2回 チーム医療における看護師・保健師の役割と活動
第3回 チーム医療における理学療法士の役割と活動
第4回 チーム医療における薬剤師の役割と活動
第5回 チーム医療における管理栄養士の役割と活動
第6回 チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
第7回 チーム医療における保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動
第8回 チーム医療における診療情報管理士の役割と活動

評価方法

評価方法：授業参加への積極性（40点）、レポート（60点）

- ・ レポート他職種の役割と活動を理解した上で、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と課題についてまとめる。
- ・ 各学科の単位認定者が各学科の学生のレポートを採点する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード：専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（共通教養科目）

担当者

クリストファー・ターン、町田修三

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 医療の国際化とは
- 第3回 日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第4回 日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第5回 先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第6回 先進国の医療事情Ⅰ
- 第7回 先進国の医療事情Ⅱ
- 第8回 先進国の病院
- 第9回 その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情Ⅰ
- 第10回 その他の先進国の医療事情Ⅱ
- 第11回 中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第12回 中進国、途上国の医療事情Ⅰ
- 第13回 中進国、途上国の医療事情Ⅱ
- 第14回 学生プレゼンテーション
- 第15回 学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）

海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（20%）、研修レポート（20%）、研修中のパフォーマンス（60%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと。

授業外学習の内容

本講義では学生主体のリサーチと発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしてくること。海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

備考

Introduction to Healthcare Sciences（共通教養科目）

担当者

小澤澗司、町田修三、クリストファー・ターン、村上孝、今井純、長谷川恵子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回：Introduction of the course
- 第2回：Medical globalization Japan's healthcare system
- 第3回：Healthcare system of foreign countries
- 第4回：Contemporary Issues on Health in North America Society I
- 第5回：Contemporary Issues on Health in North America Society II
- 第6回：Using MedlinePlus to obtain medical information in English
- 第7回：Heavy-ion cancer therapy-the most advanced medical technology Developed in Japan-
- 第8回：Immunity and diseases I
- 第9回：Immunity and diseases II
- 第10回：Living environment and skin diseases
- 第11回：Healthcare in foreign countries I
- 第12回：Healthcare in foreign countries II
- 第13回：Mental health
- 第14回：Mental health and social skills
- 第15回：Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する。

授業外学習の内容

教材は毎回次週のを前もって配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習しておくこと。分からない単語は調べておくこと。

英語 I A (共通教養科目)

担当者

柳澤順一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける

講義内容と講義計画

- 第1回 Course Introduction; Video Watching 1
- 第2回 E-learning Training; Video Watching 2
- 第3回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第4回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第5回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第6回 Review of Chapters 1-3; Video Watching 3
- 第7回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第8回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第9回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第10回 Review of Chapters 4-6; Video Watching 4
- 第11回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第12回 Chapter 8: Good to See You!
- 第13回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第14回 Review of Chapters 7-9; Video Watching 5
- 第15回 Completing E-learning Portfolio; Preparation for the Final Exam

評価方法

出席 10%、平常点 40%（毎回の吹き込み・ディクテーション、プリント提出など）、定期試験 50%

使用教材

Viva! San Francisco – Survival English Video, Ohyagi, H. & Kiggell, T., Macmillan Language House

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

授業中にテキスト対応の動画（WMV）、音声（MP3）およびテキスト・ファイルを学生用端末に配布するので、それを保存の上、自宅またはPCルームでしっかり復習をしてください。特に予習は必要としません。

英語 I B (共通教養科目)

担当者

出雲春明

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

様々な現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? ①
- 第3回 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? ②
- 第4回 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? ③
- 第5回 Chapter 2 Mika's Homestay in London ①
- 第6回 Chapter 2 Mika's Homestay in London ②
- 第7回 Chapter 2 Mika's Homestay in London ③
- 第8回 Chapter 3 It's Not Always Black and White ①
- 第9回 Chapter 3 It's Not Always Black and White ②
- 第10回 Chapter 3 It's Not Always Black and White ③
- 第11回 Chapter 4 Helping Others ①
- 第12回 Chapter 4 Helping Others ②
- 第13回 Chapter 4 Helping Others ③
- 第14回 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives ①
- 第15回 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives ②

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト (30%)、期末試験 (60%)

使用教材

Linda Lee & Erik Gundersen, Select Readings Pre-Intermediate Second Edition, Oxford University Press, 2011.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

辞書は必携。最低限の予習として不明な単語は調べておくこと。

英語ⅡA（共通教養科目）

担当者

ターン クリス

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

In this course, students will create a portfolio, a collection of their work made during the course. Students will make several projects (either in groups and individually) related to nursing and then add their projects to their portfolios. Students will assess their own work, and they will be assessed by their classmates and also by the teacher. Projects include making a Name Card / Personal Collage, Rules of Nursing Poster, Parts & Organs of Body, What is Nursing? etc.

到達目標

To acquire basic communication and presentation skills in English.

講義内容と講義計画

- 第1回 Who am I Collage? (1)
- 第2回 Who am I Collage? (2)
- 第3回 Nursing Vocabulary - Daily Schedule of a Nurse (1)
- 第4回 Nursing Vocabulary - Daily Schedule of a Nurse (2)
- 第5回 Nursing Vocabulary - Organs & Body Parts (1)
- 第6回 Nursing Vocabulary - Organs & Body Parts (2)
- 第7回 Nursing Vocabulary - Taking a Patient History (1)
- 第8回 Nursing Vocabulary - Taking a Patient History (2)
- 第9回 Nursing Vocabulary - Uniform & Medical Instruments
- 第10回 Nursing Vocabulary - The Nurse's Workplace
- 第11回 Nursing Procedures - What do Nurses do? Demonstration Speech (1)
- 第12回 Nursing Procedures - What do Nurses do? Demonstration Speech (2)
- 第13回 Nursing Procedures - What do Nurses do? Demonstration Speech (3)
- 第14回 Portfolio Display & Assessment
- 第15回 Portfolio Display & Assessment

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）

尚、授業回数分の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

プリントを配布する

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅡB（共通教養科目）

担当者

岩田 道子

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

厳選された現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Chapter 7 Student won't give up their French Fries ①
- 第3回 Chapter 7 Student won't give up their French Fries ②
- 第4回 Chapter 8 Why I quit the company ①
- 第5回 Chapter 8 Why I quit the company ②
- 第6回 Chapter 9 East meets west on love's risky cyberhighway ①
- 第7回 Chapter 9 East meets west on love's risky cyberhighway ②
- 第8回 Review Test
- 第9回 Chapter 10 Don't let stereotypes warp your judgement ①
- 第10回 Chapter 10 Don't let stereotypes warp your judgement ②
- 第11回 Chapter 11 The Art of Reading ①
- 第12回 Chapter 11 The Art of Reading ②
- 第13回 Chapter 12 When ET Calls ①
- 第14回 Chapter 12 When ET Calls ②
- 第15回 Review

評価方法

"授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）

なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。"

使用教材

Linda Lee and Erilk Gundersen, Select Readings Second Edition: Pre-Intermediate (Oxford University Press, 2011)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語Ⅲ A（共通教養科目）

担当者

飛田ルミ

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

様々な現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。

講義内容と講義計画

第1回ガイダンス 1. 全てはコミュニティカレッジのお蔭
第2回 1. 全てはコミュニティカレッジのお蔭 2: スマホ使いの「ゾンビ」出現で街中が大混乱
第3回 2: スマホ使いの「ゾンビ」出現で街中が大混乱 3: 連合王国のイギリス、分裂か／ほか (プレゼンテーション)
第4回 3: 連合王国のイギリス、分裂か／ほか 4: 韓国旅行の目的は買い物とアゴの整形 (プレゼンテーション)
第5回 4: 韓国旅行の目的は買い物とアゴの整形 5: 「子供の頃の夢」の巨匠 (プレゼンテーション)
第6回 5: 「子供の頃の夢」の巨匠 7: 3Dプリンタで医療が変わる (プレゼンテーション)
第7回 7: 3Dプリンタで医療が変わる 8: 女性がテロリストになる時 (プレゼンテーション)
第8回 8: 女性がテロリストになる時 9: 野球のインタビューで通訳されないこと (プレゼンテーション)
第9回 9: 野球のインタビューで通訳されないこと 10: 裁判で「絵文字」は証拠物件に採用されるのか (プレゼンテーション)
第10回 10: 裁判で「絵文字」は証拠物件に採用されるのか 11: 小麦派と米派 (プレゼンテーション)
第11回 11: 小麦派と米派 12: エチオピア、昔は飢餓状態、今は「アフリカの盟主」／ほか (プレゼンテーション)
第12回 12: エチオピア、昔は飢餓状態、今は「アフリカの盟主」／ほか 13: LED照明がノーベル物理学賞受賞に輝く (プレゼンテーション)
第13回 13: LED照明がノーベル物理学賞受賞に輝く 15: 難民の流入を食い止めるためブルガリアは壁を建設 (プレゼンテーション)
第14回 15: 難民の流入を食い止めるためブルガリアは壁を建設 (プレゼンテーション)
第15回 期末試験

評価方法

期末試験 50% 平常点 50% (出席率、発表課題、授業内での発言など)

使用教材

15章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2016年度版— (朝日出版社)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

辞書は必携。

英語ⅢB（共通教養科目）

担当者

クロウズ、ステイシー マーリ

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第3回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第4回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第5回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第6回 Review (1)
- 第7回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第8回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第9回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第10回 Review (2)
- 第11回 Chapter 8: Good to See You!
- 第12回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第13回 Chapter 10: Aisle Seat, Please
- 第14回 Review (3)
- 第15回 Review (4)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）

なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell, Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English（マクミランランゲージハウス, 1998）

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。

英語Ⅳ A（共通教養科目）

担当者

出雲春明

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

様々な現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 8 Can You Live Forever? ①
- 第3回 Chapter 8 Can You Live Forever? ②
- 第4回 Chapter 8 Can You Live Forever? ③
- 第5回 Chapter 9 Baseball Fans Around the World ①
- 第6回 Chapter 9 Baseball Fans Around the World ②
- 第7回 Chapter 9 Baseball Fans Around the World ③
- 第8回 Chapter 10 Mobile Phones: Hang Up or Keep Talking? ①
- 第9回 Chapter 10 Mobile Phones: Hang Up or Keep Talking? ②
- 第10回 Chapter 10 Mobile Phones: Hang Up or Keep Talking? ③
- 第11回 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician ①
- 第12回 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician ②
- 第13回 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician ③
- 第14回 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman ①
- 第15回 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman ②

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）

使用教材

Linda Lee & Erik Gundersen, Select Readings Pre-Intermediate Second Edition, Oxford University Press, 2011.

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。最低限の予習として不明な単語は調べておくこと。

英語ⅣB（共通教養科目）

担当者

柳澤 順一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

基本的な英語テキストを読み解く中で言語構造・表現を正確に理解し、それらに基づいたプロダクティブな英語表現能力を身につけること。視聴覚教材からの英語発話を正確に聞き取り、口語的な言い回しを習得すること。

到達目標

センテンスレベルから50ワードレベルの英文を正確な文法・語法に基づいて作成できる。現代英語の基本的な口語表現をディクテーション・タスクを通じて身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 受講上の注意。基礎語彙力小テスト。DVD視聴に基づくディクテーション“AI”（プロローグ）。
- 第2回 News of the Week (1), ディクテーション“AI” (1)
- 第3回 News of the Week (2), ディクテーション“AI” (2)
- 第4回 News of the Week (3), ディクテーション“AI” (3)
- 第5回 News of the Week (4), ディクテーション“AI” (4)
- 第6回 News of the Week (5), ディクテーション“AI” (5)
- 第7回 News of the Week (6), ディクテーション“AI”（エピローグ）
- 第8回 単語テスト (1), Talking to Professionals (1)
- 第9回 News of the Week (7), ディクテーション“Catch Me If You Can”（プロローグ）
- 第10回 News of the Week (8), ディクテーション“Catch Me If You Can” (1)
- 第11回 News of the Week (9), ディクテーション“Catch Me If You Can” (2)
- 第12回 News of the Week (10), ディクテーション“Catch Me If You Can” (3)
- 第13回 News of the Week (11), ディクテーション“Catch Me If You Can” (4)
- 第14回 News of the Week (12), ディクテーション“Catch Me If You Can” (5)
- 第15回 単語テスト (2), Talking to Professionals (2), ディクテーション“Catch Me If You Can”（エピローグ）

評価方法

課題の提出を含む平常点30%、単語テスト20%、定期試験50%。

使用教材

プリント教材を使用する。

授業外学習の内容

学習するテキストコピーは講義前週に配布する。辞書等を使用し、しっかりと準備勉強をしておくこと。

備考

プリント教材はファイルノート等を使用し、適切に保管すること。

Integrated English I (共通教養科目)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択1単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 What is communication?
- 第2回 Cognitive Psychology: Get to know yourself
- 第3回 Social skills
- 第4回 The power of imagination and innovation
- 第5回 Learning to control a conversation
- 第6回 Listening strategies
- 第7回 Basic English: Self introduction and first steps for communicating in English
- 第8回 Creating your own English database
- 第9回 Meet a foreigner
- 第10回 Speech basics: Talking to an audience
- 第11回 Presentation 1 (power point)
- 第12回 Presentation 2 (power point)
- 第13回 Make your own textbook 1
- 第14回 Make your own textbook 2
- 第15回 Conclusion

評価方法

授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

毎回プレゼンテーションをしてもらうので、準備をしたうえで授業に臨むこと。

備考

Integrated English II (共通教養科目)

担当者

真下裕子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEIC テストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも習得する。

到達目標

TOEIC テスト 500 点以上を目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction(TOEIC テストの概略説明と学習法)
- 第 2 回 Part 1
- 第 3 回 Part 2
- 第 4 回 Part 3
- 第 5 回 Part 4
- 第 6 回 Part 5
- 第 7 回 Part 6
- 第 8 回 Part 7
- 第 9 回 Part 1,2
- 第 10 回 Part 3,4
- 第 11 回 Part 5,6
- 第 12 回 Part 7
- 第 13 回 模擬テスト(リスニング)
- 第 14 回 模擬テスト(リーディング)
- 第 15 回 模擬テスト解答と解説

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、模擬テスト (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行い、授業で学んだことの復習を徹底すること。

備考

必ず辞書とノートを持参すること。

ドイツ語（共通教養科目）

担当者

大石桂子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できるようになる。会話練習と文法学習の両面から、理解力（読む、聞く）と表現力（書く、話す）を養い、基礎を定着させる。また、講義中のドイツ文化、風景、歴史などの紹介を通して、ドイツ語圏の魅力に触れる。

到達目標

初級の学習内容——挨拶表現、数詞、動詞の人称変化（現在形）、冠詞、過去の表現など、会話および文法の基礎を理解し、活用できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 挨拶と発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介
- 第2回 ドイツ語の abc
- 第3回 Lektion 1 人と知り合う:名前、出身、住所をたずねる
- 第4回 動詞の人称変化 (1)、疑問文
- 第5回 Lektion 2 人を誘う:友人を紹介する、数、電話番号
- 第6回 動詞の人称変化 (2)、ドイツ語の語順など
- 第7回 Lektion 3 道の尋ね方・答え方:位置・方向を表す語
- 第8回 名詞の性、定冠詞と不定冠詞など
- 第9回 Lektion 4 買い物:値段、気に入った?
- 第10回 名詞と冠詞の3格、前置詞など
- 第11回 Lektion 5 週末や休暇の予定:天候、一日の行動
- 第12回 分離動詞、話法の助動詞など
- 第13回 Lektion 6 過去のできごと:時を表す表現
- 第14回 過去分詞、現在完了
- 第15回 まとめ

評価方法

定期試験(60%)、小テスト(40%)に授業への積極性などを加味する。

使用教材

『アプファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。

授業外学習の内容

テキスト、配布プリントを用いて復習し、自習課題などを行う。

備考

受講希望者は必ず初回ガイダンスに出席すること。(※テキストはガイダンス後に購入)
なお、本講義では基礎力養成のため、反復練習を重視する。自宅での復習も欠かさず、学習内容を自分のものにしてほしい。

フランス語（共通教養科目）

担当者

カディオオンボ・アナスタシア

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

フランス語に興味を持ってもらう

到達目標

初級文法を用いて基本的な会話を行ない、読み書きができる

講義内容と講義計画

- 第1回 アルファベットとつづり字記号、発音
- 第2回 リエゾンとアンシュヌマン
- 第3回 名詞（性）と冠詞
- 第4回 母音の発音
- 第5回 子音の発音
- 第6回 あいさつ表現
- 第7回 依頼の表現
- 第8回 be 動詞（être）
- 第9回 have（avoir）動詞
- 第10回 第1群規則動詞（-er 動詞）
- 第11回 否定文
- 第12回 時刻・年齢の表現
- 第13回 第2群規則動詞（-ir 動詞）
- 第14回 形容詞①
- 第15回 形容詞②

評価方法

筆記試験、授業参加度、ノート提出

使用教材

フランスの小学校で使われている本

授業外学習の内容

時々、印刷したものを配布します

備考

ポルトガル語（共通教養科目）

担当者

伊勢島・セリア明美

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。

到達目標

初歩の会話ができるようになることを到達目標とします。

講義内容と講義計画

- 第1回 Meu nome é Maria. (アルファベット、挨拶、自己紹介のしかた)
- 第2回 Ela não é japonesa. (出身地等を伝える表現、否定文、疑問文、前置詞 de)
- 第3回 Meu pai é médico. (職業等の言い方、家族、所有形容詞)
- 第4回 Sua mãe é alta? (形状を表す表現、形容詞①、形容詞の変化)
- 第5回 Quantos anos você tem? (年齢等の表現、数詞①、名詞の性と数、動詞 ter)
- 第6回 O Japão é mais frio que o Brasil. (比較の表現、形容詞②、定冠詞)
- 第7回 Você gosta de música? (好みを伝える、動詞 gostar、動詞 preferir)
- 第8回 Ela quer descansar. (願望の表現、不定冠詞、動詞 querer)
- 第9回 Meu celular está na bolsa. (存在を表す表現、動詞 estar、前置詞 em)
- 第10回 Eu vou ao banco. (行き先を伝える、動詞 ir、前置詞 a、前置詞 de)
- 第11回 Você fala português? (時間の表現、数詞②、-ar 動詞)
- 第12回 Eu corro todas os dias. (時の表現①、-er 動詞、前置詞 com)
- 第13回 Quando eles partem? (曜日、-ir 動詞、前置詞 em)
- 第14回 O que você fez ontem? (時の表現②、月の名前、完全過去形)
- 第15回 まとめ

評価方法

ミニ会話の発表 (50%)、小テスト (50%)

使用教材

プリントを配布します。

授業外学習の内容

前回授業内容に係る会話の発表を実施しますので、復習をしておいて下さい。

備考

“頭”と“心”の柔軟性をもって学習に挑んで頂ければと思います。

中国語（共通教養科目）

担当者

渡邊賢

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

到達目標

15回という限られた時間で最も基礎的かつ不可欠な事項を習得し、その後、継続して自力学習が可能な能力を育成することを目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第2回 発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第3回 発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第4回 発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第5回 発音の基礎Ⅳ：「軽声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第6回 教科書基本編レッスン1・レッスン2：簡単なあいさつの学習。
- 第7回 教科書基本編レッスン3・レッスン4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第8回 教科書基本編レッスン5・レッスン6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第9回 教科書基本編レッスン7・レッスン8：中国語の主述構造（主謂構造）などについての学習。
- 第10回 教科書基本編レッスン9・レッスン10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第11回 教科書基本編レッスン11・レッスン12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第12回 発音と語法の総復習Ⅰ
- 第13回 発音と語法の総復習Ⅱ
- 第14回 発音と語法の総復習Ⅲ
- 第15回 まとめ

評価方法

評価は、授業時毎回の小試験を50%、学期末筆記試験の成績を50%とする。

使用教材

小幡敏行「大学一年生のための合格中国語」朝日出版社

授業外学習の内容

机に向かって学習するには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。また習慣的学習を身に着けたい。

備考

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者にはこの点を心得てほしい。

ハングル語（共通教養科目）

担当者

河正一

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

本授業は、はじめて韓国語を勉強する学生を対象にし、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができることはもとより、基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができることを目的とする。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を習得する。

韓国語の基本語彙・表現を習得する。

基本的な韓国語の4技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

第1回 韓国語について（概論）

第2回 母音、子音

第3回 激音、濃音

第4回 パッチム

第5回 二重母音

第6回 発音の変化

第7回 私は韓アルムです。

第8回 それは何ですか。

第9回 アルムさんはお兄さんがいますか。

第10回 食堂はどこにありますか。

第11回 週末は主にどう過ごしますか。

第12回 1時限目は何時からですか。

第13回 お姉さんと故郷へ帰ります。

第14回 韓国料理は少し辛くありませんか。

第15回 まとめ

評価方法

出席 30%、小テスト 30%、期末試験 40%

使用教材

李淑炫（2011）『チェミナ韓国語—自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと。

授業では、毎回小テストを行う。

授業が始まる前に前回の宿題を提出する。

備考

質問等がある場合は hajeong007@gmail.com までに連絡すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

コンピュータ入門Ⅰ（共通教養科目）

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

本講義では、受講者が、J検 情報活用試験の1級～3級レベルの内容が理解できるようになることを目的とする。

到達目標

入門Ⅰでは特に、受講者が、コンピュータが扱う数、コンピュータでのデータ表現、計算の基本となる論理演算や論理回路などを学ぶことを通じて、コンピュータの動作の本質・背景を理解することができるようになることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 情報システム、コンピュータシステムとは、コンピュータの歴史
- 第2回 コンピュータシステムの特徴、コンピュータの種類
- 第3回 情報処理の手順、フローチャート
- 第4回 コンピュータが扱うデータ、情報の単位、ビット、バイト、文字コード（標準コード）
- 第5回 数の表現（10進数、2進数、8進数、16進数）、小数の表現
- 第6回 基数変換（10進数 \leftrightarrow 2進数・8進数・16進数）
- 第7回 その他の基数変換（2進数 \leftrightarrow 8進数・16進数、小数の基数変換）
- 第8回 固定小数点数と浮動小数点数
- 第9回 四則演算、補数（1の補数と2の補数）
- 第10回 負数の表現、補数による減算
- 第11回 論理演算（AND,OR,NOT,EOR,NAND,NOR）、論理記号、ベン図、真理値表
- 第12回 論理回路、MIL記号
- 第13回 加算回路、乗算回路、除算回路
- 第14回 コンピュータシステムの基本構成、中央処理装置の機能、データと命令
- 第15回 前期のまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出：90%、授業への参加度：10%
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

J検 情報活用試験の1級～3級レベルのテキストを使用する。

授業外学習の内容

テキストの内容を事前に読んでおく。授業で配布した練習問題を解く。

備考

J検（文部科学省後援）の資格取得を奨励する。
講義の内容・進度は状況に応じて一部変更・省略等することがある。

コンピュータ入門Ⅱ（共通教養科目）

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

本講義では、入門Ⅰに引き続き、受講者が、J検 情報活用試験の1級～3級レベルの内容が理解できるようになることを目的とする。

到達目標

入門Ⅱでは特に、コンピュータとその周辺を理解するために、受講者が、コンピュータのハードウェア及び各種の情報関連機器などに関して、基礎的な知識を身につけることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 パソコンの仕組み、入出力装置、記憶装置、演算装置、制御装置、CPU
- 第2回 CPUの仕組み、メモリの種類と特徴、問題演習
- 第3回 記憶媒体の種類と用途、磁気ディスク容量の計算、問題演習
- 第4回 ハードディスクの仕組みと活用、IDE、SCSI、データのバックアップ
- 第5回 インターフェース、バス、周辺機器との接続ポート、スロット、各種規格
- 第6回 ディスプレイの仕組みと種類、光の3原色、画像データ容量の計算
- 第7回 プリンタの仕組みと種類、色の3原色、用紙、プロッタ、イメージセッタ
- 第8回 各種入力装置、ポインティングデバイス、キーボード、スキャナ、OMR、OCR
- 第9回 ソフトウェアの種類、システムソフト、応用ソフト、OSの機能、システム開発
- 第10回 これまでのまとめと総合問題演習
- 第11回 ファイルの概念、ディレクトリ、FAT、各種データ形式、パソコンの保守管理
- 第12回 ネットワークアーキテクチャ（OSI）、ネットワークプロトコル
- 第13回 インターネット（歴史、ARPANET、TCP/IP、DNS、SMTP、POP）
- 第14回 ネットワークにおけるセキュリティ、プライバシー保護、著作権
- 第15回 後期のまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出：90%、授業への参加度：10%
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

J検 情報活用試験の1級～3級レベルのテキストを使用する。

授業外学習の内容

テキストの内容を事前に読んでおく。授業で配布した練習問題を解く。

備考

J検（文部科学省後援）の資格取得を奨励する。
講義の内容・進度は状況に応じて一部変更・省略等することがある。

コンピュータ実習 I (共通教養科目)

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択1単位

講義目標

本科目は、初心者がパソコンを用いた基礎的な情報処理技術を身につけるための実習科目である。実習 I においては、コンピュータの基本操作を学習するとともに、入力装置として不可欠なキーボードを自在に操作できるようタッチタイピングを学び、さらに、ワープロソフトやインターネットの活用能力を養う。

到達目標

主として、受講者が、コンピュータの基本的な操作ができるようになり、マイクロソフトの文書作成ソフト「Word」を用い、簡単な文書を作成できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス、コンピュータの基本操作 (PC の起動・ログオン・シャットダウン等)
- 第2回 Windows の基本操作
- 第3回 電子資料の参照方法・課題の電子提出の方法、練習課題
- 第4回 本学メールシステムの基本的な使い方
- 第5回 インターネットによる情報検索の基礎
- 第6回 タイピング(タッチメソッド)の基礎、タイピング練習
- 第7回 日本語入力の練習
- 第8回 Word 基本操作 1 (起動と終了、日本語入力システム、文章入力、文書の保存 等)
- 第9回 Word 基本操作 2 (文章入力続き、文書の印刷 等)
- 第10回 Word の活用 1 (複写・移動、クリップアートの利用 等)
- 第11回 Word の活用 2 (編集機能、表の作成 等)
- 第12回 まとめと演習課題
- 第13回 Word の応用 1 (並べ替え、検索と置換、段組、罫線 等)
- 第14回 Word の応用 2 (ワードアート、図形描画、テキストボックス)
- 第15回 総合演習課題

評価方法

課題の提出状況・出来栄え、授業への参加態度等で総合的に評価する。
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

「30時間でマスターOffice2010」(実教出版)。
その他、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業時間外の時間も利用して課題を進めていくこと。
普段からコンピュータに接する時間を持つこと。

備考

実習の進み具合に応じて、内容は一部省略・変更等することがある。

コンピュータ実習Ⅱ（共通教養科目）

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

本科目は、初心者がパソコンを用いた基礎的な情報処理技術を身につけるための実習科目である。実習Ⅱにおいては、主に表計算ソフトの機能や用途を理解し、演習を通じて、その基本的な使い方を学ぶ。

到達目標

主として、受講者がマイクロソフトの表計算ソフト「Excel」の基本を理解し、簡単な表の作成・初歩的な集計処理・表のデータからのグラフ作成ができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス、Excel 基本操作（起動と終了、データの入力 等）
- 第2回 Excel 入門（簡単な表の作成、合計の計算、オートフィル 等）
- 第3回 ワークシートの活用1（表の編集、平均の計算、計算式の複写と相対参照）
- 第4回 ワークシートの活用2（絶対参照、最大・最小値、データ数のカウント、四捨五入、条件判定）
- 第5回 まとめの課題1
- 第6回 グラフ1（棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ）
- 第7回 グラフ2（3-D グラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ）
- 第8回 グラフ3（レーダーチャートグラフ、XY グラフ、絵グラフ）
- 第9回 まとめの課題2
- 第10回 データベース1（データの並べ替え、データの検索・置換）
- 第11回 データベース2（データ抽出、オートフィルタ、データ集計、クロス集計）
- 第12回 まとめの課題3
- 第13回 Excel 応用1（順位付け関数、検索用関数）
- 第14回 Excel 応用2（文字列操作関数、データベース関数、Word への埋め込み）
- 第15回 まとめの課題4

評価方法

課題の提出状況・出来栄え、授業への参加態度等で総合的に評価する。
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

「30時間でマスターOffice2010」（実教出版）。
その他、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業時間外の時間も利用して課題を進めていくこと。
普段からコンピュータに接する時間を持つこと。

備考

実習の進み具合に応じて、内容は一部省略・変更等することがある。

論理学（専門教養科目）

担当者

米田和美

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択1単位、理学療法学科 2年前期 選択1単位

講義目標

筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。

到達目標

論理的思考を養う。（文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。）

- 1) 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。
「一文一義」の文が書けるようになる。
- 2) 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。

講義内容と講義計画

第1回 「引用」

第2回 「悪文①」

第3回 「資料文の読み方」

第4回 「悪文②」

第5回 「主張と理由」

第6回 「悪文③」

第7回 テスト

内容

- 1、論理的な思考
- 2、文の七原則
- 3、事実の読み方（いつ、どこで、誰が、何を、どうしたのか）
- 4、主張と理由
- 5、研究論文を批判的に検討する。

評価方法

授業中課題 提出物

使用教材

使用しない

授業外学習の内容

予習復習を行うこと。

備考

人間発達論（専門教養科目）

担当者

角野善司

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

本講義は人間の一生涯を受胎から死まで視野に入れて人間発達の理論を学ぶことを目的とする。人間の発達をライフサイクルにそって眺め、各発達段階における発達課題や発達危機の解決、また人格的活力の育成等を柱とする発達過程について学ぶ。

到達目標

主要な発達理論について説明できる。生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。老化が及ぼす心理的影響について説明できる。発達障害が及ぼす心理的影響について説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 発達の基本的視点と諸理論

主要な発達理論を概観し、発達観がどのように変遷してきたかを学ぶことで、発達とは何かについての考えを深める。

第2回 胎児期・乳児期の発達 (1) 概要

第3回 胎児期・乳児期の発達 (2) トピック: 愛着(アタッチメント)

第4回 幼児期の発達 (1) 概要

第5回 幼児期の発達 (2) トピック: 反抗期

第6回 児童期の発達 (1) 概要

第7回 児童期の発達 (2) トピック: ギャング・エイジ

第8回 青年期の発達 (1) 概要

第9回 青年期の発達 (2) トピック: 心理的離乳

第10回 成人期の発達 (1) 概要

第11回 成人期の発達 (2) トピック: 子育て

第12回 老年期の発達 (1) 概要

第13回 老年期の発達 (2) トピック: 自我の統合

第2回から第13回では、各発達段階の概要を学んだうえで、トピックとして取り上げられたその段階における主要な発達課題についての理解を深める。

第14回 発達の障害 各種の発達障害について学び、障害の観点から人間発達について考える。

第15回 発達検査 主要な発達検査をいくつか取り上げ、その実際について学ぶ。

評価方法

宿題 45% (復習課題 15%、小レポート 30%)、学期末テスト 55%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テストの得点に関わらず、単位を付与しない。

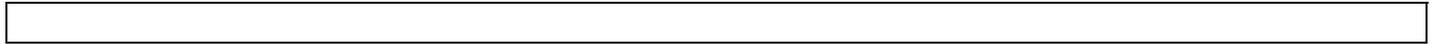
使用教材

「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012年 2000円+税

授業外学習の内容

毎回、復習課題と小レポートを宿題として課す。授業内容をしっかりと振り返り回答すること。宿題の提出はC-Learningによる。また、テキストの次回該当箇所を必ず予習して授業に臨むこと。

備考



人間行動学（専門教養科目）

担当者

上原徹、佐藤大仁

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

学生が、行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。

到達目標

学生が、医療などの対人支援において、ケアを受ける人の心理や行動を理解し、適切な対人的交流のための知識と技術、姿勢を身につけ、他職種と機能的に連携する視点をもてるようになること。

講義内容と講義計画

- 第1回 青年期の心理と性格
- 第2回 対人行動
- 第3回 集団
- 第4回 異文化と自己
- 第5回 ヒューマンファクター 労働の心理学
- 第6回 きずなの発達
- 第7回 自己の形成と発達
- 第8回 現代女性のライフサイクルとライフコース
- 第9回 医療における人間関係
- 第10回 健康
- 第11回 学習と学習支援
- 第12回 知覚
- 第13回 記憶
- 第14回 思考
- 第15回 疲労・メンタルヘルスと現代の職場

評価方法

レポートを中心とし、授業中の態度を参考に、総合的に評価する。

使用教材

福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」米谷、米澤、尾入、神藤編著

授業外学習の内容

教科書の講義に関係する部分を読むこと。

備考

臨床の第一線で勤務している医師を分担講師として招いているので、真摯な態度で授業に臨むこと。授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（評価に影響する）。

化学（専門教養科目）

担当者

鳥澤保廣

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

本講義では、看護を支える基礎としての化学、(病態)生化学の知識を、できるだけかみくだいて、大学一年次の学生が理解しやすいような形で提供する。保健医療学部の学生が将来直面する看護や、理学療法の仕事に役立つ化学知識、医薬品知識もできるだけ組み込んだ構成とし、役に立つ化学の講義をする。

到達目標

看護学科、理学療法学科の学生が、医療と関連する化学の基礎知識を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 毒になる元素、薬になる元素
- 第2回 栄養は有機物、無機物?
- 第3回 地球は水で守られた惑星
- 第4回 胃の中は強酸性
- 第5回 %濃度、mol濃度、規定度に関する計算
- 第6回 ピロリ菌が行う中和反応
- 第7回 微生物の大きさと抗菌薬
- 第8回 酸化還元反応の定義、さまざまな電池
- 第9回 身近な酸化・還元反応
- 第10回 体の中の酸化還元反応:活性酸素四兄弟
- 第11回 酸化ストレスによる発癌、動脈硬化の化学
- 第12回 健康を守る化学:栄養とクスリ(1)
- 第13回 健康を守る化学:栄養とクスリ(2)
- 第14回 補充とまとめ (1)(医療と化学:その1)
- 第15回 補充とまとめ (2)(医療と化学:その2)最終レポート提出

評価方法

毎回の提出レポートによる出欠確認と、理解度による。

使用教材

看護・医療系のための くすりと治療の基礎知識 東京化学同人

授業外学習の内容

次回の講義予定内容や関連する記事など、さらに医療につながる話題などを主体的に学ぶ姿勢を示すこと。

備考

統計学（専門教養科目）

担当者

福島博

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

医療に使う基本的な統計学の基礎をまなぶ。

到達目標

平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数等の基本的統計量の意味を理解すると共に、相関と回帰、検定の基礎について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 統計入門
- 第2回 平均、メジアン、分散等について
- 第3回 相関と回帰
- 第4回 実際のデータ分布と確率分布（離散分布）
- 第5回 正規分布
- 第6回 検定の考え方
- 第7回 正規母集団の検定
- 第8回 χ^2 -検定、独立性の検定

評価方法

期末試験

使用教材

はじめての統計15講、小寺平治著、講談社

授業外学習の内容

備考

生物学（専門教養科目）

担当者

今井純、坂井隆浩

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。そこで、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。

到達目標

- ・細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる
- ・細胞内外の情報伝達機構を説明できる
- ・遺伝や遺伝子について説明できる
- ・発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる
- ・免疫反応を分類し説明できる

講義内容と講義計画

- 第1回 生物学とはどのような学問か
- 第2回 生命とはなにか、生物とはどのようなものか
- 第3回 細胞とはどのようなものか
- 第4回 体をつくる分子にはどのようなものがあるか
- 第5回 体の中で物質はどのように変化するか
- 第6回 遺伝子と遺伝はどのように関連しているか
- 第7回 ヒトの体はどのようにできているか
- 第8回 エネルギーはどのように獲得されるか
- 第9回 ヒトはどのように運動するか
- 第10回 体の恒常性はどのように維持されるか
- 第11回 ヒトは病原体とどのようにたたかうか
- 第12回 ヒトはどのように次の世代を残すか
- 第13回 ヒトはどのように進化してきたか
- 第14回 ヒトをとりまく環境はどのようになっているか
- 第15回 ヒトはどのような生き物か

評価方法

定期試験により合否を判定する。合格者の成績評価は、授業への参加度や貢献度も考慮する。詳しくは初回講義時に説明する。

使用教材

教科書（ヒトを理解するための生物学、八杉貞雄、裳華房）と他に適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

生活科学概論（専門教養科目）

担当者

内田幸子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択1単位

講義目標

医療従事者を目指す学生にとって生活環境の整備を学ぶことは、ライフステージの構築のためにも必要だと考え、ヒトとしての日常的な生活行為にかかわる衣生活、食生活、住生活の三側面の基本的事項の習得を目的とする。

到達目標

医療従事者として必要な基本的な生活科学知識を把握できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 生活基盤としての衣食住
- 第2回 衣の生活科学（ユニバーサルデザインと医療）
- 第3回 衣の生活科学（快適な衣環境）
- 第4回 食の生活科学（食生活と栄養管理）
- 第5回 食の生活科学（食生活と生活習慣病）
- 第6回 住の生活科学（快適な住環境整備）
- 第7回 住の生活科学（環境と生活）
- 第8回 まとめ

評価方法

授業参加度、学期末試験を総合的に評価していくが、評価方法の詳細な基準は初回時に提示する。

使用教材

授業時にプリントを配布する。

授業外学習の内容

授業で学んだことを復習すること。小レポートも課します。

備考

メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp

国際保健医療論（専門教養科目）

担当者

望月 経子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択2単位、理学療法学科 2年後期 選択2単位

講義目標

世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性和意義を理解し、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識する。保健医療分野での国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。

到達目標

1. 国際保健医療協力の概念を理解する。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解する。
3. 世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を理解する。
4. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解する。
5. 国際保健医療協力の実践手法を理解する。
6. 在留外国人への健康支援を考察する。

講義内容と講義計画

- 第1回 国際保健医療協力の概念
- 第2回 保健医療関連の国際機関の取り組みと日本の国際協力
- 第3回 世界の保健医療事情
- 第4回 世界における健康の格差
- 第5回 発展途上国における疾病構造
- 第6回 事例検討
- 第7回 国際協力でのアセスメント①「地理・社会・教育」
- 第8回 国際協力でのアセスメント②「文化・宗教」
- 第9回 国際保健医療協力における世界の潮流
- 第10回 プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
- 第11回 グローバルヘルスの展望と課題
- 第12回 問題解決手法：Project Cycle Management
- 第13回 国際協力の実際（対象国での協働）
- 第14回 在留外国人と多文化共生
- 第15回 異文化コミュニケーション

評価方法

レポート（70%）、授業参加度（30%）

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業資料は毎回使用します。事前に必読箇所を指定しますので、予習して臨んでください。授業の後にミニレポートを課します。前回の授業を踏まえて記述してもらいますので、復習して考えをまとめておいてください。

備考

授業の中でグループワーク／ディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

解剖学 I (理学療法専門基礎科目群)

担当者

三井真一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

人体の構造と機能との関連について理解する

到達目標

- ・解剖学用語を正しく使用することができる
- ・循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系の構造と機能について説明することができる
- ・脊髄の構造と機能について説明することができる
- ・末梢神経系について分布と支配領域を説明することができる
- ・中枢神経系の構造と機能について説明することができる
- ・伝導路について説明することができる

講義内容と講義計画

- 第1回 解剖学序論、細胞・組織・器官について
- 第2回 循環器系；心臓
- 第3回 循環器系；血管
- 第4回 循環器系；血液
- 第5回 呼吸器系；鼻腔～気管支
- 第6回 呼吸器系；肺
- 第7回 消化器系；口腔～胃
- 第8回 消化器系；小腸～肛門
- 第9回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第10回 中間テスト1
- 第11回 内分泌系；序論、視床下部、下垂体
- 第12回 内分泌系；甲状腺、副腎、膵臓、腎臓
- 第13回 感覚器系；体性感覚、視覚
- 第14回 感覚器系；聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚
- 第15回 泌尿器系；腎、尿路系
- 第16回 生殖器系；男性生殖器
- 第17回 生殖器系；女性生殖器
- 第18回 運動器系；骨・筋の組織学
- 第19回 神経系；総論、組織
- 第20回 神経系；末梢神経系（頭頸部、上肢）
- 第21回 中間テスト2
- 第22回 神経系；末梢神経系（下肢、脊髄反射）
- 第23回 神経系；末梢神経系（自律神経系）
- 第24回 神経系；中枢神経系（区分、大脳皮質）
- 第25回 神経系；中枢神経系（大脳）
- 第26回 神経系；中枢神経系（間脳）
- 第27回 神経系；中枢神経系（中脳、橋、延髄、小脳）
- 第28回 神経系；伝導路（下行路）
- 第29回 神経系；伝導路（上行路）
- 第30回 中間テスト3

評価方法

中間テスト(おおむね30%、以下同) 期末テスト(30%)、小テスト(30%)、プリントの提出・受講態度等(10%)を総合して評価を行う。

使用教材

プリント、パワーポイント

授業外学習の内容

配布プリントと教科書を用いて授業前には予定項目にある重要語句に目をとおしておくこと。授業後には必ず復習を行って学習内容を理解し定着させること。

備考

オフィスアワーは非常勤のため特に設けないが、必要があればメール(smitsui@gunma-u.ac.jp)でアポイントを取ってください。

解剖学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）

担当者

浅香満、大野洋一、生方瞳

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

解剖学Ⅰで学習した身体の構造と機能を基軸にして、理学療法士にとって特に重要な神経筋骨格系に焦点をあてて学習する。感覚と神経・筋の触診と起始停止・主要関節の構造と機能を中心に身体機能を系統別に学習する。

到達目標

身体の構造と機能を理解する

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション（系統解剖学概論）
- 第2回 感覚器系（特殊感覚と体性感覚）
- 第3回 神経系Ⅰ（神経解剖と中枢神経）
- 第4回 神経系Ⅱ（末梢神経と伝導路）
- 第5回 運動器系Ⅰ（上肢の骨関節）
- 第6回 運動器系Ⅱ（下肢の骨関節）
- 第7回 運動器系Ⅲ（体幹の骨関節）
- 第8回 運動器系Ⅳ（上肢の神経筋）
- 第9回 運動器系Ⅴ（下肢の神経筋）
- 第10回 運動器系Ⅵ（体幹の神経筋）
- 第11回 運動器系Ⅶ（四肢の関節と靭帯）
- 第12回 運動器系Ⅷ（体幹の関節と靭帯）
- 第13回 体表解剖学Ⅰ（肩甲帯から上肢）
- 第14回 体表解剖学Ⅱ（骨盤帯から下肢）
- 第15回 まとめ（スポーツとリハビリテーションにおける解剖学概論）

評価方法

筆記試験および受講態度などの総合的評価

使用教材

渡邊正仁「理学療法士・作業療法士・言語療法士のための解剖学」（廣川書店）

授業外学習の内容

身体の運動との関連を常に意識しながら臨むこと
国家試験対策として過去問を参考に学習すること

備考

解剖学実習（理学療法専門基礎科目群）

担当者

大野洋一・千木良佑介・生方瞳

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

人体解剖モデルや解剖体観察によって構造と機能を理解する。特に、分解骨標本を用いて関節の構造と筋の附着を確認する。また、模型を用いて脳の局所機能と神経伝達経路を学習する。さらに、ビデオ教材など視聴覚教材を多用し身体の内部構造をイメージできるようにする。

到達目標

人体の構造と機能をイメージ出来るようになる

講義内容と講義計画

- 第1回 上肢の骨関節1
- 第2回 上肢の骨関節2
- 第3回 下肢の骨関節1
- 第4回 下肢の骨関節2
- 第5回 体幹の骨関節1
- 第6回 体幹の骨関節2
- 第7回 上肢の神経筋1
- 第8回 上肢の神経筋2
- 第9回 下肢の神経筋1
- 第10回 下肢の神経筋2
- 第11回 体幹の神経筋1
- 第12回 体幹の神経筋2
- 第13回 頭蓋の骨関節1
- 第14回 頭蓋の骨関節2
- 第15回 頭蓋の神経筋1
- 第16回 頭蓋の神経筋2
- 第17回 体表解剖1（肩甲帯）
- 第18回 体表解剖2（上肢）
- 第19回 体表解剖3（骨盤帯）
- 第20回 体表解剖4（下肢）
- 第21回 運動における人体の構造と機能1
- 第22回 運動における人体の構造と機能2
- 第23回 まとめ1（解剖体観察）
- 第24回 まとめ2（解剖体観察）

評価方法

実技口頭試験および授業態度などの総合的評価

使用教材

青木光弘「解剖からアプローチする からだの機能と運動療法」（メジカルビュー）

授業外学習の内容

模型を良く触れて図を描きながら覚えていくこと

備考

本講義は2コマ連続の講義形式（全24回）となる

生理学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

鯉淵典之、齋島旭、天野出月、宮崎航、大野洋一、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

医科生理学の基礎的事項について専門教育を受ける前に必要な知識を解説する。生命現象の基盤である「体液・血液」「循環・呼吸」「内分泌」「消化・吸収・排泄」「神経」「感覚」等の理解を深めることを目標とする。

到達目標

1. 人体の多様な生理機能の詳細を理解し説明できる。
2. 資料を基に各々の生命現象の物質的・機能的側面を統合し他人に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 体液の生理学：浸透圧、体液・電解質調節、酸-塩基平衡
- 第2回 血液と免疫系：血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム
- 第3回 循環器系（1）：循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類
- 第4回 循環器系（2）：循環の調節機構、特殊循環（脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環）
- 第5回 呼吸と生理学：呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸
- 第6回 内分泌系（1）：内分泌器官の構成、ホルモンと受容体、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン
- 第7回 内分泌系（2）：甲状腺ホルモン、副腎のホルモン、糖代謝ホルモン、カルシウム代謝ホルモン
- 第8回 生殖の生理学：配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性（勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等）
- 第9回 消化・吸収の生理学：消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝
- 第10回 泌尿器系の生理学：泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿
- 第11回 神経系（1）：神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質
- 第12回 神経系（2）：中枢神経系と末梢神経、神経路、脳の機能とその障害
- 第13回 感覚の生理学：感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚
- 第14回 骨と筋肉の生理学：骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み
- 第15回 運動の生理学：脳と運動ニューロン、脊髄、脳幹、大脳皮質運動野、小脳、発生と構音

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

テキスト：「リップピンコット イラストレイテッド生理学」、鯉淵典之監訳、丸善出版、7600円+税
講義資料を適宜プリントにて配布する。

授業外学習の内容

指定したテキストと配布した資料を熟読・理解する。
毎回の講義終了時に出される関連課題に取り組む。

備考

生理学実習（理学療法専門基礎科目群）

担当者

大野洋一、高鶴裕介、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

生理学の講義で学習した臓器構成や血液、呼吸器、消化器の基礎的事項について実際に実験で確認し理解を確立することを目標とする。

到達目標

1. 実験方法の理解と結果の解釈から医学・生物学的なものの見方や論理的な考え方が習得できる。
2. 動物を用いた実験の倫理基準と基本的手法について習得することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 臓器構造と器官系：マウスの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認①
- 第2回 臓器構造と器官系：マウスの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認②
- 第3回 演習：結果の解析とレポートの作成：ヒトとラット（マウス）の臓器における位置関係の比較①
- 第5回 演習：結果の解析とレポートの作成：ヒトとラット（マウス）の臓器における位置関係の比較②
- 第6回 循環器系：血圧の測定①
- 第7回 循環器系：血圧の測定②
- 第8回 演習：結果の解析とレポートの作成：血圧測定の定義とその調整機構の理解①
- 第9回 演習：結果の解析とレポートの作成：血圧測定の定義とその調整機構の理解②
- 第10回 循環器系：心電図の測定による心機能の判定①
- 第11回 循環器系：心電図の測定による心機能の判定②
- 第12回 演習：結果の解析とレポートの作成：心電図における各成分の意味と読み方の習得①
- 第13回 演習：結果の解析とレポートの作成：心電図における各成分の意味と読み方の習得②
- 第14回 呼吸器系：スパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定①
- 第15回 呼吸器系：スパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定②
- 第16回 演習：結果の解析とレポートの作成：呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解①
- 第17回 演習：結果の解析とレポートの作成：呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解②
- 第18回 感覚器系：視覚（盲斑の検出）と皮膚感覚（2点弁別閾）①
- 第19回 感覚器系：視覚（盲斑の検出）と皮膚感覚（2点弁別閾）②
- 第20回 演習：結果の解析とレポートの作成：視覚における盲点の存在と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解①
- 第21回 演習：結果の解析とレポートの作成：視覚における盲点の存在と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解②
- 第22回 神経筋系：光トポグラフィーによる脳血流量測定と筋収縮（伸張反射）の演習①
- 第23回 演習：結果の解析とレポートの作成：脳活動による脳血流量変化と筋収縮のメカニズムの理解①
- 第24回 演習：結果の解析とレポートの作成：脳活動による脳血流量変化と筋収縮のメカニズムの理解②

評価方法

筆記試験 100%

提出したレポートは加点の対象とする。

使用教材

実習毎にプロトコールを配布する。参考図書：「生理学実習書」、監修・日本生理学会教育委員会、南江堂

授業外学習の内容

実験毎に配布した資料を熟読・理解する。
実験結果の解析とレポート作成に取り組む。

備考

運動学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

生方瞳、浅香満、千木良佑介

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修2単位

講義目標

前半（第1-7回）は運動器を中心とした人体の構造と機能に関して神経筋骨格系の機能解剖学を主軸に学習する。後半（第8-14回）は身体の運動を観察し考察できるように学習する。

到達目標

前半の目標：身体の運動について解剖学の知識を深めて理解する

後半の目標：姿勢・歩行・動作の観察と考察が行えるように知識を活用する

講義内容と講義計画

- 第1回 運動学の基本原理・関節と筋の構造と機能①
- 第2回 運動学の基本原理・関節と筋の構造と機能②
- 第3回 肩複合体の構造と機能①
- 第4回 肩複合体の構造と機能②
- 第5回 肘と手の構造と機能①
- 第6回 肘と手の構造と機能②
- 第7回 脊柱の構造と機能①
- 第8回 脊柱の構造と機能②
- 第9回 股関節の構造と機能①
- 第10回 股関節の構造と機能②
- 第11回 膝関節の構造と機能①
- 第12回 膝関節の構造と機能②
- 第13回 足関節の構造と機能①
- 第14回 足関節の構造と機能②
- 第15回 運動発達と運動学習①
- 第16回 運動発達と運動学習②
- 第17回 姿勢1（身体アライメント）
- 第18回 姿勢2（身体バランス）
- 第19回 姿勢3（姿勢観察）
- 第20回 姿勢4（重心観察）
- 第21回 動作1（基本動作—寝返り）
- 第22回 動作2（基本動作—起き上がり）
- 第23回 動作3（応用動作—立ち上がり）
- 第24回 動作4（応用動作—スクワット）
- 第25回 歩行1（正常歩行1）
- 第26回 歩行2（正常歩行2）
- 第27回 歩行3（異常歩行1）
- 第28回 歩行4（異常歩行2）
- 第29回 まとめ1
- 第30回 まとめ2

評価方法

筆記試験および受講態度などの総合的評価

使用教材

弓岡光徳「エッセンシャルキネシオロジー」(南江堂)
中村隆一「基礎運動学」(医歯薬出版)

授業外学習の内容

自分の言葉で専門用語を用いて表現できる練習をする
国家試験対策として過去問を中心に学習する

備考

本講義は2コマ連続の講義形式(全30回)となる

運動学実習（理学療法専門基礎科目群）

担当者

樋口大輔

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

前半（第1-12回）は機能解剖学を基軸に治療技術の理論背景を体験学習する
後半（第13-24回）は応用動作を理解し観察の視点と思考の基礎を学習する

到達目標

前半の目標：関節運動学を考慮し身体を動かすことが出来る
後半の目標：運動力学を考慮し身体の活動を捉えることが出来る

講義内容と講義計画

- 第1回 関節運動学と運動力学の基礎①
- 第2回 関節運動学と運動力学の基礎②
- 第3回 肩関節の構造と機能①
- 第4回 肩関節の構造と機能②
- 第5回 肘・手の構造と機能①
- 第6回 肘・手の構造と機能②
- 第7回 脊柱の構造と機能①
- 第8回 脊柱の構造と機能②
- 第9回 股関節の構造と機能①
- 第10回 股関節の構造と機能②
- 第11回 膝関節の構造と機能①
- 第12回 膝関節の構造と機能②
- 第13回 足関節の構造と機能①
- 第14回 足関節の構造と機能②
- 第15回 姿勢①
- 第16回 姿勢②
- 第17回 動作①
- 第18回 動作②
- 第19回 正常歩行①
- 第20回 正常歩行②
- 第21回 異常歩行①
- 第22回 異常歩行②
- 第23回 まとめ①
- 第24回 まとめ②

評価方法

実技口頭試験および授業態度などの総合的評価

使用教材

弓岡光徳「エッセンシャルキネシオロジー」（南江堂）
中村隆一「基礎運動学」（医歯薬出版）

授業外学習の内容

解剖学と運動学を良く復習して臨むこと

備考

本講義は2コマ連続の講義形式（全24回）となる

生化学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

佐藤幸市

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修1単位、理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

生命の働きと営みを細胞よりも小さな分子レベルで理解できるようになることを目的とする。

到達目標

分子レベルで疾病を考えられることを目指す。

講義内容と講義計画

第1回 第1章 生命の保持と生化学の基本

第2回 第2章 酵素と第3章 糖質代謝

第3回 第4章 脂質代謝、第5章 アミノ酸、タンパク質代謝

第4回 第6章 ヌクレオチド代謝、第7章 遺伝情報とその発見（7-1、7-2）

第5回 第7章 遺伝情報とその発見の後半として7-3 バイオテクノロジーと医学への応用と遺伝病ならびに

第8章 ビタミン

第6回 第9章 ホルモンと第10章 水と無機物（10-1）

第7回 第10章 水と無機物（10-2 体内の無機物質）と第11章 臓器の生化学

第8回 第12章 疾患の生化学とまとめ

評価方法

学期末テストなど総合的に評価する。

使用教材

よくわかる専門基礎講座 生化学 金原出版

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

栄養学 I (理学療法専門基礎科目群)

担当者

渡邊美鈴

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修1単位、理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

生体は発育、成長し、生命を維持し、健全な生命活動を営むために食物を摂取し、栄養素を取り込んでいる。栄養とは何か、摂取食物の栄養成分はどのように代謝され、エネルギーや対構成成分として利用されるか。栄養状態の評価、判定について学ぶ。

到達目標

生命維持のための栄養素の働きについて、理解できる。

講義内容と講義計画

第1回 臨床栄養学を学ぶ、目的が理解できる。

臨床栄養学の役割、日本の栄養サポートチームの現状について (ビデオ)。

第2回 栄養の基礎概念を理解する①。

三大栄養素の栄養的特徴:生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。

第3回 栄養の基礎概念を理解する②。

食物繊維、ビタミン、ミネラル、水分の栄養的特徴:消化吸収、体内代謝、欠乏症、過剰症について理解する。

第4回 食品の持つエネルギーとエネルギーの測定方法、運動と栄養 回復期リハビリテーション病棟での栄養管理の実際を理解する。

生体のエネルギー代謝の仕組みとエネルギー消費量の求め方、運動の強度と三大栄養素の体内代謝、日常の運動、スポーツ時の消費エネルギーの関連を理解し、栄養管理の重要性を理解する。

第5回 嚥下障害・経口摂取できない場合の栄養補給方法。

摂食・嚥下の正常なプロセスを理解し、障害時の栄養補給方法 (経静脈栄養、経腸栄養、経口栄養管理) を理解する。

第6回 日本人の食事摂取基準(2015年度版)を理解する。

健康増進のための食生活指針を理解し、具体的な栄養指導方法を理解する。

日本の食文化と現在の食生活の特徴が理解できる。

第7回 栄養アセスメントの意義と役割を理解する。

SGAによる栄養評価を理解する (CD-R)

第8回 栄養アセスメントの意義と役割を理解する。

ODAによる栄養評価を理解する (CD-R)

評価方法

総合試験 90%、授業参加度 10%

使用教材

ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学

授業外学習の内容

次回授業内容を予習し、内容を把握する。

備考

栄養学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）

担当者

渡邊美鈴

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

生涯にわたり、健康を維持するためには、ライフステージごとの適正な食生活が大切である。ライフステージ別の栄養の特性及び傷病者の栄養の特長について学ぶ。

到達目標

人生各期、傷病者の栄養摂取の特徴が理解できる。

講義内容と講義計画

第1回 人生各期の健康生活と栄養について理解する。
乳児期、学童期、青年期、成人期、妊娠、授乳期、高齢期。
成分別栄養管理を理解する。

第2回 療養生活と栄養①。
検査のための食事、治療による回復を促すための栄養管理について理解する。
消化器系疾患の病態と栄養管理について理解する。

第3回 療養生活と栄養②
癌患者の症例検討（CD-R）

第4回 療養生活と栄養③
肝臓病患者の症例検討（CD-R）

第5回 療養生活と栄養④
クローン病患者の症例検討（CD-R）

第6回 療養生活と栄養⑤
内分泌、代謝疾患の病態と栄養管理について理解する。
褥瘡の栄養管理について理解する。

第7回 療養生活と栄養⑥
循環器系疾患の病態と栄養管理について理解する。
腎疾患の病態と栄養管理について理解する。

第8回 療養生活と栄養⑦
COPD患者の症例検討（CD-R）

評価方法

総合試験 90%、授業参加度 10%

使用教材

ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学

授業外学習の内容

次回授業内容を予習し、内容を把握しておくこと。

備考

病理学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

福田利夫、関麻衣、岩科雅範

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修1単位、理学療法学科 1年後期 必修2単位

講義目標

病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けて通れないであろう。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である。

到達目標

- 1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。
- 2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 病理学概論

病理学の歴史、基礎医学としての重要性。病理学総論と各論の考え方とその意義。病理学と臨床医学との連携（病理診断、細胞診断、病理解剖）。臨床における病理学の知識の重要性

第2回 病理総論(1) 腫瘍

腫瘍とは何か、良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴、腫瘍の原因、腫瘍の人体における病態(早期癌、進行癌、転移)腫瘍の診断(血清マーカー、画像、生検)などを取り上げる。

第3回 病理総論(2) 炎症

炎症を学ぶ。古典的 4 徴候からはじめ、炎症の組織形態、炎症担当細胞の種類、炎症の転帰また、創傷治癒の機転をみてゆく。

第4回 病理総論(3) 循環障害

ヒトの体液分布とその異常、止血のメカニズム、出血、うっ血、充血、浮腫、腔水症、血栓塞栓、梗塞、ショック、DICについて学ぶ。

第5回 病理総論(4) 感染症、免疫異常

感染症の概論と、多臓器不全、全身性炎症性症候群など临床上重要な病態を説明する。免疫異常による疾患を説明するため、免疫担当細胞の種類、正常な免疫応答について学ぶ。そして、免疫学異常のパターンとそれによって惹き起こされる代表的疾患(過敏症:喘息、じんま疹、薬剤アレルギー、自己免疫性疾患、移植片の拒絶反応など)、AIDSを中心とした免疫不全について解説する。

第6回 病理総論(5) 代謝障害・生活習慣病・遺伝性疾患

糖尿病などの代謝に関わる病態、及び代表的な遺伝性疾患、染色体異常をとりあげる。

7-15 回の各論では、臓器ごとに、各臓器の解剖学的な特徴を述べ、そこに発生する頻度が高く、重要な疾患について、写真や図をみながら解説する。

第7回 各論 脳・神経系

頭蓋内圧亢進状態と脳ヘルニア、血管障害(頭蓋内出血、脳梗塞、蛛膜下出血)。脳炎・髄膜炎といった感染症。おもな脳腫瘍、神経変性疾患。

第8回 各論 消化器

口腔、食道から肛門にいたる消化管を主座とする疾患について。

第9回 各論 肝、胆、膵臓

肝炎、肝硬変、肝腫瘍。胆石・胆嚢炎。膵炎、膵癌など。

第10回 各論 運動器

関節の構造。骨折の治癒機転。変形性関節症。椎間板ヘルニア。おもな関節炎。リウマチ。痛風。おもな骨軟部腫瘍。

第11回各論 乳腺、内分泌器

乳腺疾患。甲状腺、副腎など内分泌臓器の疾患やホルモン過剰、低下による病気。

第12回各論 腎泌尿器・婦人科

腎炎、腎腫瘍。尿路結石、尿路腫瘍、尿路の炎症。前立腺、睪丸の疾患。女性生殖器(卵巣、子宮、外陰部)の疾患、妊娠に関わる疾患。

第13回各論 呼吸器疾患 (1) 非腫瘍性疾患

肺の解剖学の復習から始め、呼吸器系に生じる炎症性疾患の特徴を病理学的な観点から学ぶ。

第14回各論 呼吸器疾患 (2) 腫瘍性疾患

肺がんを主体にその病理組織学的な特徴を学ぶ。

第15回各論 造血器疾患

白血病。悪性リンパ腫。貧血の分類など造血器リンパ組織の疾患。

評価方法

期末におこなうによる試験の成績 70%

毎回講義中におこなう小テストの成績 30%

合計 70 点以上を可とする。

使用教材

使用教材 系統看護講座 専門基礎 病理学 坂本ら編著 医学書院 2011 年

授業外学習の内容

備考

授業終了後、教科書の関連する箇所を読み、復習する。

授業前後に、解剖・生理学の関連する箇所を予復習する。

そのほか、成人看護論の分野の教科書などを参考にするとよい。

また、新聞、インターネット等を活用し、関連する情報の取得につとめ、知識を確認、更新してゆくとよい。

とにかく、全身の感覚を活用して、病理の世界に親しんでほしいものである。

薬理学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

伊藤政明

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。

到達目標

基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 薬物治療の目ざすもの
- 第2回 薬はどのように作用するのか
- 第3回 薬はどのように体内をめぐるのか
- 第4回 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題
- 第5回 抗感染症薬
- 第6回 抗がん薬・免疫治療薬
- 第7回 抗アレルギー薬・抗炎症薬
- 第8回 末梢神経系に作用する薬
- 第9回 中枢神経系に作用する薬 (1)
- 第10回 中枢神経系に作用する薬 (2)
- 第11回 心臓・血管系に作用する薬 (1)
- 第12回 心臓・血管系に作用する薬 (2)
- 第13回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬
- 第14回 物質代謝に作用する薬
- 第15回 まとめ

評価方法

受講態度および期末試験の結果から総合的に評価する。

使用教材

系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第13版
吉岡充弘他編 医学書院 2014年 2,484円
テキストを中心に講義を行う。適宜補足資料を配布する。

授業外学習の内容

授業で学んだことをよく復習しておくこと。

備考

教職必修科目

公衆衛生学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

亀尾聡美

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修2単位、理学療法学科 1年後期 必修2単位

講義目標

公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を踏まえながら、このような公衆衛生学の特徴、社会・環境と健康の関連を示し、現在の公衆衛生学的なものの方や考え方を身につけることが目標である。

到達目標

公衆衛生学に関する基本的な概念、関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連、および、現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 公衆衛生学概論 1: 公衆衛生学の概念・健康の概念
- 第2回 公衆衛生学概論 2: 公衆衛生学の歴史
- 第3回 環境保健: 環境と健康
- 第4回 環境保健: 公害と環境基準
- 第5回 生活の中の環境衛生
- 第6回 食品衛生: 食品と健康
- 第7回 食品の安全とリスク分析
- 第8回 保健統計
- 第9回 疾病統計
- 第10回 母子保健
- 第11回 学校保健
- 第12回 産業保健
- 第13回 成人・高齢者保健
- 第14回 地域保健と保健行政
- 第15回 まとめ

評価方法

講義時に数回行うミニレポートの結果と期末試験の結果を総合的に評価する。
評価方法の詳細については、第1回目の講義の際に説明する。

使用教材

「衛生・公衆衛生学」(アイ・ケイコーポレーション)

授業外学習の内容

講義に関連する報道や新聞記事など実際の社会における公衆衛生学的な内容に関心を持つこと。関連する法律に目を通してみる。

備考

参考書:「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)
教職必修科目

画像診断学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

樋口大輔、小林真

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

画像診断機器の基本原理と画像診断の理論、ならびに、理学療法で扱う代表的な疾患の画像のみかたを学ぶことにより、臨床実習において最小限の指導の下で、患者の病態を踏まえた合理的な治療計画を立てることができるようになることを目標とします。

到達目標

画像の読影に必要な基礎的知識を述べるができる。
代表的疾患の画像から所見を読み取るができる。
読み取った画像所見と理学療法とを結び付けることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 画像診断機器の原理と画像の構成
- 第2回 骨関節疾患についての画像診断①下肢
- 第3回 骨関節疾患についての画像診断②上肢・脊柱
- 第4回 超音波画像診断
- 第5回 呼吸器疾患についての画像診断
- 第6回 神経系疾患についての画像診断①
- 第7回 神経系疾患についての画像診断②
- 第8回 神経系疾患についての画像診断③

評価方法

授業参加度（10%）、期末筆記試験（90%）

使用教材

画像診断コンパクトナビ（第3版）（医学教育出版社、3,800円＋税）

授業外学習の内容

授業では臨床画像を多く使用するため、事前の予習が非常に重要です。予習していることを前提に講義を実施します。

備考

時間の許す限り質問等に応じます。[研究室不在時は \[higuchi-d@takasaki-u.ac.jp\]\(mailto:higuchi-d@takasaki-u.ac.jp\) に連絡してください。](mailto:higuchi-d@takasaki-u.ac.jp)

臨床医学 I (内科学・外科学) (理学療法専門基礎科目群)

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修2単位、理学療法学科 1年後期 必修2単位

講義目標

脳・神経系、呼吸器系、循環器系、血液・造血器系、消化器系、腎・泌尿器疾患について、その成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を説明できるようにする。

到達目標

テキストに付属している整理ノートの内容が説明できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 臨床医学入門
- 第 2 回 脳・神経系疾患 (1)序論
- 第 3 回 脳・神経系疾患 (2)中枢神経系疾患
- 第 4 回 脳・神経系疾患 (3)末梢神経系疾患
- 第 5 回 脳・神経系疾患 (4)筋肉疾患、その他
- 第 6 回 呼吸器疾患 (1)序論
- 第 7 回 呼吸器疾患 (2)気管支・肺胞疾患
- 第 8 回 呼吸器疾患 (3)感染症疾患
- 第 9 回 呼吸器疾患 (4)肺癌、その他
- 第 10 回 循環器疾患 (1)序論、解剖
- 第 11 回 循環器疾患 (2)虚血性心疾患
- 第 12 回 循環器疾患 (3)不整脈
- 第 13 回 循環器疾患 (4)弁膜症、その他
- 第 14 回 まとめ
- 第 15 回 血液・造血器疾患 (1)赤血球系疾患
- 第 16 回 血液・造血器疾患 (2)白血球系疾患
- 第 17 回 血液・造血器疾患 (3)血小板系疾患、凝固異常型疾患、その他
- 第 18 回 血液・造血器疾患 (3)血小板系疾患、凝固異常型疾患、その他
- 第 19 回 消化管疾患 上部消化管疾患(1)
- 第 20 回 消化管疾患 上部消化管疾患(2)
- 第 21 回 消化管疾患 下部消化管疾患(1)
- 第 22 回 消化管疾患 下部消化管疾患(2)
- 第 23 回 肝・胆・膵疾患 (1)肝臓疾患
- 第 24 回 肝・胆・膵疾患 (2)肝臓疾患
- 第 25 回 肝・胆・膵疾患 胆道疾患
- 第 26 回 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患、その他
- 第 27 回 腎・泌尿器 (1)序論
- 第 28 回 腎・泌尿器 (2)腎臓疾患
- 第 29 回 腎・泌尿器 (3)尿路系疾患
- 第 30 回 臨床医学 I まとめ

評価方法

筆記試験，授業参加度状況，学習態度により総合評価する。

使用教材

臨床病態学：総論、1、2、3（ヌーヴェルヒロカワ）

※自主学習や卒業後も使える内容なので、自主的に用いること

授業外学習の内容

授業に出てくる臨床症状について、各自予習・復習をすること。

備考

臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）（理学療法専門基礎科目群）

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

内分泌・代謝系、感染症、免疫・アレルギー系、泌尿器系、歯科・口腔器系疾患について、その成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を説明できるようにする。

到達目標

実践現場に生かせる基礎知識を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 内分泌疾患 (1)視床下部、下垂体系
- 第2回 内分泌疾患 (2)甲状腺、副甲状腺
- 第3回 内分泌疾患 (3)副腎
- 第4回 内分泌疾患 (4)性腺、その他
- 第5回 代謝 (1)糖尿病
- 第6回 代謝 (2)脂質代謝異常、その他
- 第7回 感染症 (1)ウィルス性、細菌性疾患
- 第8回 感染症 (2)真菌、原虫、寄生虫疾患
- 第9回 感染症 (3)子どもの感染性疾患
- 第10回 免疫・アレルギー疾患 (1)アレルギー疾患
- 第11回 免疫・アレルギー疾患 (2)膠原病(1)
- 第12回 免疫・アレルギー疾患 (3)膠原病(2)、その他
- 第13回 泌尿・生殖器疾患 生殖器疾患
- 第14回 歯科・口腔系疾患 う蝕、歯周病
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験，授業参加度状況，学習態度により総合評価する。

使用教材

臨床病態学：総論、1、2、3（ヌーヴェルヒロカワ）

※自主学習や卒業後も使える内容なので、自主的に用いること

授業外学習の内容

授業に出てくる臨床症状について、各自予習・復習をすること。

備考

臨床医学Ⅲ（老年医学）（理学療法専門基礎科目群）

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

加齢に伴う人体の構造と機能の変化、老年者に特有の症候と問題、老年者のフィジカルアセスメントのコツ、老年者疾患の特徴を説明できるようにする。

到達目標

老年者にかかわる際に注意すべき基礎知識を病態生理の視点から習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 老年者の生理的特徴(1)
- 第2回 老年者の生理的特徴(2)
- 第3回 意識障害、せん妄
- 第4回 熱中症、脱水症
- 第5回 睡眠障害
- 第6回 排尿障害、便秘
- 第7回 認知症(1)
- 第8回 認知症(2)
- 第9回 認知症(3)
- 第10回 老年者の運動器疾患(1)骨、関節、脊椎
- 第11回 老年者の運動器疾患(2)ロコモティブ症候群
- 第12回 老年者の皮膚疾患
- 第13回 老年者の感覚器疾患
- 第14回 老年者と薬
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験，授業参加度状況，学習態度による総合評価

使用教材

系統看護講座老年看護病態・疾患論医学書院

授業外学習の内容

すでに臨床医学Ⅰ・Ⅱで学習してあるものがあるので、臨床医学Ⅰ・Ⅱの予習復習も行うこと。

備考

今まで学んできたことを参照に、老年者特有の疾患・病態・治療・対応について学習すること。この授業では、老年者に絞った内容にするので、一般事項については自己学習すること。

授業外学習の内容：授業でわからないものはすでに臨床医学Ⅰ、Ⅱで学習してあるものが多いので、臨床医学Ⅰ、Ⅱの予習復習も行うこと。

臨床医学Ⅳ（小児医学）（理学療法専門基礎科目群）

担当者

鈴木隆

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 3年前期 選択1単位

講義目標

健康障害をもつ子どもと家族の生活・療養援助と基礎となる医学的知識の習得を目的とし、病因をふまえた疾病の理解と診断に必要な検査、主な治療について理解する。

到達目標

- ①小児に特有な疾患と病態を理解する
- ②診断に必要な所見・検査を理解する
- ③主な治療法について理解する
- ④健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ

講義内容と講義計画

- 第1回 人はなぜ病気になるのか、子どもの疾患の特徴、染色体異常:ダウン症候群
- 第2回 代謝・内分泌疾患:先天代謝異常、糖尿病、下垂体疾患、甲状腺疾患
- 第3回 アレルギー・免疫疾患:食物アレルギー、喘息、免疫不全、若年性特発性関節炎
- 第4回 感染症1:ウイルス感染症 インフルエンザ、ムンプス、水痘、風疹
- 第5回 感染症2:細菌感染症 肺炎球菌、ヒブ、溶連菌、ブドウ球菌
- 第6回 呼吸器疾患:喉頭炎、気管支炎、肺炎
- 第7回 循環器疾患:先天性心疾患、心筋疾患、不整脈、川崎病
- 第8回 消化器疾患:先天異常、胃腸炎、肝炎、腸重積、虫垂炎、炎症性腸炎
- 第9回 感染症3（話題の感染症）:HIV、テングー熱、エボラ出血熱、トリインフルエンザ
- 第10回 血液・悪性新生物:紫斑病、貧血、白血病、悪性腫瘍
- 第11回 腎泌尿器疾患・皮膚疾患:尿路奇形、腎炎、ネフローゼ、母斑、湿疹
- 第12回 新生児期の疾患・精神疾患:低出生体重児、てんかん、脳性まひ、脳炎
- 第13回 耳鼻咽喉疾患・精神疾患・眼疾患:中耳炎、副鼻腔炎、発達障害、結膜炎
- 第14回 運動器疾患・事故:先天性股関節脱臼、頭部外傷、誤飲、溺水、熱傷
- 第15回 総まとめ

評価方法

レポート 25点、期末試験 75点

使用教材

小児看護学（2）医学書院

授業外学習の内容

講義の時に資料を配り、また重点項目を挙げておくので、復習をしっかりと行うこと

備考

臨床医学Ⅴ（女性医学）（理学療法専門基礎科目群）

担当者

竹中恒久

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 選択1単位

講義目標

周産期にある女性の経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。
また、女性生殖器におこる疾患についても理解する。

到達目標

女性医学に関する病名を聞いた時にその疾患の概略をイメージできる。

講義内容と講義計画

- 第1回 妊娠の生理 ① 妊娠の成立、胎児の発育と生理
- 第2回 妊娠の生理 ② 妊婦と胎児のアセスメント
- 第3回 分娩の生理 ① 分娩の要素
- 第4回 分娩の生理 ② 産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化
- 第5回 妊娠の異常 ① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症
- 第6回 妊娠の異常 ② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠
- 第7回 分娩の異常 ① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常
- 第8回 分娩の異常 ② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離
- 第9回 分娩の異常 ③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術
- 第10回 産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児
- 第11回 出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断・治療
- 第12回 女性生殖器の構造と疾患 ① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理
- 第13回 女性生殖器の構造と疾患 ② 診察・検査と治療・処置
- 第14回 女性生殖器の構造と疾患 ③ 疾患の理解 ①
- 第15回 女性生殖器の構造と疾患 ④ 疾患の理解 ②

評価方法

筆記試験

使用教材

母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院

授業外学習の内容

この領域は復習が重要と思います。復習をきちんとされることを希望します。

備考

臨床医学Ⅵ（精神医学）（理学療法専門基礎科目群）

担当者

上原徹

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

学生が、医療専門職である精神保健福祉士（看護師、理学療法士）として必要となる、精神医学に関する基本的な知識を身につける。精神医療全般についての初級知識を習得し、その視点を生かした援助方法とは何かを、自ら考えるきっかけをつかむこと

到達目標

学生が、精神疾患や心理社会的問題の概要を理解すること。学生が、こころの健康を保つための基本に触れ、それを援助するために必要な知識を整理すること。精神医療の導入・入門編として、支援者を目指すうえで知っておくべき事項を、わかりやすいテキストを通して学習する。

講義内容と講義計画

- 第1回 精神医学や精神医療のイントロダクション
- 第2回 他者を理解するための基本
- 第3回 家族と地域に関する事柄
- 第4回 支援者になるためのヒント
- 第5回 精神の痛みや病気は何をもたらすか
- 第6回 統合失調症とは？
- 第7回 うつ病や躁うつ病とは？
- 第8回 認知症とは？
- 第9回 アルコールや物質依存とは？
- 第10回 神経症とは？
- 第11回 児童青年期の病とは？
- 第12回 支援に役立つテクニックやスキル
- 第13回 精神保健福祉関係機関について
- 第14回 精神科の治療法について
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験をもとに評価を行うが、授業態度も参考にする。

使用教材

援助者必携 はじめての精神科（第2版） 著：春日 武彦 医学書院

授業外学習の内容

特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。

備考

授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（厳しく評価に影響する）。複数の学科学生が合同で受講するので、騒いだりせず、真摯な態度で臨むこと。教職必修科目

言語障害治療学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

丹下弥生・平野哲

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

理学療法を行う際には、理学療法士として目指す成果に加え、広義のリハビリテーションの目的を達成するためにも、対象者との良い関係づくりが必須となる。授業では、コミュニケーションの基本、聴覚言語障害を引き起こす疾患の病態やコミュニケーションに問題がある方への関わり方を学び、リハビリテーションチームの一員として、臨床の場で言語聴覚障害者と良いコミュニケーションを取ることが出来る力の獲得をめざす。

到達目標

コミュニケーション障害がある方に適切な対応ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 コミュニケーション概論①
- 第2回 コミュニケーション概論②（ワークで学ぶ）
- 第3回 失語症
- 第4回 失語症者との関わり方をワークで学ぶ
- 第5回 構音障害
- 第6回 AAC・コミュニケーション評価
- 第7回 聴覚障害、認知症の方との関わり方
- 第8回 まとめ

評価方法

レポートまたは小テスト 80%、授業態度 20%で評価

使用教材

配布資料中心

授業外学習の内容

備考

リスクマネジメント（理学療法専門基礎科目群）

担当者

竹内伸行

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

理学療法士にとって重要なリスク(転倒、感染、薬の副作用等)を理解し、その予防と再発防止のための知識、手法を学ぶ。インシデント・アクシデントについて、そのレポートの重要性とその活用を理解し、再発予防の取り組みを学ぶ。

到達目標

理学療法において基礎的なリスク管理が実践できる。過去のインシデント・アクシデント事例からその発生要因を考え、同種事例の再発予防策を立案し実施できる。

講義内容と講義計画

第1回 リスクとリスクマネジメント

- ・理学療法におけるリスクとは何かを学ぶ。
- ・リスクマネジメントの必要性を理解する。
- ・事故の要因を学ぶ。

第2回 なぜ事故が生じるのか

- ・インシデントやアクシデントの発生要因を理解する。
- ・インシデント、アクシデントレポートの意義と書き方、その活用について学ぶ。
- ・リスクマネジメントにおける情報の重要性を学ぶ。

第3回 危険予知トレーニングと事故要因分析

- ・危険予知トレーニングの目的と方法を理解する。
- ・基本的な事故要因分析手法を理解する。

第4回 事故要因分析

- ・グループに分かれて過去に実際に起こった事例あるいは模擬事例の事故要因分析を実施する。

第5回 災害時の理学療法とリスクマネジメント

- ・災害医療とは何かを学ぶ。
- ・災害時の理学療法の必要性を理解する。

第6回 理学療法におけるリスクマネジメント1

- ・転倒、転落の要因とその予防を学ぶ。
- ・廃用症候群の要因とその予防を学ぶ。
- ・薬の副作用、薬害を学ぶ。

第7回 理学療法におけるリスクマネジメント2

- ・感染とその予防を学ぶ。
- ・手洗いの方法と重要性を学ぶ。

第8回 まとめ

評価方法

筆記試験で評価する。授業態度の状況により加減点を行うことがある。

使用教材

必要な資料は随時配布する。
参考図書については後日連絡する。

授業外学習の内容

・必要に応じて、次回授業の資料を事前に配布するので、熟読して分からない用語等は前もって調べておく。

備考

e-mail ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp

整形外科 I (理学療法専門基礎科目群)

担当者

小林勉

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修 2 単位

講義目標

四肢体幹の機能に関する臨床医学である整形外科を理解する。

到達目標

運動器外傷、障害、疾患に対応した整形外科的考え方を身につけ、そのリハビリテーション法を会得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 整形外科とは 歴史,名前の由来(形成外科,美容外科との違い),整形外科的診断法(MMT,ROM),肢位の表示,切断
- 第 2 回 骨と疾患 基本構造,骨代謝,骨軟化症,骨粗鬆症,骨髄炎
- 第 3 回 骨折と腫瘍 骨折の定義,分類,診断,治療,骨軟部腫瘍
- 第 4 回 関節 基本構造,関節外傷,関節炎,関節リウマチ,痛風
- 第 5 回 関節の疾患 変形性関節症,神経病性関節症,血友病性関節症,関節腫瘍
- 第 6 回 末梢神経 基本構造,末梢神経損傷,絞扼性神経障害,腕神経叢損傷
- 第 7 回 脊椎 基本構造と機能,彎曲異常,斜頸,脊椎脊髄腫瘍
- 第 8 回 脊椎の外傷と疾患 骨折,脊髄損傷,椎間板ヘルニア
- 第 9 回 脊椎の疾患 感染症,脊椎カリエス,変形性脊椎症,腰部脊柱管狭窄症
- 第 10 回 股関節 基本構造,先股脱,ペルテス病,骨盤骨折,大腿骨頸部骨折,変形性股関節症,
- 第 11 回 膝関節 基本構造,靭帯損傷,半月損傷,膝蓋骨骨折,オスグッド病,変形性膝関節症
- 第 12 回 足と足関節 基本構造,靭帯損傷,内反足,扁平足,外反母趾
- 第 13 回 肩と肘 基本構造,肩肘の外傷,疾患,上腕骨顆上骨折,フォルクマン拘縮
- 第 14 回 手と手関節 基本構造と機能,外傷,骨折,屈筋,伸筋腱損傷
- 第 15 回 手の疾患 キーンバック病,腱鞘炎,リウマチ

評価方法

筆記試験による

使用教材

標準整形外科学 医学書院

授業外学習の内容

解剖学を予習すると理解しやすい。講義ノートの復習が重要。

備考

整形外科学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）

担当者

小林勉

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

スポーツ活動における運動器の外傷、障害、疾患と身体の運動連鎖を理解する。

到達目標

整形外科的スポーツ障害を学び、その診断、治療法と予防、リハビリテーションを理解出来る。テーピングの意義を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 下肢筋の特性と運動連鎖：基本構造、筋損傷、運動連鎖
- 第2回 膝関節のスポーツ障害：膝関節の基本構造、障害・外傷各論
- 第3回 足・足関節のスポーツ障害：足・足関節の基本構造、障害・外傷各論
- 第4回 体幹、脊椎のスポーツ障害：体幹・脊椎の障害・外傷各論
- 第5回 骨盤・下肢のスポーツ障害：骨盤・下肢の障害・外傷各論
- 第6回 肩関節のスポーツ障害1：肩関節の基本構造、障害・外傷各論
- 第7回 肩関節のスポーツ障害2：肩関節障害の症例提示、基礎研究
- 第8回 肘関節・手関節・手のスポーツ障害：肘関節・手関節・手のスポーツ外傷・障害各論

評価方法

筆記試験による

使用教材

標準整形外科学 医学書院

授業外学習の内容

講義のノートの復習が重要。

備考

健康運動実践指導者養成科目

神経内科学 I (理学療法専門基礎科目群)

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修 2 単位

講義目標

神経内科学は理学療法士の将来、大きく関わる学問分野である。本講義では神経内科の基礎を学び、神経内科関連疾患の種類、分類、病態、治療について習得する。特に神経内科学 I では脳血管障害を中心に学習し、リハビリテーションとの関わりを考える。

到達目標

医療、保健、福祉、介護分野で遭遇する神経内科疾患を挙げ、それぞれについてその病態、治療について説明できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 神経内科学序論
- 第 2 回 神経解剖学
- 第 3 回 神経診断学・各機能の見方 (1)脳神経系
- 第 4 回 神経診断学・各機能の見方 (2)運動系
- 第 5 回 神経診断学・各機能の見方 (3)末梢神経系
- 第 6 回 検査法(画像、生理検査)
- 第 7 回 脳血管障害 (1)序論
- 第 8 回 脳血管障害 (2)症候
- 第 9 回 脳血管障害 (3)症候
- 第 10 回 脳血管障害 (4)治療
- 第 11 回 パーキンソン症候群 (1)序論
- 第 12 回 パーキンソン症候群 (2)症候
- 第 13 回 パーキンソン症候群 (3)治療
- 第 14 回 運動ニューロン疾患;筋萎縮性側索硬化症、その他
- 第 15 回 神経内科 I まとめ

評価方法

筆記試験、授業参加度状況、学習態度による総合評価

使用教材

神経内科学テキスト (南江堂)
(参考) ベットサイドの神経の診かた (南江堂)

授業外学習の内容

シラバスで予定されている学習項目について教科書を用いて予習してこよう。

備考

一般的には難しいというイメージのある神経系、神経疾患について詳細かつ系統的に学習するので、シラバスに対応した箇所の予習をしてこよう。

神経内科学Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修2単位

講義目標

神経内科学は理学療法士の将来、大きく関わる学問分野である。本講義では神経内科の基礎を学び、神経内科関連疾患の種類、分類、病態、治療について習得する。

到達目標

医療、保健、福祉、介護分野で遭遇する神経内科疾患を挙げ、それぞれについてその病態、治療について説明できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 脱髄疾患;多発性硬化症、その他
- 第2回 末梢神経障害 (1)急性炎症性多発根神経炎、その他
- 第3回 末梢神経障害 (2)内科的末梢神経障害、その他
- 第4回 ミオパチー (1)
- 第5回 ミオパチー (2)、神経筋接合部疾患
- 第6回 腫瘍;脳腫瘍、脊髄腫瘍
- 第7回 脊髄疾患;脊髄卒中、脊髄空洞症、その他
- 第8回 感染症
- 第9回 先天異常・脳性麻痺
- 第10回 代謝・中毒性疾患
- 第11回 外傷、自律神経疾患
- 第12回 機能性疾患;頭痛、その他
- 第13回 認知症 (1)アルツハイマー病
- 第14回 認知症 (2)アルツハイマー病以外の認知症
- 第15回 神経内科学Ⅱまとめ

評価方法

筆記試験、授業参加度状況、学習態度による総合評価

使用教材

神経内科学テキスト（南江堂）
（参考）ベットサイドの神経の診かた（南江堂）

授業外学習の内容

シラバスで予定されている学習項目を教科書を用いて予習してくること

備考

一般的には難しいというイメージのある神経系、神経疾患について詳細かつ系統的に学習するので、シラバスに対応した箇所の予習をしていくこと。

リハビリテーション概論 I (理学療法専門基礎科目群)

担当者

浅香満、居村茂幸

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

リハビリテーションの歴史と理念を理解し、障害構造の理解およびリハビリテーション専門職としての使命について学習する。国際障害分類として ICF 分類の理念と理学療法との関連性、医学分野、職業分野、教育分野、社会的リハビリテーション分野など各分野について理解し、理学療法士としてどのように地域社会と連携をとるべきかグループワークなども活用しながら学ぶ。

到達目標

リハビリテーションを理解し、医療人・理学療法士学生であることを自覚し、今後の勉学の方向性を立てられる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 リハビリテーションの概念・歴史
- 第 2 回 疾病・障害の概念と構造
- 第 3 回 リハビリテーションにおける流れ
- 第 4 回 リハビリテーションのチームと専門職の役割
- 第 5 回 リハビリテーションの展開
- 第 6 回 ADL・QOL
- 第 7 回 地域リハビリテーション
- 第 8 回 リハビリテーションを取り巻く諸制度

評価方法

筆記試験 80% 授業態度・参加度 20%

使用教材

上好昭孝他『リハビリテーション概論』(永井書店) 2,490 円・配布資料

授業外学習の内容

次のキーワードについて、調べてくること。

備考

授業前に確認または小テストを行なう。
質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。
なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。
asaka@takasaki-u.ac.jp

リハビリテーション概論Ⅱ（理学療法専門基礎科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

- ①リハビリテーション専門職種としての働き、他職種との連携の必要性を理解する。
- ②障がい者を具体的に把握し、障害者の生活に経時的に発生する様々な問題を認識する
- ③問題の解決には、広くリハビリテーションの視点が必要であることを理解する。
- ④1年前期で学んだリハ概論Ⅰ、チーム医療論、PT概論を関連付けた知識にする。

到達目標

- ①生活感をもって障がいを捉えることができるようになる。
- ②ICFの理念を理解して、広い視野で問題を捉え、前向きな解決法を考えることができる。
- ③問題分析の思考過程を理解して、関連図を作成することができる。
- ④今後の学習のための資料つくりの方法を習得し、実践できる。

講義内容と講義計画

第1回 理学療法とリハビリテーションの関係

キーワード:潜在能力・代償的アプローチ・プラトー・予後予測・障害受容

第2回 生活とリハビリテーション

キーワード:ADL・ADL自立度・生活活動範囲・基本動作・生活環境設定・家族教育・ADL評価法・IADL・地域リハ

第3回 障がい時期とリハビリテーション

キーワード:急性期リハ・回復期リハ・維持期リハの役割

第4回 訪問リハと住宅改修

キーワード:退院前訪問指導・住宅改修・生活環境設定・退院準備

第5回 廃用症候群とリスク管理

キーワード:廃用症候群・リスク管理・運動処方

第6回 ICFの分類と臨床における評価

キーワード:ICF・理学療法評価・クリニカルリーズニング

第7回 ICFの理念を生かした評価の実際(グループ学習)

例題に対して、グループ単位で評価を行い、発表する。

第8回 運動器系リハビリテーションの実際(脊髄損傷)

キーワード:脊髄損傷の病態とリハビリテーション・残存機能

第9回 神経系リハビリテーションの実際(脳卒中)

キーワード:脳卒中の病態とリハビリテーション・運動学習

第10回 内部障害系リハビリテーションの実際(糖尿病)

キーワード:糖尿病の病態とリハビリテーション・運動処方

第11回 認知症に対するリハビリテーション

キーワード:認知症の病態とリハビリテーション・問題行動

第12回 症例検討(VTR)(グループ学習)

第13回 問題解決のための臨床思考過程

キーワード:クリニカルリーズニング

第14回 地域包括ケアの流れと予防リハビリテーション

キーワード:地域包括ケア・予防リハビリテーション

第15回 まとめ

評価方法

講義で提出されるレポート 30%、グループワークにおける役割と講義参加状況 20%、期末試験 50%で総合的に評価する。

使用教材

特に指定しない（前期のリハビリテーション概論 I を参照）

授業外学習の内容

初回講義時に提示してある毎回のキーワードについて調べておく。
また、毎回の授業開始時までには前回の復習をしておく。

備考

tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

リハビリテーション統計学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

竹内伸行

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

基礎的な統計用語を理解し、リハビリテーション領域で用いられる主な統計解析手法を学ぶ。統計ソフトの基本的操作を習得する。

到達目標

主な統計解析手法を理解し、リハビリテーション関連論文を読解できる。卒業研究において必要となる統計解析手法を選択し、統計ソフトを使用して実際に解析が行える。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション、記述統計

- ・なぜ統計処理が必要なのか?を学ぶ。
- ・基本統計量について学ぶ。

第2回 データの尺度、作表とグラフ化

- ・データの分類を理解する。
- ・データを表でまとめ、グラフを作成することによる視覚化を学ぶ。

第3回 パラメトリック検定とノンパラメトリック検定、差の検定

- ・基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解し、2群の差の検定を学ぶ。

第4回 相関係数、信頼性係数

- ・相関係数を理解し、2つのデータの関連性を明らかにする手法を学ぶ。
- ・信頼性係数を理解し、検者内と検者間の信頼性を学ぶ。

第5回 分散分析

- ・基本的な分散分析とその後に行われる多重比較検定を理解する。

第6回 統計解析ソフトによる演習①

- ・模擬研究データを設定し、基本的な信頼性の検定および2群間の相関、差の検定を学ぶ。

第7回 統計解析ソフトによる演習②

- ・模擬データを設定し、基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を学ぶ。

第8回 まとめ

評価方法

筆記試験で評価する。授業態度の状況により加減点を行うことがある。

使用教材

教科書

リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学、中山書店、2015、2400円

参考文献

- ・標準理学療法学理学療法研究法第2版、奈良勲監修、医学書院、2006、4,935円
- ・4Steps エクセル統計第3版、柳井久江、オーエムエス出版、2011、4,200円

授業外学習の内容

統計学では、多くの難解な用語や手法が登場する。様々な授業や実習等で検索し入手した文献で用いられている統計解析手法について、不明なものは調べ、文献に記載されている真の研究報告内容を理解する習慣を身につけておく。

備考

e-mail ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp

臨床心理学（理学療法専門基礎科目群）

担当者

千葉千恵美

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択1単位、理学療法学科 2年前期 選択2単位

講義目標

臨床心理学の基礎理論を学ぶことにより、対人援助の基本的視点の一助を得る。面接の技法、心理検査法、さまざまな心理療法などを概観する。また適宜グループワークやロールプレイを取り入れながら、人と人との関わりや援助のあり方について体験的に学んでいく。

到達目標

臨床場面で関わる患者、その家族にむけて寄り添い、状況に応じた実践できる力を身につけることにする。

講義内容と講義計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:医療領域の臨床心理学の理解
- 第3回:医療領域の臨床心理学の役割
- 第4回:心理面接(面接の方法)
- 第5回:面接の留意点
- 第6回:カウンセリング・心理療法
- 第7回:行動療法・集団心理療法(グループワークの意義)
- 第8回:ロールプレイ(成人)
- 第9回:ロールプレイ(思春期・青年期)
- 第10回:ロールプレイ(高齢期)
- 第11回:家族療法
- 第12回:家族療法の実際
- 第13回:終末医療のカウンセリング
- 第14回:箱庭療法(体験授業)
- 第15回:まとめ

評価方法

その日の授業の感想、提出物、試験を総合的に評価する。

使用教材

小林重雄監修「医療臨床心理学」コレール社 2004
使用教材：事例に伴うプリント資料

授業外学習の内容

前講義で行った事例検討事柄についての予習をしておく

備考

保健医療福祉行政論（理学療法専門基礎科目群）

担当者

田島貞子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修2単位、理学療法学科 2年後期 選択2単位

講義目標

地域看護における保健・医療・福祉活動を深く理解するため、保健・医療・福祉活動に関わる多面的な法的基盤や財政の状況を知る。あわせて、地域における活動の現状と今後の課題を考える機会とする。

到達目標

国・都道府県及び市町村で実施している保健・医療・福祉施策について学ぶと共に、それぞれの役割を理解し、説明できる。また、医療の専門職として、それぞれの事業へどのような関わりができるかを考え、説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保健医療福祉行政の概要、保健医療福祉行政論の変遷
- 第2回 保健医療福祉の財政、地域保健法
- 第3回 健康増進対策、生活習慣病対策(特定健診・特定保健指導)
- 第4回 感染症対策(1)感染症法、予防接種
- 第5回 感染症対策(2)エイズ対策、結核対策
- 第6回 難病対策、がん対策
- 第7回 母子保健・母子福祉対策
- 第8回 医療対策(医療法全般)
- 第9回 医療対策(医療計画について)
- 第10回 ビデオで学ぶ社会保障制度
- 第11回 高齢者・障害者対策、精神保健福祉対策
- 第12回 医療保険制度
- 第13回 生活保護制度、社会福祉制度
- 第14回 薬事対策・生活環境保全対策
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験（90%）及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等（10%）により総合的に評価する。

使用教材

国民衛生の動向最新版

毎回、講義に関連する資料を配布する。

授業外学習の内容

初日に指定した教科書の講義内容に該当するページを示すので、事前に読んでくること。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

社会調査特論（理学療法専門基礎科目群）

担当者

安達正嗣

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位、理学療法学科 2年後期 選択1単位

講義目標

保健医療分野における実証研究の手法として、社会調査は重要である。疫学研究にも活用可能な手法が多い。そこで本講義では、社会調査における量的な調査の方法を学び、その基礎を理解させる。

到達目標

資料の収集方法、調査票の作成と実際、データ分析などの基本的能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会調査の概要
- 第2回 情報資源の発掘調査
- 第3回 社会調査の基本
- 第4回 調査票の作成
- 第5回 調査の実際
- 第6回 データ分析
- 第7回 調査研究の報告
- 第8回 まとめ

評価方法

第2回に小テストをおこない、第3回以降は毎回、レポートの提出があります（50%）
最終のレポート（50%）

使用教材

配布資料などを使用して講義をおこなうので、教科書は指定しない。

授業外学習の内容

事前に前回の配布資料などを復習しておくこと。

備考

チーム医療アプローチ演習（理学療法専門基礎科目群）

担当者

保健医療学部教員

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 必修1単位、理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

チーム医療が必要な事例を用いて、他学科の学生から構成される混成グループでのディスカッションを通して、福祉・医療系の専門職の各専門職の役割・活動および患者・家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらに、チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性およびチーム医療における専門職の連携を促進するための課題についてディスカッションやグループ発表を通して考察する。

到達目標

1. 事例における福祉・医療系の専門職の各専門職の役割・活動が理解できる。
2. 事例における患者・家族に必要な福祉・医療活動が理解できる。
3. 事例におけるチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性が理解できる。
4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション 事例患者・家族の全体像の把握しグループで討議①

第2回 グループで討議②

第3～4回 専門職毎のアセスメント内容をグループ内で発表し、患者・家族に必要な福祉・医療活動について全体発表を行う。

第5～6回 チームにおける専門職毎の役割と活動についてグループワーク討議。

第7回 各専門職の役割と活動、チーム医療を推進するための他職種連携についてグループ発表をする。

第8回 チーム医療における専門職連携を促進するための課題・まとめ

評価方法

グループワークの参加態度・積極性（30点）

グループ発表の内容（50点）

レポート（800字程度）20点

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

- ・3年次までの講義・演習・実習を通して学んだ知識を統合して、他学科の専門職を目指す学生との交流を深めながら行う学習内容ですので、事前に他職種等について学習すること。
- ・グループディスカッション方法について学習しておくこと。

備考

・大学において他職種と意見交換をできる貴重な時間ですので、専門職の理解を深めてください。

キーワード 専門職 チーム医療 多職種連携

社会福祉概論（理学療法専門基礎科目群）

担当者

石坂公俊

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 選択2単位

講義目標

「すべての人が幸せに生活するために」という福祉の目標は、人と関わる専門職全てに共通する理念である。本講義では、社会福祉の基本理念、原理を述べ、さらに今日の社会状況とそこから生起する福祉ニーズへの理解を深める。また、高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉などの制度の仕組みと現代的課題について学ぶ。

到達目標

社会福祉への関心と興味を深め、人間の尊重と社会福祉の意義を理解する。さらに社会福祉の基本と原理的内容を総論的に習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会福祉の理論と権利
- 第2回 社会福祉の動向と背景
- 第3回 社会福祉の歴史
- 第4回 社会福祉従事者
- 第5回 社会福祉援助技術
- 第6回 社会福祉の行政組織と法律
- 第7回 子ども家庭福祉
- 第8回 高齢者福祉
- 第9回 障害者福祉
- 第10回 公的扶助
- 第11回 地域福祉
- 第12回 保健医療サービス
- 第13回 社会福祉施設
- 第14回 福祉教育
- 第15回 女性と社会福祉

評価方法

筆記試験 70%，授業参加度 30%

使用教材

『社会福祉分析論』（学文社）

授業外学習の内容

指定した教科書の関連頁を事前に読んでおくこと

備考

理学療法概論（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

理学療法の定義・対象・方法と実際について医療の歴史と変遷を踏まえて理解し、医療専門職の使命と倫理について学ぶ。また、本学で理学療法を学ぶ意味と主体的学習態度を習得する。理学療法の様々な分野での取り組みを知り、自分が興味を持てる分野と出会う機会を与える。また、臨床・研究・教育の場において、理学療法士がどのように研鑽を積んでいくのか、社会情勢に応じてどのように理学療法の分野を開拓していくのかについても学ぶ。

到達目標

理学療法の役割や価値を認識し、理学療法士に求められる知識・技術・人間性を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション・理学療法概説
- 第2回 理学療法の歴史。理学療法士・作業療法士法
- 第3回 理学療法士ガイドライン・倫理
- 第4回 理学療法の実践に必要な基礎知識 ①腱反射
- 第5回 理学療法の実践に必要な基礎知識 ②筋収縮
- 第6回 理学療法の実践に必要な基礎知識 ③骨・関節
- 第7回 理学療法の実践に必要な基礎知識 ④廃用症候群
- 第8回 理学療法の実践に必要な基礎知識 ⑤廃用症候群
- 第9回 理学療法関連機器 ①
- 第10回 理学療法関連機器 ②
- 第11回 障害体験
- 第12回 障害体験グループワーク
- 第13回 理学療法の主な対象疾患
- 第14回 理学療法士学生に求められるもの
- 第15回 理学療法士のアイデンティティ

評価方法

筆記試験 70% 授業態度 10% 課題レポート 20%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

次回のキーワードについて学習してくること。終了時に今後学習していく上で、大切なことに気づき、実践できるように目標を立てること

備考

質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。

なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。

asaka@takasaki-u.ac.jp

理学療法基礎学（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修2単位

講義目標

- ①理学療法の基礎となる運動療法について、原則や生理学的背景などの基礎的知識を身につける。
- ②運動強度や負荷量などの運動処方を行うための基礎となる知識を総合的に学ぶ。
- ③基本的運動療法として、関節可動域練習、筋収縮の種類別の筋力強化を中心に、その基礎を学ぶ。
- ④1年次に受講した解剖生理学、平行して開講される運動学・理学療法評価法Ⅰ・物理療法学などと関連付けて学ぶ。

到達目標

- ①運動療法の総論について、一般の人に分かるように説明できる。
- ②運動療法のための基礎知識は、2年前期のうちに整理してまとめる。
- ③理学療法評価法では、治療を通して評価することを学ぶが、その治療方法についてイメージできる。

講義内容と講義計画

- 第1回 運動療法とは？ 運動療法の歴史と定義・目的・運動および運動療法の種類
- 第2回 運動療法の基礎① 関節の構造と機能および筋の構造と機能
- 第3回 運動療法の基礎② 関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序
- 第4回 運動療法の基礎③ 運動と呼吸・循環・代謝系
- 第5回 運動療法の基礎④ 運動制御と運動学習
- 第6回 運動療法の基礎⑤ 運動発達および老化による運動機能の低下
- 第7回 運動処方の基礎 運動の種類と運動方法、リスク管理
- 第8回 運動指導の実際：コミュニケーション、コーチング、指示方法、動機付け
- 第9回 基礎的運動療法①関節可動域運動
- 第10回 基礎的運動療法②伸張運動
- 第11回 基礎的運動療法③筋力増強運動・持久力増強運動
- 第12回 基礎的運動療法④バランス改善運動・姿勢改善運動・筋弛緩運動
- 第13回 基礎的運動療法⑤協調性運動
- 第14回 基礎的運動療法⑥痛みに対する運動療法
- 第15回 まとめ

評価方法

講義で出されるレポート 40%、期末試験 50%、講義参加状況・講義中の指名に対する対応 10%で総合的に評価する。（その他の提出物による加点を行う場合がある）
成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。

使用教材

標準理学療法学 専門分野シリーズ 運動療法学総論 第3版 医学書院 4,935円

授業外学習の内容

- ①予習:毎回の講義内容について、テキストで予習すること。
- ②復習:授業開始時まで前回の講義内容を復習しておくこと。

備考

理学療法基礎学実習（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

- ①理学療法基礎学で学んだ知識をもとに、基礎的な運動療法を行うための心構えを身につける。
- ②用手接触・動作誘導・移乗介助法の基礎を実践できる。
- ③基礎的運動療法の技術を身につける。
- ④臨床実習に向けて、対象者への基本的対応能力を高める。

到達目標

- ①実習科目のメモの取り方、学び方について理解し、実践できる。
- ②運動学などの基礎知識をもとに、相手の状態を評価し、適切な対応ができる。
- ③基礎的な運動療法を一般の人に危険のないレベルで実施できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 観察（姿勢と動作）
- 第3回 ヒューマンムーブメントとハンドリング 1-1
- 第4回 ヒューマンムーブメントとハンドリング 1-2
- 第5回 ヒューマンムーブメントとハンドリング 2-1
- 第6回 ヒューマンムーブメントとハンドリング 2-2
- 第7回 ヒューマンムーブメントとハンドリング 3-1
- 第8回 ヒューマンムーブメントとハンドリング 3-2
- 第9回 トランスファー1
- 第10回 トランスファー2
- 第11回 関節可動域運動 1-1
- 第12回 関節可動域運動 1-2
- 第13回 関節可動域運動 2-1
- 第14回 関節可動域運動 2-2
- 第15回 関節可動域運動 3-1
- 第16回 関節可動域運動 3-2
- 第17回 筋力強化運動 1-1
- 第18回 筋力強化運動 1-2
- 第19回 筋力強化運動 2-1
- 第20回 筋力強化運動 2-2
- 第21回 協調運動・バランス練習 1
- 第22回 協調運動・バランス練習 2
- 第23回 各種運動療法 1
- 第24回 各種運動療法 2

評価方法

実技確認テスト 30%、講義ノート 10%、実技試験 50%、講義参加状況 10%で総合的に評価する。
（その他の提出物による加点を行う場合がある）
成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。

使用教材

理学療法基礎学と同じ

<参考書>

①運動療法学：障害別アプローチの理論と実際 文光堂 7,350 円

②運動療法学 改訂第2版 金原出版 6,510 円

授業外学習の内容

①予習：毎回の講義内容について参考書を参考に予習しておくこと②復習：講義ノートをまとめ、次回までに実技ができるレベルになるよう練習しておくこと。

備考

質問は、随時メールで行うことができる。tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

理学療法セミナー 1 (理学療法専門科目群)

担当者

千木良佑介、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

1年次の早期体験実習をより効果的に行えるよう、基本的な接遇、専門職としての態度、理学療法の概要について学ぶ。対象者との人間関係、社会人としての基本的態度、臨床実習における対人関係、記録のとり方、資料の整理、提出物の記載方法、わからないことがある場合の解決方法（文献検索および質問）などを学び、またグループワークを用いて、自分の考えの表出、プレゼン能力の向上などを図る。また実習後の学生へのフィードバックなどを行う。

到達目標

- ① 理学療法士としての基本態度を身につけ、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになる。
- ② 不足点を自分で気づき、自己学習できるようになる。
- ③ 理学療法の概要を理解し、理学療法士としての使命と倫理について説明できる。
- ④ 大学で理学療法を学ぶ意味を理解し、主体的学習態度で授業に参加出来るようになる。

講義内容と講義計画

第1回:オリエンテーション(発表方法や実習注意、実習目標の設定等)+実習の感想発表+レポート作成のポイント

第2回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 1+実習の感想発表

第3回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 2+レジメ作成のポイント

第4回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 3+書籍検索方法

第5回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 4+文献検索方法

第6回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 5+ポートフォリオとは

第7回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 6+発表のコツ

第8回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 7+質問の仕方

第9回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 8+コミュニケーション方法

第10回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 9+実習フィードバック用紙の記入

第11回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 10+疾患別ノートの作成方法

第12回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 11+各教員の専門分野の紹介 1

第13回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 12+各教員の専門分野の紹介 2

第14回:早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック 13+各教員の専門分野の紹介 3

第15回:現状の問題点の整理と今後の目標設定・まとめ;

各実習地の指導者の先生をお招きし、講義・ディスカッションしていただく。

評価方法

発表担当学生の①発表の内容とわかりやすさ、②レジメの質、③質問に対する受け答えのスムーズさと、聞いている学生の質問する姿勢に関してそれぞれ優・良・可の3段階で評価し得点化する。早期体験実習のグループでレジメ等作成するが、各自必ず1回は発表すること。

使用教材

適時資料を配付

授業外学習の内容

実習内容をまとめ発表する。工夫してわかりやすいレジメを作成すること。また発表時間内に発表が取るよう発表の練習をしておくこと。発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。

備考

本講義は早期体験実習と平行して実施される科目であり、早期体験実習のグループごとの発表に対するフィードバックを基本とする。また各授業の前半30分間文献検索方法やレポートのまとめ方、有効なプレゼンテーションの方法等の講義を行う。

理学療法セミナー 2 (理学療法専門科目群)

担当者

樋口大輔、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

理学療法評価の基礎となる検査・測定に関する知識・技術を中心とした基本的臨床技能について、運動器疾患および中枢神経疾患を例に学ぶ。

到達目標

症例に応じた各検査・測定手法を適切に選択し、得られた結果を統合・解釈して症例の全体像および局所機能を把握できる。結果を的確に伝えるための症例報告について、報告書の作成やプレゼンテーションができるようになる。

講義内容と講義計画

第1回 問診とコミュニケーション

・実際の臨床場面を想定した問診の仕方とコミュニケーションの取り方、全体像の捉え方について学ぶ。

第2回 形態計測 (四肢長・周径) : 臨床場面を想定した関節可動域測定 of 知識と技術を学ぶ。

第3回 関節可動域測定 ①上肢 : 臨床場面を想定した関節可動域測定 of 知識と技術を学ぶ。

第4回 関節可動域測定 ②下肢 : 臨床場面を想定した形態計測 of 知識と技術を学ぶ。

第5回 筋力測定 ①上肢・体幹 : 臨床場面を想定した筋力測定 of 知識と技術を学ぶ。

第6回 筋力測定 ②下肢 : 臨床場面を想定した筋力測定 of 知識と技術を学ぶ。

第7回 神経学的検査 ①反射テスト・感覚テスト : 臨床場面を想定した神経学的検査 of 知識と技術を学ぶ。

第8回 神経学的検査 ②ブルンストロームステージなど

第9回 神経学的検査 ③バランス検査・協調性テスト症例検討 ①脳血管障害

第10回 運動観察

第11回 症例検討 ① 模擬症例を通じて、検査測定および理学療法評価 of 知識と技術を学ぶ。

第12回 症例検討 ② 模擬症例を通じて、検査測定および理学療法評価 of 知識と技術を学ぶ。

第13回 症例検討 ③ 模擬症例を通じて、検査測定および理学療法評価 of 知識と技術を学ぶ。

第14回 Pre-OSCE

第15回 Pre-OSCE

評価方法

実技試験 80%、出席および授業態度 20%で評価

使用教材

参考図書については後日連絡する。模擬症例に関する資料を配布する。

授業外学習の内容

理学療法評価法および理学療法評価法実習の講義とリンクさせて、評価技術について模擬症例を例にしたシミュレーション練習をペアになって行う。

備考

2年後期の機能・能力診断学実習 I に対応できるよう準備するための科目であるので、積極的に取り組まれない。質問があれば随時メールで対応する。 tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

理学療法セミナー 3（理学療法専門科目群）

担当者

大野洋一、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

検査・測定だけでなく、臨床現場でより治療志向的な理学療法評価が行えるように、評価・観察方法や臨床思考過程を学ぶ。また客観的臨床能力試験（OSCE）を通して、3年次の機能能力診断学実習に出る前の準備を行う。

到達目標

基本的な評価を行うための準備、説明、手順の実施、結果の考察を**学生**の標準レベルで行うことができる。治療志向的な思考過程を踏みながら、評価・観察を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 模擬症例1の紹介、説明、練習
- 第3回 模擬症例1の練習、フィードバック、まとめ
- 第4回 模擬症例2の紹介、説明、練習
- 第5回 模擬症例2の練習、フィードバック、まとめ
- 第6回 模擬症例3の紹介、説明、練習
- 第7回 模擬症例3の練習、フィードバック、まとめ
- 第8回 OSCE 課題提示、練習
- 第9回 OSCE 練習 OSCEでの各自のもつ課題を提示し、十分な練習を行う
- 第10回 OSCE 実施
- 第11回 OSCE フィードバック
- 第12回 OSCE のまとめ・練習
- 第13回 レポート・レジユメの記載方法
- 第14回 症例報告・プレゼンテーションの方法
- 第15回 まとめ

評価方法

OSCEの結果80%、OSCEへの取り組み・授業態度20%の総合評価

使用教材

配布資料を中心に行う

授業外学習の内容

臨床思想的な評価技術について模擬症例を例にしたシミュレーション練習をペアになって行う。
OSCE課題の練習を行う。

備考

質問は随時受け付けます。

連絡先：nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

理学療法セミナー4（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 必修1単位

講義目標

3年次までの実習で指摘された点を個々に見直し、不足している点、修正すべき点を明確にする。特に、治療志向的評価について、具体的に例題を用い、グループワークなども取り入れながら臨床思考過程を学ぶ。また、実習前後の指導を受けて、具体的な臨床における行動目標を明確にする。

到達目標

治療志向的評価に基づいた治療計画の策定および一部治療実施を総合臨床実習で行えるようになる。臨床版客観的臨床能力試験（advanced OSCE）および症例発表を通して、対象者に対する基本的理学療法を行う準備ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション:これまでの実習の振り返り
- 第2回 担当症例に対する評価及び手技の確認①
- 第3回 担当症例に対する評価及び手技の確認②
- 第4回 担当症例①の提示と評価・治療計画
- 第5回 担当症例①の評価・治療実施
- 第6回 担当症例②の提示と評価・治療計画
- 第7回 担当症例②の評価・治療実施
- 第8回 担当症例③の提示と評価・治療計画
- 第9回 担当症例③の評価・治療実施
- 第10回 担当症例④の提示と評価・治療計画
- 第11回 担当症例④の評価・治療実施
- 第12回 Advanced OSCE の練習
- 第13回 Advanced OSCE
- 第14回 Advanced OSCE
- 第15回 Advanced OSCE のフィードバックと総合臨床実習指導

評価方法

advanced OSCE の結果 70%、症例への取り組み状況および発表 30%

使用教材

配布資料を中心に行う

授業外学習の内容

治療志向的な評価および治療技術について模擬症例を例にしたシミュレーション練習をペアになって行う。OSCE 課題の練習を行う。

備考

理学療法研究法（理学療法専門科目群）

担当者

居村茂幸、竹内伸行

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修2単位

講義目標

理学療法における研究の必要性を学問的観点と臨床的観点から学び、また、研究のプロセスとして、研究テーマの選択、研究対象の選択、測定方法の考案、研究デザインの決定、倫理的配慮、データ処理と解析法、研究結果の分析と報告について実例を通して理解する。

到達目標

- ①理学療法士をめざす学生がなぜ研究方法論を学ばなくてはいけないのか説明できる
- ②大まかな研究プロセスを理解し、各項目のポイントを説明できる
- ③論文を批判的に読める
- ④学んだ知識・体験をもとに卒業研究が実施できる

講義内容と講義計画

- 第1回 なぜ研究方法論を学ぶ必要があるのか？ (p2)
- 第2回 研究テーマ設定のポイント(論文の「序文」には何が書かれている？)(p176-182,254-263)
- 第3回 研究デザインとエビデンス(論文の「方法」には何が書かれている？) (p16-25)
- 第4回 バイアスを減らすデータ収集法方、文献検索 (p44-58)
- 第5回 研究テーマ設定(p2-14, 26-35)と研究計画立案 (p16-25)
- 第6回 研究方法のまとめ/模擬研究のオリエンテーション、ブラウジングの開始
- 第7回 模擬研究のテーマ決定
- 第8回 研究計画の立案、研究倫理の基礎 (p36-42)
- 第9回 模擬研究の研究計画発表会
- 第10回 計画修正、予備調査の実施
- 第11回 データ収集1
- 第12回 データ収集2
- 第13回 データ解析 (p106-157)
- 第14回 プレゼンの方法とコツ/プレゼン準備 (p160-175)
- 第15回 模擬研究発表会

評価方法

筆記試験 25%、模擬研究発表に内容 50%、レポート「EBPTについて」25%

使用教材

標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法第3版 内山靖編集 医学書院 2013年、4935円（税込み）

授業外学習の内容

グループで模擬研究を行うため、授業時間外にグループで集まり、研究を進めること。

備考

臨床運動学（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修2単位

講義目標

- ①解剖学や運動学で学んだ基礎知識を基盤にして、身体構造と姿勢・運動について臨床的に学ぶ。
- ②各関節と全身との関係を踏まえて、症状の出現との関係や活動分析に運動学の知識を生かす方法を学ぶ。
- ③特徴的な疾患について病態運動学を学び、動作障害を引き起こす原因を理解する。

到達目標

運動学的視点をもって症状や動作障害を引き起こす原因を考えられるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 全身の姿勢と局所の運動との関係について
- 第2回 体幹の臨床運動学
- 第3回 下肢の臨床運動学
- 第4回 上肢の臨床運動学
- 第5回 腰痛・頸部痛についての病態運動学
- 第6回 下肢疾患についての病態運動学
- 第7回 上肢疾患についての病態運動学
- 第8回 基礎的運動療法における臨床運動学的視点
- 第9回 運動連鎖と生体力学的視点について
- 第10回 基本動作についての臨床運動学Ⅰ
- 第11回 基本動作についての臨床運動学Ⅱ
- 第12回 歩行についての臨床運動学的視点
- 第13回 片麻痺者の動作障害についての運動学的分析Ⅰ
- 第14回 片麻痺者の動作障害についての運動学的分析Ⅱ
- 第15回 まとめ

評価方法

課題レポート 20%、期末試験 70%、講義参加状況 10%で総合的に評価する

使用教材

テキストは特に指定しない

参考書：臨床実践 動きのとらえかた 文光堂 6500円＋税

動作分析 臨床活用講座 メジカルビュー 5600円＋税

授業外学習の内容

- ①予習：毎回の授業内容について参考書を参考に予習しておくこと
- ②復習：授業中のノートを整理してまとめ、わからなかったことを調べてみる
- ③関連する内容の資料をファイルにまとめて整理しておく

備考

質問は随時メールでも受け付ける tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

理学療法評価学 I (理学療法専門科目群)

担当者

中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修2単位

講義目標

理学療法を実施する上で必要となる基本的な評価について学び、各評価の意義・方法について理解する。基本的な評価方法を基に、リスク管理、基本的技術、結果の解釈を含めた一連の流れ学習する。

到達目標

基本的な理学療法評価を理解し、その意義や方法について説明できる。
またリスク管理、基本的技術、結果の解釈を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション・理学療法評価概論
- 第2回 理学療法評価の流れ
- 第3回 視診・触診/バイタルサイン
- 第4回 形態計測
- 第5回 関節可動域測定：体幹
- 第6回 関節可動域測定：上肢
- 第7回 関節可動域測定：下肢
- 第8回 筋力
- 第9回 徒手筋力テスト：体幹
- 第10回 徒手筋力テスト：上肢
- 第11回 徒手筋力テスト：下肢
- 第12回 神経学的検査：感覚検査
- 第13回 神経学的検査：反射
- 第14回 神経学的検査：筋トーン
- 第15回 神経学的検査：協調運動機能

評価方法

筆記試験及び、毎回の小テストで評価する。

使用教材

- ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社
- 新・徒手筋力検査法 第9版 協同医書出版社

授業外学習の内容

基礎知識（解剖学，生理学，運動学）との知識の融合ができるように復習することが望ましい。

備考

質問は随時受け付けます。

連絡先：nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

理学療法評価学Ⅱ（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満、中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修2単位

講義目標

「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、様々な理学療法の対象となる代表的な疾患別の評価方法、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学ぶ。
また特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。

到達目標

代表的な疾患・部位別の理学療法において、その評価の流れ、各評価の意義や方法について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 姿勢・歩行
- 第3回 バランス評価
- 第4回 体力評価
- 第5回 各疾患における理学療法評価の流れ
- 第6回 運動器疾患の評価：Special Test
- 第7回 運動器疾患の評価：各部位，疾患における評価（上肢・体幹）
- 第8回 運動器疾患の評価：各部位，疾患における評価（下肢）
- 第9回 機器を用いた評価：有酸素能力
- 第10回 機器を用いた評価：重心動揺系・筋電図
- 第11回 機器を用いた評価：等速性筋力・等尺性筋力
- 第12回 神経系疾患の評価：脳血管障害（片麻痺）
- 第13回 神経系疾患の評価：高次脳機能評価
- 第14回 神経系疾患の評価：各疾患における評価
- 第15回 日常生活活動・生活の質（QOL: Quality of Life）

評価方法

筆記試験及び、毎回の小テストで評価する。

使用教材

○ ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社

授業外学習の内容

「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容について復習しておくことが望ましい。
また基礎知識（解剖学，生理学，運動学，等）および，臨床基礎知識（整形外科，神経内科学，等）との知識の融合ができるように復習することが望ましい。
毎回授業の最初に前回授業内容に関わる小テストを実施するので、その内容を復習しておくこと。

備考

質問は随時受け付けます。

連絡先：nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

理学療法評価学実習 I (理学療法専門科目群)

担当者

中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

理学療法を実施する上で必要となる基本的な評価について学び、各評価の意義・方法について理解する。基本的な評価方法を基に、リスク管理、基本的技術、結果の解釈を含めた一連の流れを、実際の実技を通じて学習する。

到達目標

基本的な理学療法評価を理解し、その意義や方法について説明できる。
またリスク管理、基本的技術、結果の解釈を含めた上での検査・測定が遂行できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 視診・触診
- 第3回 バイタルサイン
- 第4回 形態計測
- 第5回 関節可動域測定：体幹
- 第6回 関節可動域測定：上肢
- 第7回 関節可動域測定：下肢
- 第8回 徒手筋力テスト：体幹
- 第9回 徒手筋力テスト：上肢
- 第10回 徒手筋力テスト：下肢
- 第11回 その他の筋力テスト
- 第12回 神経学的検査：感覚検査
- 第13回 神経学的検査：反射
- 第14回 神経学的検査：筋トーヌス
- 第15回 神経学的検査：協調運動機能

評価方法

実技試験および出席点・授業態度で評価する。

使用教材

- ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社
- 新・徒手筋力検査法 協同医書出版社

授業外学習の内容

実技は繰り返しの練習が重要なので各自復習することが望ましい。
また、理学療法評価学 I の知識と合わせて理解できるように復習することが望ましい。

備考

質問は随時受け付けます。
連絡先：nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

理学療法評価学実習Ⅱ（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満、中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、様々な理学療法の対象となる代表的な疾患別の評価方法、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学び練習する。
また特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。

到達目標

代表的な疾患・部位別の理学療法において、基本的な評価を適応し実践できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 姿勢・歩行評価の実際
- 第3回 バランス評価
- 第4回 体力評価・持久力評価
- 第5回 各疾患における理学療法評価の流れ
- 第6回 運動器疾患の評価：Special Test
- 第7回 運動器疾患の評価：各部位，疾患における評価（上肢・体幹）
- 第8回 運動器疾患の評価：各部位，疾患における評価（下肢）
- 第9回 機器を用いた評価：有酸素能力
- 第10回 機器を用いた評価：重心動揺系・筋電図
- 第11回 機器を用いた評価：等速性筋力・等尺性筋力
- 第12回 神経系疾患の評価：片麻痺の評価，その他評価
- 第13回 神経系疾患の評価：高次脳機能評価
- 第14回 神経系疾患の評価：各疾患における評価
- 第15回 日常生活活動・生活の質（QOL: Quality of Life）

評価方法

実技試験および各種グループワークやプレゼンテーションの点数，出席点・授業態度で評価する。

使用教材

○ ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版株式会社

授業外学習の内容

実技は繰り返しの練習が重要なので各自復習することが望ましい。
また，理学療法評価学Ⅱの知識と合わせて理解できるように復習することが望ましい。

備考

質問は随時受け付けます。
連絡先：nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

動作解析学（理学療法専門科目群）

担当者

中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

動作を通じた臨床思考過程を学び、それを通じて必要な基礎知識を再学習する。

到達目標

動作を見て得られた情報を基に話し合うことが出来る。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション，動作解析の目的
- 第2回 動作解析と力学的視点：ベクトル・てこ
- 第3回 動作解析と力学的視点：関節モーメント・仕事量
- 第4回 基本動作の動作解析：臥位～寝返り～起き上がり
- 第5回 基本動作の動作解析：坐位～立ち上がり
- 第6回 基本動作の動作解析：立位～立位バランス
- 第7回 基本動作の動作解析：歩行
- 第8回 臨床における動作解析の実際：概論
- 第9回 基本動作の動作解析：歩行 2
- 第10回 臨床における動作解析の実際：運動器疾患，グループワーク
- 第11回 臨床における動作解析の実際：運動器疾患，プレゼンテーション・ディスカッション
- 第12回 臨床における動作解析の実際：神経系疾患，グループワーク
- 第13回 臨床における動作解析の実際：神経系疾患，プレゼンテーション・ディスカッション
- 第14回 臨床における動作解析の実際：その他，グループワーク
- 第15回 臨床における動作解析の実際：その他，プレゼンテーション・ディスカッション

評価方法

毎回の小テスト，筆記試験で基礎知識面の評価
毎回の講義でディスカッションやプレゼンテーションの評価
最終筆記試験で思考過程，表現能力の評価

使用教材

必要な資料等は配布します。

授業外学習の内容

基本となる物理学・運動学の知識を復習しておくこと。毎回授業の最初に前回授業内容に関わる小テストを実施するので、その内容を復習しておくこと。

備考

質問は随時受け付けます。
連絡先: nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

動作解析学実習（理学療法専門科目群）

担当者

中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

動作解析学で学んだ内容を基に、各種測定機器を使用しながら動作解析を実施し、その理解を深める。
また治療につながる動作の見方を、実際の体験を通じて学んでいく。

到達目標

観察による動作解析結果を科学的・客観的に捉えることが出来る。
また自分の言葉でその特徴を説明し、積極的にディスカッションすることが出来る。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動作解析の実際
- 第3回 機器を用いた動作解析：筋電図
- 第4回 機器を用いた動作解析：重心動揺計
- 第5回 機器を用いた動作解析：2次元動作解析装置
- 第6回 機器を用いた動作解析：3次元動作解析装置
- 第7回 グループワーク 1：立ち上がり動作の特徴の把握
- 第8回 グループワーク 1：立ち上がり動作の測定・評価
- 第9回 グループワーク 1：立ち上がり動作に関わる身体機能の評価
- 第10回 グループワーク 1：統合と解釈
- 第11回 グループワーク 1：プレゼンテーション
- 第12回 グループワーク 1：ディスカッション
- 第13回 グループワーク 2：立位姿勢・バランスの特徴の把握
- 第14回 グループワーク 2：立位姿勢・バランスの測定・評価
- 第15回 グループワーク 2：立位姿勢・バランスに関わる身体機能の評価
- 第16回 グループワーク 2：統合と解釈
- 第17回 グループワーク 2：プレゼンテーション
- 第18回 グループワーク 2：ディスカッション
- 第19回 グループワーク 3：歩行動作の特徴の把握
- 第20回 グループワーク 3：歩行動作の測定・評価
- 第21回 グループワーク 3：歩行動作に関わる身体機能の評価
- 第22回 グループワーク 3：統合と解釈
- 第23回 グループワーク 3：プレゼンテーション
- 第24回 グループワーク 3：ディスカッション

評価方法

レポート点、発表点および筆記試験で評価する。

使用教材

特に指定なし。

授業外学習の内容

基礎知識（解剖学、運動学等）との知識の融合ができるように復習することが望ましい。
また、動作解析の授業で学んだ知識を復習しておくこと。

備考

グループワークが中心となるので、積極的な授業参加が必要です。授業でパソコンを使用するので、極力準備しておくこと。

また質問は随時受け付けます。

連絡先: nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

症候障害論（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

老人保健施設や地域医療で遭遇する患者は、病院で入院している患者よりも医師の診察をうける機会が限られている。また、神経筋骨格系疾患においても内科的問題の仮面をかぶった疾患に遭遇することがある。このような場合、理学療法士も理学療法の実施だけを考えるのではなく、他の医学的評価と治療の必要性を判断する為に、医学的疾患をスクリーニングする能力が不可欠となる。

本講座では、理学療法士にとって重要な神経筋骨格系疾患において内科的問題をかかえた医学的病変をスクリーニングするための臨床医学の基礎知識を整理統合し、クリニカルリーズニング能力の向上に役立てることを主目的とする。

到達目標

神経筋骨格系疾患における内科的問題について医学的病変をスクリーニングすることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 症候障害論とは
- 第2回 疼痛評価（症候別と疼痛分類）
- 第3回 診療の進め方1（評価と治療の流れ）
- 第4回 診療の進め方2（鑑別診断）
- 第5回 病態推測から治療方法選択まで
- 第6回 疼痛の徴候と症状の鑑別方法
- 第7回 疼痛から考える内科疾患
- 第8回 まとめ(全身性由来の神経筋骨格系疼痛)

評価方法

レポート（80%）、学習態度（20%）による評価

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

解剖学・臨床医学を良く復習して授業に臨むこと。

備考

運動器系理学療法学（理学療法専門科目群）

担当者

樋口大輔、生方瞳

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修2単位

講義目標

運動器系疾患の基礎知識を確認しながら、それに関連する理学療法の基本的な考え方を学び、3年次における実技習得に備えることを目標とします。

到達目標

代表的疾患の概要を説明することができる。

代表的疾患の理学療法評価に必要な検査・測定・調査項目を挙げるができる。

代表的疾患の理学療法で行うべきでないことを挙げるができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 運動器系理学療法学総論
- 第2回 骨折とその理学療法
- 第3回 脱臼とその理学療法
- 第4回 変形性関節症とその理学療法
- 第5回 関節リウマチとその理学療法
- 第6回 軟部組織損傷とその理学療法
- 第7回 脊髄損傷とその理学療法
- 第8回 頸・胸椎疾患とその理学療法
- 第9回 末梢神経障害とその理学療法（総論）
- 第10回 末梢神経障害とその理学療法（各論）
- 第11回 運動器系疾患の疼痛とその理学療法
- 第12回 小児の運動器系疾患とその理学療法
- 第13回 腰椎疾患とその理学療法（前半）
- 第14回 腰椎疾患とその理学療法（後半）
- 第15回 まとめ

評価方法

提出課題（20%）、小テスト（40%）、期末筆記試験（40%）

使用教材

ゴールドマスターテキスト整形外科系理学療法学（メジカルビュー社、4,800円＋税）

授業外学習の内容

毎回予習したことをミニレポートにして提出してもらいます。

備考

時間の許す限り質問等に応じます。研究室不在時は higuchi-d@takasaki-u.ac.jp に連絡してください。

運動器系理学療法学実習（理学療法専門科目群）

担当者

樋口大輔

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

運動器系理学療法学で学んだ基礎知識を活用しながら、統合と解釈から治療実践までの一連の過程を経験することで、臨床実習にて最小限の指導の下で対応できるようになることを目標とします。

到達目標

運動器系疾患に対する基本的理学療法が概ねひとりで行えるようになること。

講義内容と講義計画

- 第1回 骨折・脱臼の理学療法（デモンストレーション）
- 第2回 骨折・脱臼の理学療法（実技練習）
- 第3回 骨折・脱臼の理学療法（症例①グループワーク）
- 第4回 骨折・脱臼の理学療法（症例①ディスカッション）
- 第5回 変形性関節症の理学療法（デモンストレーション）
- 第6回 変形性関節症の理学療法（実技練習）
- 第7回 変形性関節症の理学療法（症例②グループワーク）
- 第8回 変形性関節症の理学療法（症例②ディスカッション）
- 第9回 軟部組織損傷の理学療法（デモンストレーション）
- 第10回 軟部組織損傷の理学療法（実技練習）
- 第11回 脊髄損傷の理学療法（デモンストレーション）
- 第12回 脊髄損傷の理学療法（実技練習）
- 第13回 関節リウマチの理学療法（デモンストレーション）
- 第14回 関節リウマチの理学療法（実技練習）
- 第15回 関節リウマチの理学療法（症例③グループワーク）
- 第16回 関節リウマチの理学療法（症例③ディスカッション）
- 第17回 末梢神経障害の理学療法（デモンストレーション）
- 第18回 末梢神経障害の理学療法（実技練習）
- 第19回 腰椎疾患の理学療法（デモンストレーション）
- 第20回 腰椎疾患の理学療法（実技練習）
- 第21回 非特異的腰痛の理学療法（デモンストレーション）
- 第22回 非特異的腰痛の理学療法（実技練習）

評価方法

提出課題（40%）、期末実技試験（60%）

使用教材

15 レクチャーシリーズ運動器障害理学療法学 I および II（中山書店、いずれも 2,400 円＋税）

授業外学習の内容

運動器系理学療法学と連動していますから、運動器系理学療法学を復習してから授業に臨んでください。

備考

1日2回ずつの授業になります。時間の許す限り質問等に応じます。研究室不在時は higuchi-d@takasaki-u.ac.jp に連絡してください。

神経系理学療法学（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修2単位

講義目標

- ①神経系疾患に対する理学療法の基礎を理解する。
- ②脳卒中に対する理学療法を時期別におさえて、流れを理解する。
- ③神経系理学療法を行なう上でのリスクについて理解する。
- ④神経系理学療法の評価と治療の組み立てについて理解する。
- ⑤各種疾患についての理学療法についても基礎知識を身につける。

到達目標

基本的な神経系疾患に対する理学療法について説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 神経系疾患の範囲とリハビリテーション
- 第2回 脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法
- 第3回 理学療法評価としての脳卒中評価
- 第4回 画像診断とリスク管理
- 第5回 実習室 高次脳機能障害に対する理学療法
- 第6回 実習室 急性期理学療法
- 第7回 実習室 回復期理学療法
- 第8回 実習室 維持期理学療法
- 第9回 脳卒中に対する装具療法
- 第10回 脳卒中における様々な症状とADLへの対応
- 第11回 パーキンソン病に対する理学療法
- 第12回 小脳疾患に対する理学療法（脊髄小脳変性症など）
- 第13回 進行性神経疾患に対する理学療法
- 第14回 痙縮に対する理学療法
- 第15回 まとめ

評価方法

12回の小テスト20%、実習室講義ノート（5回分）10%、講義で出されるレポート15%、期末試験50%、授業参加状況・授業態度5%で総合的に評価する。（その他提出物による加点を行う場合がある）
成績不良（出席不足を除く）の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。

使用教材

潮見泰蔵脳卒中に対する標準的理学療法介入 文光堂 6,510円

授業外学習の内容

- ①予習:毎回の講義内容について、テキストで予習すること。
- ②復習:授業開始時まで前回の講義内容を復習しておくこと。

備考

質問は随時メールで:tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

神経系理学療法学実習（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前後期 必修 1単位

講義目標

神経系の理学療法でよく用いられる手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。理学療法基礎学実習、理学療法評価学実習などを踏まえて、基本的なハンドリング能力の確認から、脳卒中模擬患者に対する動作誘導、歩行練習、感覚刺激、認知へのアプローチなどの治療手技について身につける。

到達目標

基本的な神経系疾患に対する理学療法手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 片麻痺者への急性期理学療法 1-1
- 第 2 回 片麻痺者への急性期理学療法 1-2
- 第 3 回 片麻痺者への急性期理学療法 2-1
- 第 4 回 片麻痺者への急性期理学療法 2-2
- 第 5 回 片麻痺者への急性期理学療法 3-1
- 第 6 回 片麻痺者への急性期理学療法 3-2
- 第 7 回 片麻痺者への回復期理学療法 1-1
- 第 8 回 片麻痺者への回復期理学療法 1-2
- 第 9 回 片麻痺者への回復期理学療法 2-1
- 第 10 回 片麻痺者への回復期理学療法 2-2
- 第 11 回 片麻痺者への回復期理学療法 3-1
- 第 12 回 片麻痺者への回復期理学療法 3-2
- 第 13 回 片麻痺者への維持期理学療法 1
- 第 14 回 片麻痺者への維持期理学療法 2
- 第 15 回 片麻痺者の ADL、生活環境についての指導 1
- 第 16 回 片麻痺者の ADL、生活環境についての指導 2
- 第 17 回 片麻痺者の装具療法と理学療法 1
- 第 18 回 片麻痺者の装具療法と理学療法 2
- 第 19 回 特殊な症状に対する理学療法①-1
- 第 20 回 特殊な症状に対する理学療法①-2
- 第 21 回 特殊な症状に対する理学療法②-1
- 第 22 回 特殊な症状に対する理学療法②-2
- 第 23 回 片麻痺者に対する理学療法評価と治療のまとめ-1
- 第 24 回 片麻痺者に対する理学療法評価と治療のまとめ-2

評価方法

レポート 20%、実技確認テスト 10%、講義ノート 10%、口頭試問および実技テスト 50%、授業参加度 10%

使用教材

神経系理学療法学テキストおよび配布資料

授業外学習の内容

①予習:毎回の講義内容について、神経系理学療法学の講義・ノートを確認しておくこと。

②復習:授業開始時までには前回の実技内容を練習し、できるレベルにしておくこと。

備考

質問は随時メールで:tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

内部障害系理学療法学（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修2単位

講義目標

呼吸・循環・代謝疾患における理学療法について、現在よく行われているいくつかの治療概念を紹介し、その理論的背景について知る。また、評価と治療の進め方について学習する。特に、解剖・生理学の知識から復習して、どのような問題を有しているのかを基礎から理解する。そのうえで、呼吸理学療法、心疾患、糖尿病に対する運動療法を中心に、そのリスク管理、最新のエビデンスについても学習する。

到達目標

呼吸・循環・代謝のメカニズムを理解したうえで、内部障害の病態を理解し、理学療法の効果、運動療法の処方について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 呼吸・循環・代謝の基礎知識と疾患の理解
- 第2回 運動生理学の基礎知識(運動と健康の関係・有酸素運動と無酸素運動・運動強度・エネルギー消費)
- 第3回 生活習慣病に対する運動療法(糖尿病・高血圧・高脂血症)
運動処方の原則(運動強度・時間・頻度・種類・手順、中止基準などウォーミングアップ・クールダウン等の手順)
- 第4回 呼吸リハビリテーション総論
- 第5回 呼吸理学療法に必要な基礎知識
- 第6回 呼吸理学療法評価Ⅰ(画像・血ガス・栄養・身体など)
- 第7回 呼吸理学療法評価Ⅱ(呼吸機能・呼吸困難感・呼吸パターンなど)
- 第8回 呼吸理学療法手技Ⅰ(換気増大のための)
- 第9回 呼吸理学療法手技Ⅱ(排痰のための)
- 第10回 呼吸理学療法手技Ⅲ(運動療法・日常生活動作等)
- 第11回 循環器理学療法に必要な基礎知識
- 第12回 循環器理学療法評価Ⅰ(心電図・運動負荷試験・生化学など)
- 第13回 循環器理学療法評価Ⅱ(自覚症状・バイタルサイン・ADL・QOL・投薬など)
- 第14回 循環器疾患理学療法Ⅰ(虚血性心疾患などの運動療法・リスク管理)
- 第15回 循環器疾患理学療法Ⅱ(心不全や心臓外科手術後など運動療法・リスク管理)

評価方法

筆記試験 80% 授業態度 10% 課題レポート 10%

使用教材

塩谷隆信編『包括的呼吸リハビリテーションⅠ・Ⅱ』（新興医学出版）各 5,775 円

医療情報科学研究所編『病気が見える、vol.2、循環器第2版』（メディックメディア）3,465 円

授業外学習の内容

呼吸循環に関する、解剖・生理学の復習をしていくこと。

備考

質問は随時研究室にて対応する。

内部障害系理学療法学実習（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満、阿部博樹、千木良佑介

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

呼吸・循環・代謝疾患の理学療法でよく用いられる手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。呼吸理学療法では、介助呼吸・スクイーピング・排痰法などを中心に実技練習を行い、心疾患や糖尿病に対する運動療法では、リスク管理方法、運動処方などを実際に体験するよう実習を行う。

到達目標

評価から理学療法が処方でき、それを実行できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 循環器疾患の理学療法Ⅰ
- 第2回 循環器疾患の理学療法Ⅱ
- 第3回 循環器疾患の理学療法Ⅲ
- 第4回 循環器疾患の理学療法Ⅳ
- 第5回 循環器疾患の理学療法Ⅴ
- 第6回 循環器疾患の理学療法Ⅵ
- 第7回 循環器疾患の理学療法Ⅶ
- 第8回 循環器疾患の理学療法Ⅷ
- 第9回 循環器疾患の理学療法Ⅸ
- 第10回 循環器疾患の理学療法Ⅹ
- 第11回 循環器疾患の理学療法ⅩⅠ
- 第12回 循環器疾患の理学療法ⅩⅡ
- 第13回 人工呼吸器についてⅠ
- 第14回 人工呼吸器についてⅡ
- 第15回 人工呼吸器についてⅢ
- 第16回 人工呼吸器についてⅣ
- 第17回 排痰、吸引についてⅠ
- 第18回 排痰、吸引についてⅡ
- 第19回 排痰、吸引についてⅢ
- 第20回 排痰、吸引についてⅣ
- 第21回 外科の術前後の呼吸理学療法Ⅰ
- 第22回 外科の術前後の呼吸理学療法Ⅱ
- 第23回 閉塞性肺疾患の呼吸理学療法Ⅰ
- 第24回 閉塞性肺疾患の呼吸理学療法Ⅱ
- 第25回 糖尿病の理学療法Ⅰ
- 第26回 糖尿病の理学療法Ⅱ
- 第27回 腎疾患の理学療法Ⅰ
- 第28回 腎疾患の理学療法Ⅱ

評価方法

筆記試験 70% 授業態度 20% 課題レポート 10%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

呼吸理学療法に関する理論をしっかり理解したうえで受講すること。

備考

日常生活活動学（理学療法専門科目群）

担当者

生方瞳、大野洋一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修2単位

講義目標

日常生活活動(ADL)の概念や範囲を知り、基本的なADLである、起居・移動動作、食事、整容、更衣、排泄、入浴について、各動作に必要な運動要素を学ぶ。また障害によってどのようなADLに制限が生じるか、主な疾患の特徴的なADL障害の評価や支援方法を学ぶ。

到達目標

- ①ADLとは何か一般の人が理解できるように説明できる。
- ②自分の行っているADLを理学療法士の視点で動作分析し、説明できる。
- ③障害により、どのようなADL制限が生じるか想像できる。
- ④疾患により特徴的なADL制限とその支援方法に関して説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 総論 ADLの概念と範囲、ADLと障害(ICF)、ADLとQOL(p4-35)
- 第2回 ADLと運動学①(p36-51) 臥位姿勢分析、臥位で圧を調べる、寝返り動作分析
- 第3回 ADLと運動学②(p35-51) 起き上がり、立ち上がり動作分析、座位・立位姿勢分析
- 第4回 グループワーク(p52-65) ADL動作の各段階ごとに必要な機能を考える
- 第5回 食事グループ発表 20分+食事動作のポイント体験(プリン、ゼリー、ヨーグルト持参)
- 第6回 整容グループ発表 20分+整容動作のポイント体験(髭剃り、クシ持参)
- 第7回 更衣グループ発表 20分+更衣動作のポイント体験(大きめのズボン、上着持参)
- 第8回 排泄グループ発表 20分+排泄動作のポイント体験(大きめのズボン持参)
- 第9回 入浴グループ発表 20分+入浴動作のポイント体験(タオル持参)
- 第10回 自助具・日常生活用具(p80-96)
- 第11回 車いす(p97-111)
- 第12回 疾患別ADL 脳血管障害(p114-125)
- 第13回 疾患別ADL 脊髄損傷(p126-141)
- 第14回 疾患別ADL RA(p153-160)
- 第15回 まとめ

評価方法

発表内容20%、筆記試験80%

使用教材

標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第4版、鶴見隆正編集、医学書院、2012年、5,400円

授業外学習の内容

- ①予習:毎回の講義内容について、テキストで予習すること。
- ②復習:授業開始時まで前回の講義内容を復習しておくこと。

備考

日常生活活動学実習（理学療法専門科目群）

担当者

生方瞳、居村茂幸

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

模擬的障害設定を行い、生活上で生じる活動制限を体験し、その中でどのように解決していくのか、生活環境設定や動作方法の変更などを考えながら学習する。障害がある場合の段差やドアの開閉、トイレ動作、入浴動作、車椅子や杖を使用した場合の困難さ、生活環境による影響などをシミュレーション機器を用いながら、体験し、生活上の工夫や障害に見合った動作方法の選定ができるように実習する。

到達目標

- ①日常生活場面における様々な問題について、自分で解決方法を考えることができる。
- ②患者家族や他職種に伝わるように日常生活の援助方法を説明できる
- ③実習に出て、指導者の見守りのもと、患者さんをベッドから起こし、車椅子に移乗させ、リハ室等へお連れでききる

講義内容と講義計画

- 第1回 基本動作の介助：寝返り
- 第2回 基本動作の介助：起き上がり
- 第3回 基本動作の介助：立ち上がり
- 第4回 基本動作の介助：移乗
- 第5回 基本的動作の介助の一連の流れ1
- 第6回 基本的動作の介助の一連の流れ2
- 第7回 グループ別実習1（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第8回 グループ別実習2（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第9回 グループ別実習3（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第10回 グループ別実習4（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第11回 グループ別実習5（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第12回 グループ別実習6（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第13回 グループ別実習7（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第14回 グループ別実習8（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第15回 グループ別実習9（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第16回 グループ別実習10（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第17回 グループ別実習11（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第18回 グループ別実習12（食事・整容＋環境調整・更衣・排泄・入浴・移動支援をローテーションで実習）
- 第19回 生活活動範囲の拡大：車椅子での買い物体験1
- 第20回 生活活動範囲の拡大：車椅子での買い物体験2
- 第21回 家事動作：片手でのカレー作り1
- 第22回 家事動作：片手でのカレー作り2
- 第23回 まとめ

評価方法

課題提出 60%、実技テスト 40%

使用教材

日常生活活動学に準ずる

授業外学習の内容

毎回の授業前に前期の日常生活活動学で学習したことを復習して授業にのぞむこと

備考

義肢装具学（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満、千木良佑介

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

切断者に適応される義肢と様々な目的で用いられる装具について、その適応および種類、チェックアウトの方法などについて広く学ぶ。特に、大腿切断、下腿切断、上腕切断、前腕切断に対する、義肢の適応について、義肢の種類、パーツの種類、適合評価などを学ぶ。また、脳卒中片麻痺者の下肢装具やアームスリングなどについても、その種類、適応、評価について学習する。

到達目標

義肢装具の種類、適応について言える

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション(義肢とは・装具とは・装着を成功させるためにはなど)
- 第2回 切断の理学療法の流れ・処方因子と支給制度
- 第3回 切断の適応疾患と切断術
- 第4回 切断術後の合併症と術後管理
- 第5回 大腿義足について(ソケット・膝継手・足継手・足部)
- 第6回 下腿義足・その他の義足について(種類・アライメントなど)
- 第7回 切断者の日常生活・断端管理法
- 第8回 装具総論(適応疾患・処方因子と支給制度)
- 第9回 上肢・体幹装具について1(種類・チェックアウトなど)
- 第10回 上肢・体幹装具について2(種類・チェックアウトなど)
- 第11回 下肢・靴型装具について1(種類・チェックアウトなど)
- 第12回 下肢・靴型装具について2(種類・チェックアウトなど)
- 第13回 下肢・靴型装具について3(種類・チェックアウトなど)
- 第14回 車椅子・歩行補助具について1(種類・適応・使用方法)
- 第15回 車椅子・歩行補助具について2(種類・適応・使用方法)

評価方法

筆記試験 80% 授業態度 10% 課題レポート 10%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

次回のキーワードについて調べてくること。

備考

義肢装具学演習（理学療法専門科目群）

担当者

浅香満、千木良佑介

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

実際に義肢・装具の作成過程を体験し、また作成した補装具を用いた練習方法などについても学ぶ。また、どのようにして必要な補装具を選択するかについてもグループワークなどを利用して主体的に学ぶ。義足ソケット作成、アライメント調整、適合判定の一連の過程を経験する。また、義足完成後の歩行練習の実際についても学ぶ。簡易装具の作成についても経験し、装具を使用した歩行練習についても実習を通して学ぶ。

到達目標

評価から義足・装具の処方ができ、義足のソケット作成や簡単な装具・足底板の作成ができる

講義内容と講義計画

- 第1回 切断者の理学療法評価(ソケット・義足作成のための)Ⅰ
- 第2回 切断者の理学療法評価(ソケット・義足作成のための)Ⅱ
- 第3回 大腿義足・ソケット作成Ⅰ
- 第4回 大腿義足・ソケット作成Ⅱ
- 第5回 ベンチアライメント・ダイナミックアライメントⅠ
- 第6回 ベンチアライメント・ダイナミックアライメントⅡ
- 第7回 下腿義足の作成Ⅰ
- 第8回 下腿義足の作成Ⅱ
- 第9回 切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験Ⅰ
- 第10回 切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験Ⅱ
- 第11回 下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成Ⅰ
- 第12回 下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成Ⅱ
- 第13回 体幹・上肢装具のチェックアウトⅠ
- 第14回 体幹・上肢装具のチェックアウトⅡ
- 第15回 車椅子操作・保守点検。歩行補助具の使い方

評価方法

実技試験 70% 授業態度 20% 課題レポート 10%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

運動学や臨床医学を復習しながら受講すること。

備考

物理療法学（理学療法専門科目群）

担当者

竹内伸行

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

各種物理的刺激の性質と生体に対する作用を理解する。物理療法の適応となる症状や障害を理解し、適切な物理療法を選択できるように、その基本的知識を習得する。

到達目標

物理療法学の基礎的理論、適応、禁忌、リスクを説明できる。基本的な病態に応じた物理療法の選択およびその作用メカニズムを説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション、物理療法の歴史と分類

- ・理学療法における物理療法の歴史、位置づけとその分類を学ぶ。
- ・物理療法の必要性、重要性を学ぶ。

第2回 生体における物理現象

- ・人間の身体における物理現象、物理的特性を学ぶ。また、その特性と物理療法の関係を学ぶ。

第3回 物理的エネルギーと生体反応1(温熱、寒冷)

- ・熱とは何か、温熱および寒冷の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における温熱療法、寒冷療法とそれを応用した治療を学ぶ。

第4回 物理的エネルギーと生体反応2(水)

- ・水の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における水治療とそれを応用した治療を学ぶ。

第5回 物理的エネルギーと生体反応3(光)

- ・光の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における光線療法とそれを応用した治療を学ぶ。

第6回 物理的エネルギーと生体反応4(紫外線、極超短波)

- ・紫外線の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における紫外線療法とそれを応用した治療を学ぶ。
- ・極超短波の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における極超短波療法とそれを応用した治療を学ぶ。

第7回 物理的エネルギーと生体反応5(超音波)

- ・超音波の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における超音波療法とそれを応用した治療を学ぶ。

第8回 物理的エネルギーと生体反応6(電気1)

- ・電気の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における電気刺激療法(治療的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。

第9回 物理的エネルギーと生体反応7(電気2)

- ・物理療法における電気刺激療法(機能的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。

第10回 物理的エネルギーと生体反応8(電気2)

- ・物理療法における電気刺激療法(機能的電気刺激)とそれを応用した治療を学ぶ。

第11回 物理的エネルギーと生体反応9(牽引)

- ・牽引(脊椎に対する力学的負荷)の物理的性質について学ぶ。
- ・物理療法における牽引療法とそれを応用した治療を学ぶ。

第12回 病態別物理療法1(疼痛)

- ・痛みの生理学的メカニズムを学ぶ。

・痛みに対する物理療法を学ぶ。

第 13 回 病態別物理療法 2(軟部組織伸張性低下)

- ・軟部組織の伸張性変化の生理学的メカニズムを学ぶ。
- ・軟部組織伸張性向上のための部地理療法を学ぶ。

第 14 回 病態別物理療法 3(筋委縮、筋力低下、運動麻痺)

- ・筋委縮、筋力発揮、運動麻痺の生理学的メカニズムを学ぶ。
- ・筋委縮の予防と改善、筋力向上、運動麻痺改善のための物理療法を学ぶ。

第 15 回 病態別物理療法 4(末梢循環障害、浮腫)

- ・末梢循環障害および浮腫の生理学的メカニズムを学ぶ。
- ・末梢循環障害、浮腫に対する物理療法を学ぶ。

評価方法

原則として期末試験で評価する。

使用教材

標準理学療法学物理療法学第 4 版 網本 和編 医学書院 2013 4,935 円

【参考図書】

最新物理療法の臨床適応 庄本康治編集 文光堂 2012 8400 円

理学療法テキスト 15 物理療法学・実習 石川 朗編 中山書店 2014 2,400 円

授業外学習の内容

講義内容は非常に広範囲に及ぶため、次回授業内容の予習は欠かせない。次回授業範囲について、教科書などを熟読し、分からない用語等は調べておくこと。また物理療法そのものに加え、様々な病態(第 12 回目以降の病態)について事前に学習し、発生メカニズムや症状、一般的治療方法を理解しておく。

備考

物理療法学実習（理学療法専門科目）

担当者

竹内伸行

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 必修1単位

講義目標

物理療法学で学習した様々な物理的刺激を用いた治療法について、実際の物理療法機器を使用して実習を行う。各物理療法の適切な治療条件、リスク管理、機器の取り扱い、適応、禁忌等について理解したうえで、実践する知識と技術を学ぶ。

到達目標

各物理療法について、適切な治療条件、リスク管理、適応、禁忌、機器の取り扱い等について述べることができる。また、病態に応じた適切な物理療法を選択し、実践できる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション、実習のリスク管理

- ・各物理療法機器の概要、リスク管理について学ぶ

第2～13回 各物理療法の実施

- ・グループに分かれて、以下の各物理療法について、安全に、且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

①表在性温熱療法1：ホットパック

- ・ホットパックの適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

②表在性温熱療法2：パラフィン浴

- ・パラフィン浴の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

③極超短波療法

- ・極超短波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

④超音波療法

- ・超音波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑤電気刺激療法1：疼痛緩和のための経皮的電気刺激療法

- ・痛みに対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑥電気刺激療法2：筋機能改善のための筋電気刺激療法

- ・筋機能に対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑦電気刺激療法3：運動麻痺改善のための筋電誘発型電気刺激療法

- ・筋電誘発型電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑧直線偏光近赤外線療法

- ・直線偏光近赤外線療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑨牽引療法1：頸椎牽引療法

- ・頸椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑩牽引療法2：腰椎牽引療法

- ・腰椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑪水治療法：渦流浴

- ・渦流浴の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

⑫寒冷療法：アイスパック、クリッカー

- ・アイスパックおよびクリッカーの適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。

第14回 各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて振り返り、知識の定着を図る。最新の物理療法に関する文献を紹介し、今後の物理療法の可能性や最新の知見を学ぶ。

第15回 各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて振り返り、知識の定着を図る。最新の物理療法に関する文献を紹介し、今後の物理療法の可能性や最新の知見を学ぶ。

評価方法

原則として期末試験で評価する。

使用教材

標準理学療法学物理療法学第4版 網本 和編 医学書院 2013 4,935 円

【参考図書】

最新物理療法の臨床適応 庄本康治編集 文光堂 2012 8400 円

理学療法テキスト 15 物理療法学・実習 石川 朗編 中山書店 2014 2,400 円

授業外学習の内容

- ・ 授業内容は非常に広範囲に及ぶため、前期の物理療法学で学習した内容をよく復習して授業に臨むこと。
- ・ 物理療法は日常生活の中でも多くみられる。日々の生活における物理現象と生体の関連性に関心を持ち、そのメカニズムを考える習慣を身につけること。

備考

理学療法症例基盤型演習 I (理学療法専門科目群)

担当者

竹内伸行

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

運動器疾患、中枢神経疾患、内部障害など、主な理学療法対象疾患の模擬症例を通して、一連の理学療法過程を学ぶ。理学療法における評価、問題点抽出、治療計画立案の位置づけとその必要性を学習する。またこれらを実践するための知識・技術を学習する。理学療法士が接する機会の多い症例について、その症例検討の基礎的知識を身につける。

到達目標

模擬症例を通して、一連の理学療法過程を学ぶ。症例に必要な検査測定(評価)項目の列挙、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案ができる。また他者へ伝えることができる。

講義内容と講義計画

第1回・オリエンテーション

・理学療法における問題基盤型学習 (problem based learning;PBL) について、肩関節周囲炎を例に学ぶ。

第2回 模擬症例 ①大腿骨頸部骨折の理学療法過程

第3回 模擬症例 ①のグループ発表

第4回 模擬症例 ②変形性膝関節症の理学療法過程

第5回 模擬症例 ②のグループ発表

第6回 模擬症例 ③腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程

第7回 模擬症例 ③のグループ発表

第8回 模擬症例 ④脳梗塞の理学療法過程

第9回 模擬症例 ④のグループ発表

第10回 模擬症例 ⑤小脳出血の理学療法過程

第11回 模擬症例 ⑤のグループ発表

第12回 模擬症例 ⑥心筋梗塞の理学療法過程

第13回 模擬症例 ⑥のグループ発表

第14回 模擬症例 ⑦慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程

第15回 模擬症例 ⑦のグループ発表

評価方法

筆記試験 80%、出席および授業態度 20%で評価

使用教材

嶋田智明：ケースで学ぶ理学療法臨床思考：文光堂 2006 6,190円 (税込み)

授業外学習の内容

各模擬症例について疾患の特徴や症状、障害およびその理学療法について予習を行ったうえで授業に臨むこと。

備考

質問等はメールでも受け付ける。ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp

理学療法症例基盤型演習Ⅱ（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛、大野洋一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 必修1単位

講義目標

1. 総合臨床実習に向けて、理学療法の治療計画を立てて実施し、経過を追って治療の見直しができるまでに行う思考過程について、グループワークを中心に演習形式で学ぶ。
2. 特に、広い視野で問題点の抽出と構造分析を行うために、評価項目の抽出と結果の統合と解釈、妥当な優先順位の判断と具体的な目標設定、それにリンクした治療計画の策定を行うまでについて理解を深める。
3. 動作分析などの観察評価、徒手的操作による潜在能力の評価、立てたプログラムの施行とその中で行う評価について実施できるレベルを目標に実習も取り入れながら学ぶ。

到達目標

症例を評価し、治療計画を考えるための臨床思考過程を実践する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、情報収集講義
- 第2回 情報収集演習、評価計画の立案、検査・測定の実施について講義
- 第3回 統合と解釈・問題点の抽出について講義
- 第4回 統合と解釈演習、問題構造の分析について講義
- 第5回 目標設定・プログラム立案について講義と演習
- 第6回 治療経過、考察について講義と演習
- 第7回 ケース①-1 情報の整理、評価計画立案（全体、第1回）→発表
- 第8回 ケース①-2 データから統合と解釈、問題点の抽出→学生デモ（評価実施）
- 第9回 ケース①-3 ゴール設定、プログラム作成→発表
- 第10回 ケース①-4 治療実施と再評価→デモ（治療実施）
- 第11回 ケース②-1 情報の整理、評価計画立案（全体、第1回）→発表
- 第12回 ケース②-2 データから統合と解釈、問題点の抽出→デモ（評価実施）
- 第13回 ケース②-3 ゴール設定、プログラム作成→発表
- 第14回 ケース②-4 治療実施と再評価→デモ（治療実施）
- 第15回 ケース②-5 退院前訪問指導における生活面へのアプローチについて、まとめ

評価方法

レポート90%（講義ノート30%、ケースのレジュメ各30%）、学習態度10%

使用教材

教科書：理学療法症例基盤型演習Ⅰと同じ

参考書：嶋田智明障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考続 文光堂、嶋田智明 生活機能障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 文光堂

授業外学習の内容

- ①予習:毎回の講義内容について、テキストで予習すること。
- ②復習:授業開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。

備考

質問は随時メールで:tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

理学療法技術実習 I (理学療法専門科目群)

担当者

浅香満、生方瞳

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

特によく用いられる理学療法技術について、その理論的背景やコンセプトを学び、実技練習を通して技術を習得する。各治療技術を学ぶ中で、対象者の身体に対する接触や徒手的操作を加えながら行うリスク管理や観察評価についても学び、理学療法技術を提供する際に必要となる基本的対応についても学ぶ。

到達目標

理学療法技術について基本的概念を身につける。
対象者に対して安全かつ有効な徒手的操作を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 徒手療法Ⅰ モビリゼーション
- 第3回 徒手療法Ⅱ-1 モビリゼーション
- 第4回 徒手療法Ⅱ-2 モビリゼーション
- 第5回 徒手療法Ⅲ-1 オステオパシー
- 第6回 徒手療法Ⅲ-2 筋膜リリース
- 第7回 徒手療法Ⅳ-1 マイオチューニングアプローチ
- 第8回 徒手療法Ⅳ-2 マイオチューニングアプローチ
- 第9回 徒手療法Ⅴ-1 関節運動学的アプローチ (AKA)
- 第10回 徒手療法Ⅴ-2 関節運動学的アプローチ (AKA)
- 第11回 徒手療法Ⅵ-3 関節運動学的アプローチ (AKA)
- 第12回 徒手療法Ⅵ-4 関節運動学的アプローチ (AKA)
- 第13回 関節可動域運動Ⅰ
- 第14回 関節可動域運動Ⅱ
- 第15回 筋力強化法Ⅰ
- 第16回 筋力強化法Ⅱ
- 第17回 脊柱の評価と治療Ⅰ-1
- 第18回 脊柱の評価と治療Ⅰ-2
- 第19回 脊柱の評価と治療Ⅱ-1
- 第20回 脊柱の評価と治療Ⅱ-2
- 第21回 がんの理学療法Ⅰ-1
- 第22回 がんの理学療法Ⅰ-2
- 第23回 がんの理学療法Ⅱ
- 第24回 まとめ

評価方法

実技試験 50%、筆記試験 40%、講義参加度 10%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

解剖学や運動学、基礎学で学んだ知識を整理して、各技術につなげるように準備する。技術が習得できるよう

に、次の講義までに学生間で練習しておく。

備考

理学療法技術実習Ⅱ（共通教養科目）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

特によく用いられる理学療法技術について、その理論的背景やコンセプトを学び、実技練習を通して技術を習得する。各治療技術を学ぶ中で、対象者の身体に対する接触や徒手的操作を加えながら行うリスク管理や観察評価についても学び、理学療法技術を提供する際に必要となる基本的対応についても学ぶ。

到達目標

理学療法技術について基本的概念を身につける。
対象者に対して安全かつ有効な徒手的操作を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、PNFの概念
- 第2回 PNF 肩甲帯パターン
- 第3回 PNF 肩甲帯パターン
- 第4回 PNF 骨盤帯パターン
- 第5回 PNF 骨盤帯パターン
- 第6回 PNF 上肢パターン
- 第7回 PNF 上肢パターン
- 第8回 PNF 上肢パターン
- 第9回 PNF 下肢パターン
- 第10回 PNF 下肢パターン
- 第11回 PNF 下肢パターン
- 第12回 特殊テクニック
- 第13回 臨床における応用
- 第14回 臨床における応用
- 第15回 ボバース概念について
- 第16回 神経発達学的アプローチ
- 第17回 神経発達学的アプローチ
- 第18回 神経発達学的アプローチ
- 第19回 神経発達学的アプローチ
- 第20回 神経発達学的アプローチ
- 第21回 トランスファーテクニック
- 第22回 トランスファーテクニック
- 第23回 まとめ
- 第24回 まとめ

評価方法

実技試験 50%、実技小テスト 40%、講義参加度 10%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

解剖学や運動学、基礎学で学んだ知識を整理して、各技術につなげるように準備する。技術が習得できるよう

に、次の講義までに学生間で練習しておく。

備考

受講時の服装は、Tシャツ、短パンとし、実技練習を行いやすいように配慮すること。授業外の実技練習に対してもスケジュールが可能であれば、要望に対し教員が始動を行うことがある。

スポーツ障害系理学療法（理学療法専門科目群）

担当者

中川和昌

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

スポーツ外傷・障害に対する理学療法およびアスレティックリハビリテーションの概要，その予防について学ぶ。また幅広い分野でスポーツ理学療法を捉え，健康づくりのための理学療法の応用について考える。

到達目標

基本的なスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解し，説明できる。
スポーツ理学療法の範囲を理解し，その活動のために必要な知識・技術を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション：スポーツ理学療法概論
- 第2回 スポーツ外傷・障害に対する理学療法
- 第3回 スポーツフィールドにおける理学療法活動
- 第4回 年齢・性別から見たスポーツ理学療法（成長期/女性/中高年者）
- 第5回 障害者スポーツ
- 第6回 外傷・障害予防とスポーツの位置付け
- 第7回 健康増進とスポーツ理学療法
- 第8回 スポーツ外傷・障害予防の実際：実技

評価方法

筆記試験 80%，学習態度 20%で評価します。

使用教材

必要な資料等は配布します。

授業外学習の内容

基本的なスポーツ外傷・障害の知識を復習しておくこと。

備考

質問は随時受け付けます。

連絡先: nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp

嚥下障害系理学療法（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

現在行われている嚥下障害に対するリハビリテーションについて知ったうえで、嚥下運動障害について、理学療法の視点から学び、姿勢や呼吸などの全身状態が嚥下運動に与える影響およびそれに対する理学療法介入について説明できるようになることを目的とする。特に、嚥下のメカニズムを知り、嚥下筋および各器官の運動について深く学習する。

到達目標

理学療法士として、姿勢や呼吸、頸部・体幹機能などの嚥下運動阻害因子とその評価法、およびそれに対する理学療法の一部を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 摂食・嚥下の基礎知識
- 第2回 摂食・嚥下障害のメカニズム
- 第3回 摂食・嚥下リハビリテーションの最新情報とエビデンス
- 第4回 嚥下機能評価法
- 第5回 嚥下リハビリテーション手技
- 第6回 摂食・嚥下障害に対する理学療法
- 第7回 実技練習
- 第8回 実技練習

評価方法

レポート30%、筆記テスト60%、授業参加度10%で評価

使用教材

配布資料中心

参考書：嚥下リハビリテーション 第2版 医歯薬出版 7,560円
脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版 医歯薬出版 4,830円

授業外学習の内容

- ①予習:毎回の講義内容について、参考書などで予習すること。
- ②復習:授業開始時まで前回の講義内容を復習しておくこと。

備考

質問は随時メールで:tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp

発達障害系理学療法（理学療法専門科目群）

担当者

吉田剛・臼田由美子

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

正常運動発達とそれと対比した異常運動発達について、運動以外の発達との関連性を踏まえながら学ぶ。また先天性疾患の中でも運動機能に関わる代表的な疾患を学習する。特に発達障害の理学療法の代表的な対象である脳性麻痺とその他の疾患について、その原因、症状、予後、障害に特有な評価方法及び理学療法について学習する。さらに従来行われてきた治療方法に加え、両親の関わりを含めた環境設定についても学ぶ。

到達目標

小児領域の理学療法について理解し、脳性麻痺に対する理学療法について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 正常発達
- 第2回 脳性麻痺の基礎知識
- 第3回 脳性麻痺に対する理学療法(評価と治療)
- 第4回 NICUからの理学療法(家族指導を含む)
- 第5回 その他の小児領域の理学療法(染色体異常、呼吸器疾患、先天性心疾患)
- 第6回 進行性筋ジストロフィー症に対する理学療法
- 第7回 二分脊椎に対する理学療法
- 第8回 まとめ

評価方法

レポートもしくは筆記試験 80%、授業参加度 20%で評価

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

- ①予習:毎回の講義内容について、テキストで予習すること。
- ②復習:授業開始時までには前回の講義内容を復習しておくこと。

備考

第1回から第5回は、小児領域専門の外来講師が担当
一般総合病院でも小児を対象とする可能性があるので極力受講するよう勧めます。
希望者は、県立小児医療センターの見学もできることがあります。

産婦人科系理学療法学（理学療法専門科目群）

担当者

生方瞳

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

解剖生理運動学の知識と、運動系理学療法学実習の技能を実際に生かした研究と臨床の実践を学習する。特に女性医学への適用、とりわけ産婦人科に注目し、解剖生理・機能解剖・姿勢分析から評価治療までを系統的に学習する。

到達目標

産婦人科理学療法の理解が深まる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション(女性医学の理学療法<乳癌・腰痛・尿失禁>)

第2回 産婦人科概論1(解剖生理)

第3回 産婦人科概論2(機能解剖)

第4回 産婦人科概論3(姿勢分析)

第5回 産婦人科理学療法の実際(肩甲帯と乳癌)

第6回 産婦人科理学療法の実際(骨盤帯と腰痛)

第7回 産婦人科理学療法の実際(腹圧と尿失禁)

第8回 まとめ(産前産後のリハビリトレーニング)

評価方法

課題提出（80%）、学習態度（20%）による評価

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

解剖学・臨床医学を良く復習して授業に臨むこと。

備考

地域在宅理学療法学（理学療法専門科目群）

担当者

理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

高齢化社会の到来にともない、地域社会の中で生活する障害者およびその家族に対して支援する地域理学療法の重要性は保健・医療・福祉の分野のみならず、社会・経済の観点からも注目されつつある。地域理学療法の様々な場面でどのような理学療法を提供すればよいか学習する。

到達目標

- ①介護保険制度と各サービスについて説明できる
- ②地域における理学療法士の役割について説明できる
- ③認知症のついて正しく理解し、有効なリハを提供できる

講義内容と講義計画

- 第1回 地域リハの歴史・定義 (p2-16) 介護保険制度とサービス (入所、通所) (p30-39, 82-104)
- 第2回 高齢者の体と心の変化と生活 (介護負担・虐待・倫理・死) (244-248) (p196-199)
- 第3回 集団レク・体操の意義や効果と実践 (p120-125)
- 第4回 認知症の理解とリハ (p237-243)、高齢者の生きた時代の理解 (グループワーク)
- 第5回 元気高齢者を知る (長寿センター見学実習)
- 第6回 訪問理学療法(105-112, 199-205)
- 第7回 小児の地域理学療法 (152-157, 258-271)
- 第8回 インフォーマルサービス (48-52, 58-67)

評価方法

発表内容 40%、筆記試験 60%

使用教材

標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学第3版、牧田光代、金谷さとみ編集、医学書院、2012年、4,700円

授業外学習の内容

事前に教科書の該当部分を読んで授業に参加すること。

備考

生活環境支援学（理学療法専門科目群）

担当者

竹内伸行、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

ICF の図に示されるように、障がい者の生活には環境因子が影響している。例え重度の障がいがあっても、環境を整えることができれば、その人らしい生活を送ることは可能である。本講義では障がい者の能力を引き出したり、快適に生活してもらうための環境面の支援方法を学ぶ

到達目標

- ①関連する保健・医療・福祉制度を挙げることができる
- ②生活支援をともに行う他職種とその役割を述べることができる
- ③福祉用具の種類や特徴を述べるができる
- ④住宅改修のポイントを述べるができる

講義内容と講義計画

- 第1回 生活環境支援の考え方(p224-231)
- 第2回 障がいをもちながら地域で暮らす
- 第3回 フィールドワーク発表会
- 第4回 福祉用具（群馬県社会福祉総合センターの福祉用具・住宅モデルルーム展示会を見学）
- 第5回 家屋改修のポイント（段差解消/手すり/階段）(p276-290)
- 第6回 家屋改修の提案（模擬症例を用いたグループワーク）
- 第7回 家屋評価の流れ（p232-247）
- 第8回 まとめ

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

日常生活活動学に準ずる

授業外学習の内容

事前に教科書の該当部分を読んで授業に参加すること。

備考

生活環境支援学演習（理学療法専門科目群）

担当者

竹内伸行、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年前期 必修1単位

講義目標

ICF の図に示されるように、障がい者の生活には環境因子が影響している。例え重度の障がいがあっても、環境を整えることができれば、その人らしい生活を送ることは可能である。本講義では実際にフィールドワークや模擬的な家屋評価等を体験し、障がい者の能力を引き出したり、快適に生活してもらうための環境面の支援方法を学ぶ

到達目標

- ①生活環境が、障がいのある人にとって適切かどうか評価し、改善案を提示できる
- ②生活支援をともに行う他職種とその役割を述べるができる
- ③対象者に適した福祉用具を選択し、適した物がない場合は作成できる
- ④家屋評価を実施し、適切な改修点を提案できる

講義内容と講義計画

- 第1回:社会福祉関連法規・サービス(p248-274)、ソーシャルワーカーとの連携
- 第2回:フィールドワーク (p326-332) (環境を評価し、解決策を検討)
- 第3回:福祉用具1 (p291-300)
- 第4回:福祉用具2 (群馬県社会福祉総合センターの福祉用具・住宅モデルルーム展示場を見学)
- 第5回:家屋改修のポイント (トイレ、浴室) (p276-290)
- 第6回:家屋改修の提案 (模擬症例を用いたグループワークの発表)
- 第7回:擬家屋評価
- 第8回:家屋評価発表会
- 第9回:疾患別の家屋評価
- 第10回:車いすの調整とシーティング・ポジショニング
- 第11回:高齢者の転倒予防と環境調整 (p319-325)
- 第12回:難病へのコミュニケーション支援1 心得/伝の心・レッツ・チャット
- 第13回:難病へのコミュニケーション支援2 PTの役割/ペチャラ・文字盤
- 第14回:自助具コンテスト
- 第15回:まとめ

評価方法

課題提出100%で評価する

使用教材

日常生活活動学に準ずる

授業外学習の内容

実習中に終わらなかった課題は、授業外で実施すること。また実習レポートを作成し、提出すること。

備考

介護予防理学療法学（理学療法専門科目群）

担当者

中川和昌、理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期 必修1単位

講義目標

介護保険制度の中で、介護予防の重要性が増す中で、リハビリテーションや理学療法が果たす役割は重要性を増している。介護予防の制度について学習し、理学療法士としてどのような役割を果たすことができるのか学習する。

到達目標

- ①介護保険制度の中の介護予防の制度について説明できる
- ②介護予防に有効なプログラムやその根拠を説明できる
- ③介護予防の評価方法を説明できる

講義内容と講義計画

- 第1回 介護予防概論 (p33-47)
- 第2回 行動変容を促す／自主グループ支援 (p113-119)
- 第3回 集団レク・体操の意義や効果と実践 (p120-125)
- 第4回 介護予防に関わる評価 (p13)、高齢者の生きた時代の理解 (発表)
- 第5回 元気高齢者を知る (長寿センター見学実習)
- 第6回 転倒予防
- 第7回 慢性痛予防
- 第8回 まとめ (地域在宅理学療法と合同)

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

地域在宅理学療法学に準ずる

授業外学習の内容

事前に教科書の該当部分を読んで授業に参加すること。

備考

理学療法早期体験実習（理学療法専門科目群）

担当者

理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

- 1) 各病院・施設の特徴及び役割を理解するとともに、理学療法及び理学療法士の役割や施設内での位置づけ、リハビリテーション関連機器の使用目的など理学療法の業務内容を理解する。
- 2) 各病院・施設等におけるリハビリテーションの場において、障害者と向き合うスタッフの支援活動や方法を見学したり、スタッフとのやり取りの中で、臨床の雰囲気を感じ、2年次以降の臨床実習に先立ち、理学療法における臨床実習に臨む姿勢、態度、行動を確認する。
- 3) 各病院・施設の見学を通じて、発症からの期間や障害の種類により、対処すべき問題が様々であることを知ることにより、今後の学習意欲の向上と学生個人の将来像構築の一助とする。

到達目標

- 1) 臨床で重要な基本的態度を身につける(対象者への接遇やスタッフの皆様との良好な関係の構築に足る基本的態度が必要とされる)。
- 2) 理学療法部門及びその関連職種部門の見学により理学療法業務の内容を理解する。
- 3) 見学・体験実習から既修科目の復習及び今後の学習意欲を高める。
- 4) 臨床実習に必要な積極的な学習態度を身につける。

講義内容と講義計画

指定された実習施設において、実習指導者の指導のもと見学する。理学療法業務全般を学習するため、様々な分野の病院、施設を見学し、その内容も、単に治療場面の見学のみならず、理学療法士の1日の流れに合わせて様々な業務を見学する。患者(家族)、理学療法士や他職種のスタッフなど理学療法に関連する人を理解するため、質問や見学内容をまとめる。

評価方法

実習態度(60%)、レポートの成績(40%)

使用教材

適時資料を配付する

授業外学習の内容

事前に実習施設の特色を調べ、見学したい内容や目標を決める。実習後はデイリーノートの作成、レポートと実習時にわからなかった事を調べた資料等を作成し提出すること。

備考

機能・能力診断学臨床実習（理学療法専門科目群）

担当者

理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期・3年後期 必修 4単位

講義目標

理学療法評価法および同実習で得られた基本的な検査・測定に関する知識と技術を臨床の場で学習する(2年次後期)。

検査・測定結果を統合・解釈することにより患者の機能や問題点を把握し、適切な理学療法プログラムを立案するための理学療法評価を臨床の場で学習する(3年次後期)。

到達目標

臨床実習施設の指導者の指導・監視の下で症例を担当し、検査・測定・評価を体験することで、より臨床志向的な視点をもって、基本的な理学療法評価の実施および結果の考察ができる。

講義内容と講義計画

2年次実習目標

- 1.検査、測定 of 知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。
- 2.実際の症例において必要な検査、測定項目を選択し実施できる。
- 3.理学療法士としての資質を高める。

3年次実習目標

- 1.検査、測定、評価の知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。
- 2.検査、測定結果の統合と解釈による理学療法評価を学び、目標設定、治療プログラムの立案などを学生が主体的に行う。
- 3.理学療法士としての資質を高める。

指定された臨床実習施設において、実習指導者の指導・監督の下、症例担当制により理学療法の検査、測定、評価を学習(実習)する。これまでに学習した検査、測定を実際の症例に対して正確に実施できることを目標とする(2年次後期)。

加えて検査、測定によって得られた情報から、治療思考的な理学療法評価へ発展させることにより、統合と解釈、目標設定、治療プログラムの立案が行えることを目標とする(3年次後期)。

評価方法

実習指導者からの臨床実習成績評価表、セミナー発表、教員評価、実習参加度、提出物等により総合的に評価する。

使用教材

適時指示する

授業外学習の内容

担当症例や見学症例の疾患別ノート(疾患・治療法・理学療法評価・理学療法などを系統的にまとめたもの)の作成を行う。

備考

理学療法総合臨床実習 I (理学療法専門科目群)

担当者

理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年後期 必修 7単位

講義目標

4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術、対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより、評価から治療までの一連の過程を体験し、実際の理学療法の理解を深める。

到達目標

治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を行うことができる

講義内容と講義計画

実習目標

- 1.理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する
 - 2.理学療法士としての資質を高める
 - 3.理学療法士としての評価技術・臨床思考過程・基本的な治療法を学習する
 - 4.治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を学生が主体的に行う
- 指定された臨床実習施設において、実習指導者の指導・監視の下、症例担当制により理学療法全般を学習(実習)する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し、実際の理学療法の理解を深めることで、治療志向的な評価及び統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案が行えることを目標とする。

評価方法

臨床実習成績評価表 70%、セミナー発表 10%、教員評価 20%で評価する

使用教材

特になし

授業外学習の内容

担当症例や見学症例の疾患別ノート(疾患・治療法・理学療法評価・理学療法などを系統的にまとめたもの)の作成を行う。

備考

理学療法総合臨床実習Ⅱ（理学療法専門科目群）

担当者

理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 4年後期 必修7単位

講義目標

4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術、対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監督の下で症例を担当することにより、評価から治療までの一連の過程を体験し、実際の理学療法の理解を深める。理学療法課程全般を実体験して、卒後の理学療法業務に直結できるようにする。

到達目標

治療志向的な評価，統合と解釈，目標の設定，治療計画の立案などを行うことができる。

講義内容と講義計画

実習目標

- 1.理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する
- 2.理学療法士としての資質を高める
- 3.理学療法士としての評価技術・臨床思考過程・基本的な治療法を学習する
- 4.治療志向的な評価,統合と解釈,目標の設定,治療計画の立案を学生が主体的に行う指定された臨床実習施設において,実習指導者の指導・監督の下,症例担当制により理学療法全般を学習(実習)する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し,実際の理学療法の理解を深める。

評価方法

臨床実習成績評価表 70%，セミナー発表 10%，教員評価 20%で評価する

使用教材

特になし

授業外学習の内容

担当ケースや見学ケースの疾患別ノートの作成を行う。

備考

卒業研究（理学療法専門科目群）

担当者

理学療法学科教員

開講学科と時期・単位

理学療法学科 3年後期～4年前期 必修 4単位

講義目標

理学療法士が行う研究は、基礎から臨床まで幅広い分野で行われている。これまで学習し、実習を通して感じてきた様々な疑問をどのように明らかにすればよいのか、主体的にテーマを選び、文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする。目的に沿った研究手法を用いてデータの収集、分析を行い、結果を考察して論文を作成する。これにより、妥当な問題解決方法の検討、結果をどのようにまとめ、提示すれば理解しやすいのか、より科学性を追及するために必要な手順について学び、研究的な思考（論理的かつ批判的思考）や態度を養う。

到達目標

理学療法研究について理解し、他者に分かるように研究を発表して、卒業論文として集約する。

講義内容と講義計画

各個人又はグループ単位で、関心を持つテーマに関連の深い教員の指導の下に研究計画の作成および研究を行う。指導教員ごとにゼミナール形式で指導を受ける。研究結果を論文にまとめ、研究発表会で発表する。

3年後期

理学療法研究法の講義を通して研究テーマを探し、リハビリ英語の講義を通して外国語文献を含む文献検索とそのまとめを行いながら、研究計画を立てる。

4年前期

データ収集および結果の考察を行い、論文にまとめると同時に、発表準備を行い発表する。

評価方法

研究計画 30%、論文 30%、発表 30%、研究への取り組み 10%

使用教材

理学療法研究法に準ずる。

授業外学習の内容

地域で行われている理学療法関連学会への参加やその抄録集から、同じ領域の類似した研究について調べて参考にする。

備考

運動指導実践論（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

小山裕史、入澤孝一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 選択必修 1単位

講義目標

運動が身体にどのように影響を与え、健康の維持にどのような役割を果たしているのかを理解する。また、生活における正しい運動習慣の獲得を指導するための基礎について理解し、運動を処方するために必要な知識を身につけるとともに、対象者にあった運動プログラムの作成ができる能力を身につける。

到達目標

- ①安全で効果的な運動プログラムを作成するための基礎知識を身につける。
- ②運動実践プログラムを作成できる。
- ③自作の運動プログラムを実践し評価改善ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 実力テスト
- 第2回 健康づくりのための運動指針 2013 生活習慣病の予防・改善について理解する
- 第3回 健康づくりのための運動指針 2013 アクティブガイド 2013 の実践方法を知る
- 第4回 子どもの運動と親子エクササイズについて理解する
- 第5回 トレーニング総論（トレーニングの目的・条件・原則及び体力とトレーニングの関係）
- 第6回 有酸素機能（全身持久力・筋持久力）、有酸素性トレーニングについて理解する
- 第7回 無酸素性機能（筋力・パワー）無酸素性トレーニングについて理解する
- 第8回 神経機能（敏捷性・スピード・バランス）と、動作について理解する
- 第9回 ウォーミングアップとクーリングダウン理論と実践
- 第10回 トレーニング計画の作成について理解する
- 第11～14回 初動負荷トレーニングについての知識を学び、実践する
- 第15回 評価 筆記試験

評価方法

授業レポート 50% 筆記試験 50%

使用教材

健康運動実践指導者養成テキスト及びパワーポイントによる作成資料を配布する

授業外学習の内容

毎授業開始時に小テストを実施するので、復習してくる事

備考

運動指導の心理学的基礎（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

入澤孝一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 選択必修 1単位

講義目標

運動実践指導者として必要な社会・心理・環境要因と運動の実践によって得られる心理的、社会的効果について理解する。行動変容理論やコーチングについての知識を身につけ運動を継続するための集団や個別指導の方法を習得する。

到達目標

- ①運動実践に関わる社会・心理。環境因子について理解する。
- ②行動変容理論やコーチングの理論について理解する。
- ③様々な状態の人に対する行動変容理論に基づいた運動プログラムを作成できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 授業概要・運動環境に関わる現状について理解する。
- 第2回 運動の心理・社会的効果について理解する。
- 第3回 行動変容理論モデル及び技法について理解する。
- 第4回 指導のミスマッチについて理解する。
- 第5回 コーチングスキルの概要をビデオ教材によって理解する。
- 第6～7回 コーチングスキルを実践し理解を深める。
- 第8回 運動継続（行動変容）のためのサポートについて理解する。
- 第9回 集団指導の方法、技術を習得する。
- 第10回 個別指導における動機づけとカウンセリング方法について理解する。
- 第11～14回 様々な状態の人に対する行動変容プログラムを作成し発表する。（成人不活動者、肥満児、高齢者等）
- 第15回 筆記試験

評価方法

行動変容プログラム 30% 筆記試験 70%

使用教材

健康運動実践指導者養成テキスト

授業外学習の内容

毎授業の最初に前回授業内の小テストを実施するので、復習をしておく事

備考

エアロビックダンスの実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

梶田万里子

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年後期 選択必修 1単位

講義目標

健康体力づくりのための運動について基本的知識を身につける。
エアロビックダンスの特性と理論を理解し、正しい実演能力と指導能力を習得する。

到達目標

有酸素運動としてのエアロビックダンスの理論を学び、正しいステップや技術を身につける。また、健康運動として指導することができるようにする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス(筆記用具持参)エアロビックスの理論
- 第2回 エアロビックダンス実技 初級 ①
- 第3回 エアロビックダンス実技 初級 ②
- 第4回 ウォームアップの理論と実技
- 第5回 エアロビックダンス実技 中級 ①
- 第6回 エアロビックダンス実技 中級 ②
- 第7回 ウォームダウンの理論と実技
- 第8回 エアロビックダンス実技 上級
- 第9回 クールダウンの理論と実技
- 第10回 エアロビックダンス実技のまとめ
- 第11回 エアロビックダンスの指導法と実際 ①
- 第12回 エアロビックダンスの指導法と実際 ②
- 第13回 エアロビックダンスの指導法と実際 ③
- 第14回 エアロビックダンスの実際 まとめ ①
- 第15回 エアロビックダンスの実際 まとめ ②

評価方法

授業参加態度、実技、指導実習 80% レポート 20%

使用教材

自作プリントを作成配布、健康運動実践指導者テキスト

授業外学習の内容

健康運動実践指導者用テキスト、および養成用DVDを見て、予習しておくこと。(正しい動きを身につける)

備考

ジョギング・ウォーキングの実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

入澤孝一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年前期 選択必修 1単位

講義目標

ジョギング・ウォーキングの正しい動きに習熟するとともに、指導方法を習得する。また、有酸素運動による健康づくりの知識と適切な指導プログラム作成のための方法を習得する。

到達目標

- ①ジョギング・ウォーキングの技術に習熟し、指導できる能力を身につける。
- ②適切な運動プログラムを作成するための基礎知識を身につける。
- ③運動実践プログラムを作成できる。
- ④自作の運動プログラムを実践し評価・改善ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 授業概要・実技ビデオ 事前筆記テスト
- 第2回 ウォーキングの効果と特性、安全上の留意点について理解する
- 第3回 ウォーキングの基本的なフォームを習得し、指導方法を理解する。
- 第4回 自分のウォーキングフォームをビデオ撮影し、評価・改善する。
- 第5回 ～ 第6回 健康づくりの指針となっている1万歩ウォーキングを実践し、歩く速度や時間との関係、身体に感じる強度等についての知識を習得する。
- 第7回 ジョギングの効果と特性、安全上の留意点について理解する。
- 第8回 ジョギングの基本的なフォームについて習得し、指導方法を理解する。
- 第9回 自分のフォームをビデオ撮影し、評価・改善をする。
- 第10回 各自のジョギング速度と脈拍の関係を測定し、体力の現状把握の方法を理解する。
- 第11回 班別に様々な体力レベルに応じたウォーキング・ジョギング運動プログラムを作成する。
- 第12回 作成プログラムについてのプレゼンテーションを実施し相互評価する。
- 第13回 ジョギング・ウォーキングの指導方法について習熟する。
- 第14回 指導実技まとめ
- 第15回 まとめ

評価方法

実技試験 50% 筆記試験 50%

使用教材

健康運動実践指導者養成テキスト

授業外学習の内容

歩数計により、1週間の活動状況（歩数）測定を実施し、レポートを提出する。

備考

水泳・水中運動の実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

奥野章彦・入澤孝一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 選択必修 1単位

講義目標

水の性質を理解し水中での運動の利点、注意点などを理解する。運動実践指導者として必要なバイタルサインのチェックや衛生管理について習熟する。水中でのレジスタンス運動や有酸素運動及び各種泳法について習熟し同時に指導方法を習得する。

到達目標

- ①水中運動の注意点、バイタルサインのチェック方法、救急法について理解する。
- ②各種の水中レジスタンス運動に習熟し指導方法を習得する。
- ③各種の泳法を習得し指導方法を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 授業概要・水と体の衛生、安全対策について理解する。
- 第2回 水中運動療法について理解し、実施方法を習得する。
- 第3回 バイタルサインのチェック方法について理解し、水中運動療法について習熟する。
- 第4回 水中運動療法の指導の実際（各班で指導実践）
- 第5回 水中運動療法の指導に実践Ⅱ（各班での実践指導 評価）
- 第6回 各種の水中エアロビクス・レジスタンス運動について理解し実技を習得する。
- 第7回 各種の水中エアロビクス・レジスタンス運動について理解し実技を習得する。
- 第8回 各種の水中エアロビクス・レジスタンス運動プログラム作成し指導実践をする。
- 第9回 各種の水中エアロビクス・レジスタンス運動プログラムに沿って指導し指導力を身につける。
- 第10回 運動プログラム実技指導の評価。
- 第11回 各種泳法 自由形について習得する。
- 第12回 各種泳法 背泳ぎについて習得する。
- 第13回 各種泳法 平泳ぎについて習得する。
- 第14回 各種泳法 バタフライについて習得する
- 第15回 各種泳法の評価（得意種目の泳法評価）

評価方法

水中レジスタンス運動の実技 50% 泳法 50%

使用教材

健康運動実践指導者養成テキスト

授業外学習の内容

指定教科書を事前に読んでおく

備考

ストレッチおよび補強運動の理論と実際（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

入澤孝一・小山裕史

開講学科と時期・単位

理学療法学科 2年前期 選択必修 1単位

講義目標

健康運動実践指導者には、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力が求められる。そのために、ストレッチやレジスタンストレーニングの基本を学び適切なプログラムを構成できる能力、自ら動きの見本を示せる能力、治療できる能力を身につけることを目的とする。

到達目標

個別の筋肉について自信を持ってストレッチや筋力トレーニングを実施することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 上肢のID ストレッチ1
- 第3回 上肢のID ストレッチ2
- 第4回 自重負荷を用いた上肢ストレッチ
- 第5回 下肢のID ストレッチ1
- 第6回 下肢のID ストレッチ2
- 第7回 自重負荷を用いた下肢ストレッチ
- 第8回 体幹のID ストレッチ1
- 第9回 体幹のID ストレッチ2
- 第10回 自重負荷を用いた体幹ストレッチ
- 第11回 上肢のレジスタンストレーニング
- 第12回 下肢のレジスタンストレーニング
- 第13回 体幹のレジスタンストレーニング
- 第14回 プログラム作成
- 第15回 実技とまとめ

評価方法

- 1 基礎知識 40%
 - 2 指導プログラムの作成と指導方法 20%
 - 3 実技 40%
- の3観点による評価を実施する。

使用教材

【教科書】

健康運動実践指導者養成テキスト

【参考書】

鈴木重行編集「ID ストレッチング」4500円（三輪書店）

「アクティブID ストレッチング」4500円（三輪書店）

授業外学習の内容

- 解剖学の復習を良くしてから授業に臨むこと
- 友達とストレッチを行い練習しておくこと

救急処置（健康運動実践指導者取得に関する専門科目）

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

理学療法学科 1年後期 選択必修 1単位

講義目標

- ・心肺蘇生法について説明できる。さらに実践できる。
- ・RICE 処置について説明できる。さらに実践できる。
- ・熱中症とその応急処置について説明できる。
- ・ショックとその応急処置について説明できる。
- ・外傷とその応急処置について説明できる。
- ・打撲、捻挫、骨折とその応急処置について説明できる。
- ・テーピング処置について説明できる。さらに実践できる。

到達目標

運動実践指導時に出会い得る身体的トラブルの基礎とその対応法について学習する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 救急処置序論
- 第 2 回 救急処置の基本(観察や問診の取り方、バイタル等)
- 第 3 回 救急処置の基本(意識状態、処置体位、呼吸補助等)
- 第 4 回 心肺蘇生法(気道確保・人工呼吸等)
- 第 5 回 心肺蘇生法(心臓マッサージ、AED)、窒息と救急処置
- 第 6 回 RICE 処置 (1)
- 第 7 回 RICE 処置 (2)
- 第 8 回 熱中症と応急処置
- 第 9 回 ショックと応急処置
- 第 10 回 頭部・頸部外傷と応急処置
- 第 11 回 外傷と処置の基礎
- 第 12 回 突き指、骨折、捻挫と応急処置
- 第 13 回 テーピング (1)
- 第 14 回 テーピング (2)
- 第 15 回 救急処置まとめ

評価方法

筆記試験、授業参加度状況、学習態度による総合評価

使用教材

スポーツ指導者のためのスポーツ医学南江堂
写真と動画でわかる一次救命救急学研

授業外学習の内容

教科書に付属する DVD 等を用いて予習・復習をすること。

備考

健康運動実践指導者として必要な救急処置基礎知識と技術を学ぶものである。
常に医療専門職として恥ずかしくない対応ができるよう学習し、救急処置ができるようにする。